領收證書

何年度

何郡市何町村大字何何番地
何　某納

一金　何程

何年何期分
何　稅（目）

【明治】何年何月何日領收

日本銀行何店　印

備考

一　同一納期ノ畑租及雜地租ハ之ヲ竝記シ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノトス

二　（削除）

三　收稅官吏本書ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス

四　收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

第九號書式

用紙適宜　縱四寸五分　橫三寸三分　三枚接續

納付書

何年度

何郡市何町村大字何何番地
何　某納

大藏省主管　何稅務署　雜收入

免許及手數料
雜入

一金　何程

手數料
延滯金

一金　何程

【明治】何年何月何日

通知書

何年度

何郡市何町村大字何何番地
何　某納

大藏省主管　何稅務署　雜收入

免許及手數料
雜入

一金　何程

手數料
延滯金

一金　何程

【明治】何年何月何日領收

日本銀行何店　印

（又ハ）收入官吏

官氏名　印

領收證書

何年度

何郡市何町村大字何何番地
何　某納

一金　何程

手數料
延滯金

一金　何程

【明治】何年何月何日領收

日本銀行何店　印

（又ハ）收入官吏

官氏名　印

備考

一　（削除）

二　收稅官吏本書ニ依リ督促手數料、延滯金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス

三　收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

四　督促手數料、延滯金ニシテ租稅ト所屬年度ノ同一ナルモノハ第八號書式納付書中ニ科目及金額ヲ竝記兼用シ本書式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得

第十號書式

債權差押通知書

何府縣何郡市何町村大字何何番地
債權者　何　某

何府縣何郡市何町村大字何何番地
債權者　何　某　延滯金及滯納處分費金何程徵收ノ爲【明治】何年何月何日債務者ヨリ支拂フヘキ何々金何程（又ハ金何程ノ內金何程）ヲ差押フルニ付【明治】何年何月何日迄ニ本官ニ支拂フヘキモノトス

此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其支拂ハ無效タルヘシ

右通知候也

【明治】何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
何稅務署長
官　氏　名　㊞

何　某　宛

備考

一　債務者官廳ナルトキハ其ノ支出官ノ官氏名、法人ナルトキハ其ノ法人ノ名ヲ記入スルモノトス

二　債權ノ目的カ金錢以外ノモノナルトキハ其ノ名稱數量其他重要ナル事項ヲ明記スルモノトス

第十一號書式

何々權差押通知書

一差押財產權ノ表示

（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

何年度何稅何期分滯納金何程督促手數料及延滯金何程徵收ノ爲前記ノ財產ヲ差押フルモノ也

右通知ス

【明治】何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何何番地
何稅務署長
官　氏　名　㊞

（權利者）何　某　宛

第十二號書式

差押調書

一差押財產ノ表示

（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

右何年度何稅何期分滯納金何程督促手數料、延滯金何程徵收ノ爲何月何日（本人「又ハ本人不在ニ付何某」立會ノ上）前記ノ財產ヲ差押フルモノ也

【明治】何年何月何日何所ニテ此ノ調書ヲ作ル

何稅務署
官　氏　名　㊞

何府縣何郡市何町村大字何何番地
滯納者　何　某

何府縣何郡市何町村大字何何番地
立會人　何　某　㊞

備考

一　滯納者其ノ他立會人ヲシテ差押財産ノ保管ヲ爲サシムルトキ若クハ立會人ニ本書ノ謄本ヲ交付シタルトキハ保管又ハ受領ノ旨ヲ本書ノ末尾ニ記載セシメ署名捺印ヲ徵シ保管證又ハ受領證ニ代フルコトヲ得

第十三號書式

送達書	
送達シタル書名通數	
名宛人ノ住所又ハ居所及氏名	
受取人ノ署名捺印	
送達シタル年月日	
受取人ナキトキ又ハ受取人受取若ハ署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其ノ理由	

右ノ通取扱候也

使丁何　某㊞

第十四號書式

計算書

收入			支出		
種目	金額		種目	金額	
通貨	一〇〇〇		督促手數料	一〇〇	

何々公賣代	三九〇〇〇	延滯金	二〇〇
何々公賣代	一〇〇〇	滯納處分費	二〇〇
		債權者（優先權者）ヘ交付	一〇〇〇〇
		稅金	三四〇〇〇
		債權者ヘ交付	五〇〇
		滯納者ヘ還付	五〇〇
計	五〇〇〇〇	計	五〇〇〇〇

右ノ通候也

【明治】何年何月何日

何稅務署長

官氏名㊞

●政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件

勅令第三百七十四號　大正十年八月八日

改正　大正一一年第一三二號

政府ニ於テ物件ヲ賣拂フトキハ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ代金ノ延納ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ擔保ノ必要ナシト認ムルトキハ特ニ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

延納ヲ許スコトヲ得ル場合、延納期間及擔保ヲ免除スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但

シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年勅令第二百十一號（製鐵所製品賣拂代金延納ニ關スル件）
明治四十年勅令第百六十五號（輸出製造煙草買受代金延納ニ關スル件）
明治四十一年勅令第二百六十九號（砲兵工廠製品代金延納ニ關スル件）
明治四十二年勅令第二百五號（朝鮮總督府營林廠木材及製品賣拂代金延納ニ關スル件）
明治四十二年勅令第二百十八號（北海道國有林野及未開地竝其ノ產物賣拂代金延納ノ件）
明治四十二年勅令第三百十八號（國有林野產物及製品賣拂代金延納ノ件）
明治四十三年勅令第十一號（樟腦樟腦油ノ賣渡代金延納ニ關スル件）
明治四十三年勅令第二百四號（樺太廳ニ於ケル生產物賣拂代金延納ノ件）
明治四十四年勅令第二百二十一號（朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル度量衡器等賣拂代金延納ニ關スル件）
大正二年勅令第二百八十二號（臺灣總督府營林局木材及製品賣拂代金延納ニ關スル件）
大正五年勅令第百九十四號（帝國大學資金所屬森林ノ產物及製品賣拂代金延納ニ關スル件）

本令施行前提供シタル國債以外ノ擔保ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件

勅令第二百八十七號　明治四十一年十一月二十八日

改正　明治四五年第一三六號

政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債、帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ハ其ノ債券金額ニ依ル

明治三十八年勅令第二十號（擔保トシテ政府ニ納ムヘキ國債證券ノ價格算定ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

●保證金トシテ既納ニ係ル國債以外ノ有價證券ヲ大正十五年三月迄有效トスル件

勅令第五百八十號　大正九年十二月二十八日

【會計規則第六十九條、第百三條乃至第百五條中「公債證書」ヲ「國債」ニ改ム】

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年勅令第二百八十三號（勸業債券、興業債券、拓殖債券又ハ貯蓄債券ハ會計規則第六十九條及第百三條ノ保證金ニ使用スルコトヲ得ルノ件）ハ之ヲ廢止ス

本令施行前納付シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

勅令第三百四十號　明治四十三年九月七日

改正大正九年第五八一號

入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徵スヘキ規定ナキ場合ニ於テモ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債（有價證券トアリタルヲ國債ニ改ム）ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得

落札者契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年十二月二十八日勅令第五百八十一號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前納付シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●諸收入收納取扱規程

大藏省訓令第二十七號　明治三十三年四月六日

改正　明治三三年第六二號、三四年第一二號、第二〇號、三五年第四六號
四一年第二三號、四三年第一七號、大正一一年第一〇號

第一條　警視廳北海道廳府縣稅關稅務監督局及稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ但監獄ノ收入ハ此限ニ在ラス

第二條　歲入徵收官ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以內ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人ヲシテ收入官吏ニ卽納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス

第三條　歲入徵收官ハ其所屬部署長、官立學校長【及北海道廳所管鐵道各驛主席官吏】ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ

第五條　歲入徵收官ハ納金ヲ其期限內ニ納付セサルモノアルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲナスヘシ

第六條　（削除）

第七條　歲入徵收官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計突合表ヲ添ヘ稅務署長ハ翌月五日マテニ其ノ他ハ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ

稅務監督局長前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ其月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第八條　諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之レヲ定ムヘシ

第九條　本規程中歲入徵收官ニ關スル規程ハ北海道支廳長及北海道營林區署長ノ提出スル徵收報告書ハ北海道廳ヲ經由スヘシ

北海道廳長官前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ大藏省ニ送付スヘシ

（別表書式）

備考

一　領收證書及報告書（通知書）用紙ノ納入金額納入年度種類等ハ總テ納入告知書發行廳ニ於テ記入セルモノトス

二　歲入徵收官ト同一官廳內ニ在ル收入官吏ノ領收濟報告ハ納入告知書ニ領收濟年月日ヲ記入捺印シテ之ニ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得

用紙適宜　縱四寸五分　橫三寸三分　ノモノ二枚　縱四寸五分　橫二寸五分　ノモノ一枚接續

第	「何」	號	「某」	年	度	「何」郡 市 「何」町 村 「何某」納
經常（臨時）	「何　々（款）」		「何　々（項）」		「何　々（目）」	
大藏省主管	「取扱　廳　名」		歲入徵收官「某氏名」			

納入告知書

一金何程

「但何々」（收入ノ目的ヲ記載ス）

右（何）年（何）月（何）日限リ收入官吏官氏名又ハ日本銀行何店「又ハ日本銀行本店、支店又ハ代理店」ヘ納付スヘシ

【明治】何」年「何」月「何」日

納入告知書發行者　官　氏　名　㊞

報告書
（日本銀行ハ通知書）

第「何」號　「某」　年　度

經常（臨時）　「何々（款）」　「何々（項）」　「何々（目）」　大藏省主管取扱廳名

一金何程

右領收濟ニ付報告（日本銀行ハ通知）候也

【明治】「何」年「何」月「何」日

「歲入徵收官氏名宛」

「收入官吏官氏名」　印
又ハ「日本銀行何店」　印

領收證書

第「何」號　「某」　年　度

「取扱廳名」　「何」郡　市「何」町　村「何某」納

一金何程

「但何々」

右領收候也

【明治】「何」年「何」月「何」日

「收入官吏官氏名」　印
又ハ「日本銀行何店」　印

●租稅外諸收入金整理ニ關スル法律

法律第五十八號　明治四十四年四月一日

第一條　政府ノ貸付金ヲ除クノ外租稅外諸收入金ニシテ納人無資力ノ爲一時ニ收納スルコト困難ナル場合ニ於テハ之ヲ分賦辨濟ノ方法ニ依ル定期貸トシ又ハ資力回復ノ時ヲ辨濟ノ期限トスル据置貸トシ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ定期貸ニ付テハ最後ノ辨濟期ヨリ据置貸ニ付テハ貸付ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタル場合ニ於テ債務者無資力ニシテ資力回復ノ見込ナシト認ムルトキハ其ノ債務ヲ免除スルコトヲ得

附　則

第二條ノ規定ハ本法施行ノ際現存スル雜種貸及据置貸ニ之ヲ準用ス

●租稅外諸收入金整理ニ關スル法律施行規則

勅令第百二十一號　明治四十四年四月二十日

第一條　明治四十四年法律第五十八號第一條ノ規定ニ依リ定期貸又ハ据置貸ト爲ス場合ニ於テハ所管大臣之カ編入ヲ爲スヘシ但シ【鐵道院】ニ在リテハ【鐵道院總裁】、朝鮮總督府ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣總督府ニ在リテハ臺灣總督、關東【都督府】ニ在リテハ關東【都督】、樺太廳ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ爲スヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ編入シタル定期貸又ハ据置貸ニシテ一般會計ニ屬スルモノハ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ其ノ特別會計ニ屬スルモノハ之ヲ大藏大臣ニ引繼キ一般會計ニ移屬セシムルコトヲ得

前項ノ引繼ヲ爲スニハ債務者ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ニ關係書類ヲ送付シ必要ノ事項ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第三條　大藏大臣ニ引繼キタル定期貸及据置貸ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ地方長官之ヲ管理スヘシ

第四條　債務者ノ住所カ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ在ル場合ニ於テハ地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮總督、臺灣總督、關東【都督】又ハ樺太廳長官ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●貸付金取扱規程

大藏省令第十七號　明治四十四年四月二十一日

第一條　明治四十四年勅令第百二十一號第二條ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ引繼キタル貸付金及本令施行ノ際現存スル雜種貸竝據置貸ハ本令ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　貸付金ハ定期貸及據置貸ニ區別シテ之ヲ整理スヘシ

本令施行ノ際現存スル雜種貸ハ定期貸トシテ之ヲ整理スヘシ

第三條　貸付金ハ前條ノ區別ニ依リ甲號書式ノ臺帳ヲ備ヘ債務ノ原因、編入年月日、金額、辨濟期限及債務者保證人ノ住所氏名等ヲ之ニ登記スヘシ

前項ノ登記事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ訂正スヘシ

第四條　定期貸ニ付テハ其ノ期限ノ到來シタルトキ收納ノ手續ヲ爲シ據置貸ニ付テハ每年度ノ終ニ於テ債務者ノ所在及資產ノ實況ヲ調査シ債務ノ全部又ハ一部ヲ返納シ得ヘキ資力ヲ生シタリト認ムルトキ收納ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　貸付金ノ辨濟期限又ハ分賦額其ノ他契約ノ內容ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ事實ヲ具申シ大藏大臣ノ認可ヲ得ヘシ但シ辨濟期ヲ短縮スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　明治四十四年法律第五十八號第二條ニ該當スルモノト認ムルトキハ其ノ事實ヲ具申シ大藏大臣ノ認可ヲ得テ臺帳ヨリ削除スヘシ

時效其ノ他ノ事由ニ因リ債務消滅シタル場合亦前項ニ同シ

第七條　債務者他管內ニ住所ヲ移シタルトキハ其ノ所轄廳ヘ關係書類ト共ニ貸付金管理ノ引繼ヲ爲スヘシ

第八條　左ニ揭クル場合ニ於テハ乙號書式ニ依リ三箇月每ニ異動報告書ヲ調製シ翌月（四月、七月、十月、一月）十五日限大藏省ニ送付スヘシ

一　新規編入、收納又ハ削除アリタルトキ

二　第五條ニ依リ契約ノ內容ニ變更アリタルトキ

三　相續又ハ債務者氏名ノ變更アリタルトキ

四　第七條ニ依リ引繼又ハ引受ヲ爲シタルトキ

第九條　貸付金ニ關スル證書類ハ明治二十六年八月大藏省訓令第千百九十八號預金局保管證書保管規則ニ準據シ之ヲ保管スヘシ

第十條　第三條ノ臺帳ニ基キ每年度末ノ現在額ヲ取調內號書式ノ報告書ヲ調製シ翌年度四月十五日限大藏省ニ送付スヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年勅令第百二十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年十二月大藏省訓令第七十七號諸貸付金取扱規程ハ之ヲ廢止ス

甲號書式（本簿ハ種目別ニ調製シ末尾ニ合計ノ口座ヲ設クルモノトス但シ便宜合冊トナスコトヲ妨ケス）

（第　號）

債務原因	編入年月日	金額	辨濟期限	年月日	摘要	收納金額	削除金額	未收入金額
						円	円	円

住所
債務者　氏名
住所
保證人　氏名

備考

一　他官廳ヨリ引受ヲ爲シタルトキハ未收入金額欄ニ記入スヘシ

二　他官廳ニ引繼ヲ爲シタルモノハ其ノ引受ノ通知アリタルトキ削除金額欄ニ朱書ヲ以テ記入スヘシ

乙號書式

【明治】何年　自何月　至何日　貸付金異動報告書

種目	金額	事由	債務者（保證人）住所氏名
定期貸	円		
据置貸			

右及報告候也

年　月　日

道廳長官又ハ府縣知事　氏名　印

大藏大臣宛

丙號書式

【明治】何年度末貸金現在額報告書

種目	前年度繰越額	新規編入額	計	收入額	削除額	計	殘額
定期貸	円	円	円	円	円	円	円
据置貸							

右及報告候也

年　月　日

道廳長官又ハ府縣知事　氏名　印

大藏大臣宛

備考

一　本表新規編入額ニハ新ニ編入シタルモノ其ノ他引繼ヲ受ケタルモノヲ合算シ又削除額ニハ免除處分ヲ爲シタルモノ時效又ハ絕家等ニ因リ消滅シタルモノ及引繼ヲ爲シタルモノヲ合算スルモノトス

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

勅令第四百三十九號　大正十二年十月九日

第一條　內閣恩給局長ハ國庫ヨリ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ對シ請求スヘキ各經濟別恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ

其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ各經濟毎ニ仕譯書二通ヲ作成シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ對シ仕譯書一通ヲ添附シタル思給金額分擔請求通知書ヲ發シ同時ニ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟前條ノ規定ニ依ル恩給金額分擔請求通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ內閣恩給局長ニ送付スヘシ

內閣恩給局長前項ノ分擔請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ同年九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條　大藏大臣前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第五條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫以外ノ他ノ經濟ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之カ請求ヲ爲シタル當該經濟ニ交付スヘシ

第六條　前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタル經濟ハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之カ請求ヲ爲シタル當該經濟相互間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲ストキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタル官廳ハ裁定後直ニ普通恩給又ハ扶助料ノ分擔請求ヲ受クヘキ經濟ニ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ其ノ裁定ノ要項ヲ通知スヘシ

第七條　國庫ト府縣其ノ他國庫以外ノ經濟トノ間又ハ國庫以外ノ經濟相互間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲スモノトス

前項ノ場合ニ於テ國庫ニ對スル通知ハ內閣恩給局長ニ宛テ之ヲ爲スモノトス

第八條　內閣恩給局長以外ノ官廳カ國庫ヨリ支給スヘキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

內閣恩給局長カ國庫以外ノ經濟ヨリ支給スヘキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ當該經濟ニ通知スヘシ

第九條　前二條ノ規定ニ依リ通知シタル裁定ノ要項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ通知スヘシ

普通恩給權又ハ扶助料權ノ消滅シタル場合亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ履歷書ノ添附ヲ要セス

第十條　文官、教育職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受クル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

第十一條　文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ國庫納金ヲ控除シタルトキハ之ニ其ノ計算ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添附シ毎翌月十日迄ニ之ヲ歲入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ納付スヘシ

第十二條　待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リテ控除シタル納金ハ當該經濟ノ定ムル所ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　轉任、轉職、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ百分ノ一ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ每年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第十五條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ每年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十六條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ恩給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十七條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付テハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

一　官吏遺族扶助法納金收入規則（明治二十三年七月十四日勅令第百二十五號）

一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則（明治二十五年一月十二日勅令第五號）

一　明治四十五年勅令第七十一號（朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ國庫納金ノ收入ニ關スル件）

本令施行前內閣總理大臣以外ノ官廳カ裁定シタル國庫支辨ノ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ權利ノ存續スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遲滯ナク裁定ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付之ヲ準用ス

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

大藏省令第三十號　大正十二年十二月七日

第一條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書ハ別紙第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第三條及第五條ニ規定スル恩給金額分擔請求書及仕譯書ハ前項ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書及仕譯書ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第二條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條第一項ノ出納官吏國庫納金ヲ控除シタル場合ニ於テハ收入官吏トシテ總テ其ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第三條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第一項ノ規定ニ依リ俸給ノ支拂ヲ爲ス官吏又ハ吏員ノ控除シタル國庫納金ハ出納官吏事務規程附屬第五號書式ニ準シタル仕譯書ヲ添ヘ之ヲ歲入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ納付スヘシ

第四條　收入官吏前條ノ規定ニ依リ國庫納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ所定ノ現金領收證書ヲ交付シ現金出納簿ノ登記報告等其ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第五條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十三條ノ規定ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ返納額ノ百分ノ一ヲ控除シタル殘額ニ付返納告知書ヲ發シ返納手續ヲ爲サシムヘシ

第六條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十四條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫ニ納付スヘキ金額ニ付テハ歲入徵收官ハ其ノ計算ヲ明ニシタル適宜ノ報告書ヲ徵シ一般歲入金徵收ノ例ニ依リ當該經濟ニ對シ納入告知書ヲ發シ日本銀行ニ納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第七條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ノ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添附シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規定ニ依ル收入金ハ大藏省主管トシ諸收入收納取扱規程ニ依リ之カ整理ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

左ノ大藏省訓令ハ之ヲ廢止ス

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序（大正十一年大藏省訓令第二十三號）

第一號書式

恩給金額分擔請求通知書

一金

右大正何年分恩給金額分擔額及請求候條國庫ニ送付相成度別紙仕譯書添附及通知候也

年　月　日

何廳官職氏名宛

內閣恩給局長

第二號書式

何廳　恩給金額分擔請求仕譯書（普通恩給又ハ遺族扶助料）　何年分

摘要	金額	備考
文官　何名ノ分	円	
何某外何名ノ分	0	
軍人		
何某外何名ノ分	0	
警察監獄職員		
何某外何名ノ分	0	
教育職員		
何某外何名ノ分	0	
待遇職員		
何某外何名ノ分	0	
合計		

備考　仕譯書ハ普通恩給ト遺族扶助料トニ分チ之ヲ記載スヘシ

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律

法律第十號　大正五年三月七日

第一條　租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシトキハ命令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル證券ノ處分ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ關稅又ハ噸稅ヲ初ヨリ納付ナカリシモノト看做シテ徵收スル場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ內國稅徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條　本法ニ依リ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得

市町村其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ證券金額ノ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其ノ事實ヲ具シ政府ニ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ政府ハ事實ヲ審査シ市町村ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第四條　本法中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正五年勅令第二百五十四號ヲ以テ大正六年一月一日ヨリ施行）

●歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

勅令第二百五十六號　大正五年十二月二十一日

改正　大正一一年第一六五號

第一條　大正五年法律第十號ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ揭クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル

一　小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノ

二　無記名國債證券ノ利札ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

三　宮內省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納入ノ爲發行シタルモノ

四　郵便通常爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

前項ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有效期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絕スルコトヲ得

證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦前項ニ同シ但シ支拂場所カ受領者ノ拂込又ハ送付ヲ爲ス日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　證券ヲ呈示期間內又ハ有效期間內ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絕アリタルトキハ歲入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス

第三條　前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滯ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所、居所不明ナルトキハ通知書記載ノ要旨ヲ公告スヘシ

第一項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム

第六條　大藏大臣ハ證券ノ金額、種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得

主管大臣ハ前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタルモノノ外主管歲入ノ納付ニ付更ニ制限ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條　市町村ニ於テ大正五年法律第十號第三條第二項ノ規定ニ依リ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主管大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ主管大臣ニ送付スヘシ

第八條　本令中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

第九條　本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ第六條第二項ノ場合ニ於テハ主管大臣ヲ經由スルコトヲ要ス

本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年勅令第三十四號（租稅其他ノ歲入金ノ代用證券取扱ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十一年三月三十一日勅令第百六十五號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前政府ノ發シタル仕拂命令、仕拂請求書又ハ保管金引出切符ハ本令施行後一年間仍從前ノ例ニ準シ租稅其他ノ歲入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得

●歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル勅令第二百五十六號第六條第一項ニ依ル證券ノ納付ニ關スル制限

大藏省令第三十號　大正五年十二月二十一日

改正　大正一一年第三四號

第一條　政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日付ヨリ一年ヲ經過セサルモノニシテ且裏書禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス

前項以外ノ小切手ハ左ニ揭クル銀行ニ宛テタルモノニシテ且振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

一　特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行（本店及支店）

二　手形交換所ニ加入シタル銀行（當該本店若ハ支店ニ限ル第三號乃至第五號之ニ倣フ）

三　國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行

四　道府縣本金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行

五　朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫、廳地方費金取扱所又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行

六　第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店

第二條　第一條第二項ノ規定ニ依ル小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一口ノ歳入納付ニ使用スル其ノ合計金額百圓以上ナルトキハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス

一　日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ

二　歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ

歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歳入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直ニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限リ前項第二號ノ承認ヲ與フルコトヲ得

第三條　爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行（當該本店若ハ支店ニ限ル）ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

第四條　爲替手形ハ日本銀行ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

大藏省令第三十二號　本正五年十二月二十一日

改正　大正一一年第三六號

第一條　證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ之ヲ納付スヘシ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ之ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條　出納官吏（出納員ヲ含ム以下同シ）、日本銀行又ハ市町村（北海道及沖繩縣ノ區、朝鮮ノ府面、臺灣ノ區長ヲ含ム以下同シ）ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ歳入金ノ領收證書、歳入徵收官ニ對スル領收濟報告書又ハ領收濟通知書ニ「證券受領」ノ印章ヲ押捺スヘシ歳入金ノ一部分ヲ證券ヲ以テ受領シタル場合ニ於テハ其ノ證券金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第三條　受領シタル證券ハ遲滯ナク其ノ支拂人ニ呈示シ支拂ノ請求ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ市町村ノ受領シタル證券ニシテ左記各號ノ要件ヲ具フルモノハ其ノ裏面ニ第一號樣式ノ朱印ヲ押捺シ第二號樣式ノ仕譯書ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得

一　持參人ニ支拂ハルヘキモノニシテ其ノ支拂場所カ日本銀行本店、支店又ハ代理店所在地ニ在ルモノ

二　日本銀行ニ到達後呈示期間又ハ有效期間ノ滿了迄ニ三日以上ノ餘裕アルモノ

出納官吏支拂保證ヲ要セサル旨ノ承認ヲ得タル納人ヨリ支拂保證ナキ小切手ヲ受領シタル場合ニ於テ之ヲ日本銀行ニ拂込ムトスルトキハ其ノ裏面ニ「無保證承認」ノ朱印ヲ押捺スヘシ

第四條　出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ル證券中前條規定ノ印章ヲ押捺セサルモノアルトキハ日本銀行ハ之カ受領ヲ拒絕スヘシ

第五條　大正五年勅令第二百五十六號第二條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ直ニ其ノ支拂ナカリシ金額ニ相當スル領收濟額ヲ取消スヘシ領收濟額ヲ取消シタル出納官吏又ハ日本銀行ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ歳入徵收官（分掌官ヲ含ム）ニ報告スルコトヲ要ス

出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ルモノニ付領收濟額ヲ取消シタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

村ニ通知シ該證券ヲ返付スヘシ

出納官吏又ハ市町村前項ニ依リ證券ノ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ收入濟額ヲ取消スヘシ

第六條　歳入徵收官（分掌官ヲ含ム以下同シ）ニ於テ出納官吏又ハ日本銀行ノ領收濟額ヲ取消スヘシ

歳入徵收官收入濟額ヲ取消シタルトキハ納人ニ對シ前ニ發付又ハ交付シタルモノト同一納期日ノ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ヲ送付スヘシ但シ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタル日カ歳入金ノ納期日又ハ督促狀若ハ督促書ノ指定期日後ニ屬スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　前項ノ規定ハ市町村ニ於テ領收濟額ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　大正五年勅令第二百五十六號第三條ノ通知書ハ納人ヨリ證券ヲ受領シタル出納官吏、日本銀行又ハ市町村之ヲ發スヘシ

前項通知書ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル公告ハ官報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ但シ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ノ揭示場ニ七日間揭示シテ之ニ代フルコトヲ得

第八條　支拂ナカリシ證券ノ還付ヲ受ケムトスル納人ハ其ノ證券ヲ納付シタル官署、日本銀行又ハ市町村役場ニ就キ之カ請求ヲ爲スヘシ

出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ領收證書ヲ徵シ之ト引換ニ證券ヲ還付スヘシ

第九條　郵便ニ依リ納付シタル證券ニシテ受領スヘカラサルモノ又ハ受領シタル證券ニシテ僞造、變造若ハ違式ナルモノニ付テハ第五條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條　證券ノ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタルカ爲支拂ヲ受クルコトヲ得サルトキ又ハ證券ヲ亡失シタルトキハ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ハ證券ノ種類ニ從ヒ直ニ當該法規ノ定ムル所ニ依リ必要ナル手續ヲ爲シ支拂又ハ償還ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判上ノ行爲ヲ必要トスルトキハ出納官吏在勤官署ニ在リテハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル所屬官廳ニ、日本銀行ニ在リテハ大藏大臣ニ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シテ之カ處理ヲ申請スヘシ

市町村ハ第一項ニ依リ支拂又ハ償還ヲ受クルニ先タチ之ニ相當スル金額ヲ日本銀行ニ送付スルコトヲ得

第十一條　亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サリシモノノ金額ニ付テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ避クヘカラサル事由ヲ證明スルニアラサレハ其ノ責任ヲ免カルルコトヲ得ス

第十二條　歳入徵收官ニ於テ大正五年大藏省令第三十號第二條ニ依リ承認ヲ爲ストキハ納稅告知書、納入告知書、拂込通知書又ハ卽納通知書ヲ用キルモノニ在リテハ其ノ餘白ニ第三號樣式ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十三條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

市町村ハ受領證券仕譯簿ヲ備ヘ納入別ニ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十四條　鐵道、郵便電信電話官署ノ出納官吏ニ於テ受領シタル證券ニシテ第三條第一項但書ニ該當スルモノハ之ヲ日本銀行ニ預託シ又ハ郵便局過超金ノ振換拂込ニ充用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ拂込マレタル預託金又ハ郵便局過超金ニ付テハ日本銀行ハ其ノ證券ヲ現金ニ引換ヘタル後ニ非サレハ預託金領收證書又ハ郵便局過超金領收證書ヲ交付スル事ヲ得ス

第一號書式

「何官署」「何市町村扱」

字體楷書
寸法曲尺縱一寸橫五分

第二號書式

用紙適宜　輪廓寸法曲尺縱四寸五分橫三寸三分

號第　證券仕譯書

種類	枚數	額面金券
小切手		圓
札利ノ券證債國		
命令拂仕ノ省內宮		
金管保ノ省內宮引		
書證替爲ノ便郵		
合計		

年　月　日

官吏氏名　㊞

出納官署名何市町村長氏名　㊞

又ハ何官

備考

一　本書記載事項ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ出納官吏又ハ市町村長其ノ認印ヲ押捺スルモノトス

二　本書ハ正副二通ヲ作リ副本ハ拂込、預託又ハ送付金額ニ對スル日本銀行ノ領收證書ヲ添附シ置クモノトス

第三號書式

小切手ヲ以テ納付スル場合ニハ支拂銀行ノ支拂保證ヲ要セス

「何官署」

寸法　適宜
字體　楷書

大藏省訓令第十三號　大正五年十二月二十一日

改正　大正一一年第一六號

第一條　北海道廳、府縣、稅務監督局及稅務署ノ出納官吏又ハ市町村ニ於テ受領シタル證券ハ大正五年大藏省令第三十一號第三條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ除クノ外之ヲ郵便局ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大正四年大藏省令第一號第一條、第五條、第六條、第八條及大正五年大藏省令第三十二號第三條ノ規定ニ準據スルモノトス

前項ニ依リ拂込又ハ送付ヲ爲シタル證券ニシテ支拂ナカリシカ爲郵便局ヨリ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ郵便局ニ送付スヘシ

第二條　證券ノ受拂ニ關スル現金出納簿ノ記帳方ハ左記各號ニ依ルヘシ

一　證券ヲ納人ヨリ受領シタルトキ又ハ其ノ證券ヲ日本銀行若ハ郵便局ニ拂込ミタルトキハ之カ受拂ヲ登記スルモノトス

但シ摘要欄内ニ「證券」ノ文字ヲ附記シテ現金ト區別スルコトヲ要ス

二　大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ其ノ日ニ於テ受ノ欄ニ當該金額ヲ朱書登記スルモノトス但シ日本銀行又ハ郵便局ヨリ領收濟額取消ノ通知ヲ受ケタルモノナルトキハ受拂ノ各欄ニ登記スルコトヲ要ス

第三條　市町村ニ於テ大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ歲入金收納簿ノ當該納人ノ口座ニ其ノ金額事由及年月日ヲ朱書登記スルモノトス

第四條　歲入徵收官ニ對スル出納官吏又ハ日本銀行ノ領收濟額取消報告書ニハ年度、科目、金額、事由其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ出納官吏又ハ市町村ニ對スル日本銀行ノ領收濟額取消通知書ニ付亦同シ

第五條　出納官吏又ハ日本銀行ハ證券ノ種類、記號、番號、振出人及支拂人ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ其ノ受入、支拂請求、拂込又ハ還付ノ年月日ヲ記入整理シ證券ニ關スル一切ノ受拂ノ顚末ヲ明瞭ナラシムヘシ

市町村ニ於ケル受領證券仕譯簿ノ記帳整理方ハ前項ノ規定ニ準據スルモノトス

出納官吏又ハ市町村ヨリ拂込又ハ送付ヲ受ケタルモノニ付テハ郵便局ノ出納官吏及日本銀行ハ第一項ノ記入整理ヲ省略スルコトヲ得

●歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續

大藏省令第三十八號　大正十一年四月一日

第一條　歲入徵收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納稅告知書、納入告知書、拂込通知書、納付書又ハ送付書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該年度所屬歲入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ其ノ歲入金ニシテ郵便局ノ取扱ニ係リ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ歲入徵收官ハ直ニ日本銀行當該店ニ對シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　歲入徵收官出納官吏、取纏メ郵便局又ハ日本銀行ヨリ誤謬訂正濟ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ニ依リ其ノ訂正シタル月ニ於テ徵收簿ヲ訂正シ其ノ理由ヲ領收濟ノ報告書又ハ通知書ニ記載スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ノ月ノ徵收報告書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四條　甲廳歲入徵收官誤テ乙廳所管歲入金ヲ徵收シタル場合ニ於テハ甲乙兩廳歲入徵收官連署ノ上關係出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ對シ之カ更正ヲ請求スヘシ

前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　歲入徵收官當該年度出納閉鎖前歲入年度誤謬ノ訂正ヲ了セサル場合又ハ出納閉鎖後歲入年度ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ誤謬ノ儘據置整理シ其ノ事由及金額ヲ記載シ歲入事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

明治二十四年大藏省令第十一號（金庫ニテ現金領收後納額告知書現金拂込書及納付書記載年度ノ誤謬發見ノトキ訂正手續ノ件）ハ之ヲ廢止ス

●印紙ヲ以テスル歲入金納付ニ關スル件

勅令第百九十號　大正九年六月二十四日

改正　大正一二年第二三六號、同年第二八八號

第一條　政府ニ納ムヘキ手數料、罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費用、非訟事件ノ費用及少年法第六十一條ノ規定ニ依リ徵收スル費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ得但シ印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手數料ノ種目ハ主務大臣、

朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二條　法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歲入金ヲ納ムルトキハ收入印紙ヲ用ウヘシ

收入印紙ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條　收入印紙ハ郵便局所、郵便切手賣捌所又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク賣捌ニ關スル規程ハ遞信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官、關東廳所轄地域以外ノ支那ニ在リテハ外務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第四百五十三號

明治三十一年勅令第百四十號

明治三十二年勅令第二十六號

明治三十二年勅令第五十六號

明治三十八年勅令第二百二十七號

明治四十年勅令第三百四十二號

明治四十二年勅令第四十一號

第三節　支出

●支出官事務規程

大藏省令第一號　大正十一年一月十一日

第一章　總　則

第一條　支出官ハ本令ノ定ムル所ニ依リ支出ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條　支出官ハ支拂豫算ニ依リ定メラレタル日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ヲ以テ其ノ振出ス小切手ノ支拂店ト爲スヘシ

第三條　支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

各廳長官又ハ部局長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ揭載シタルトキハ前項ノ通知ヲ要セス但シ至急支拂ヲ要スル場合又ハ特ニ各廳長官若ハ部局長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　會計規則第四十二條ノ規定ニ依ル代理官ノ任免アリタルトキハ前條第一項ノ規定ニ準シ之カ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　支出官及其ノ代理官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第六條　支出官特別會計支拂元受高ノ內ヲ翌年度ノ支拂元受高ニ組入ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求スヘシ

第七條　支出官特別會計支拂元受高ノ內ヲ當該會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求シ振替受拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第八條　本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章　小切手ノ振出

第一節　總　則

第九條　支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ支拂金額、支拂店名及受取人ノ氏名ト共ニ其ノ小切手ノ持參人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキコト、振出ノ年月日及支拂地ヲ記載スルノ外年度、所管、會計名、經常臨時部別、款項及番號ヲ附記スヘシ

第十條　官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第十一條　支出官受取人ニ小切手ヲ交付シ支拂ヲ了シタルトキハ之カ領收證書ヲ徵スヘシ

第十二條　支出官本章ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出濟通知書ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第二節　隔地者ニ支拂ヲ爲サシムル爲振出ス小切手

第十三條　支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ債主ノ住所氏名及支拂場所等ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付スヘシ

第十四條　前條ノ場合ニ於テ數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ合計額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ記入ヲ爲シ第三號書式ノ金額氏名表ヲ添附スヘシ

第十五條　前二條ノ場合ニ於テ支出官ハ債主ノ爲最便利ナリト認ムル日本銀行ヲ支拂場所ト爲スヘシ但シ運輸交通不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得

第十六條　支出官第十三條又ハ第十四條ノ手續ヲ爲シタルトキハ第四號書式ノ歲出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ前條但書ノ規定ニ依リ支拂場所ヲ指定シタル場合ニ於テハ歲出金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付シ電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第十七條　支出官歲出金支拂通知書ノ送付ヲ爲シタル後債主ヨリ該通知書ヲ添ヘ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ歲出金支拂通知書ニ記載セル支拂場所ヲ訂正シ之ヲ債主ニ返付シ直ニ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第十八條　支出官電信送金ノ通知ヲ爲シタル後債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂未濟ナルコトヲ確メタルトキハ前條ノ規定ニ準シ電信ヲ以テ之カ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條　支出官外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第五號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ直ニ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ但シ電信送金ノ場合ニ於テ必要アリト認メタルトキハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第二十條　支出官外國ニ在ル債主ニ對シ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ前條ノ規定ニ準シ債主ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第三節　國庫內移換ノ爲ニ振出ス小切手

第二十二條　支出官他ノ會計ニ資金繰入ノ爲歲出ヲ支出セムトスル場合ニ振出ス小切手ハ之カ繰入ヲ要求スル當該官廳ヲ受取人トシ其ノ裏面ニ歲入年度、所管、會計名及取扱廳名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十三條　前條ノ場合ニ於テ其ノ振替ニ依ル受入濟ノ旨ヲ當該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ス日本銀行ニ至急通知スルノ必要アルトキハ其ノ旨ヲ記載シ別ニ「要電信通知」ノ印ヲ押捺スヘシ

第四節　俸給支拂、國庫納金及相殺ノ爲ニ振出ス小切手

第二十四條　支出官文官判任以上ノ者ニ俸給支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ國庫納金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ押捺シ其ノ裏面ニ歲入年度、所管、會計名及取扱廳名ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十五條　支出官民法ノ規定ニ依リ政府ノ債務ノ一部ニ付私人ノ債務トノ間ニ相殺アリタル場合ニ振出ス小切手ハ政府ノ支拂金額ヨリ相殺額ヲ控除シタル殘類ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ相殺額ニ相當スル金額ヲ券面金額トシ歲入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ押捺シ之ヲ當該相殺額ニ對スル納入告知書ニ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十六條　政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ支出官ハ其ノ相殺額ニ付前條第二項ノ手續ニ準シ小切手ヲ振出シ其ノ收納スヘキ金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ其ノ超過額及相殺ノ相手方氏名ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三章　定額戻入

第二十七條　支出官會計規則第八十二條ノ規定ニ依リ經費ノ定額ニ戻入ヲ爲サムトスルトキハ返納人ニ對シ第七號書式ノ返納告知書ヲ發スヘシ

第四章　證　明

第二十八條　支出官小切手ノ支拂店ヨリ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ歲出金月計突合表又ハ歲出支拂未濟繰越金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ小切手ノ支拂店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ

其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第五章　雜　則

第二十九條　支出官其ノ振出シタル小切手又ハ第二十七條ニ規定スル返納告知書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ小切手ノ支拂店ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第三十條　支出官第十三條、第十九條乃至第二十二條及第二十四條ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ小切手ノ支拂店ニ對シ之カ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ第十四條ニ規定スル金額氏名表中金額以外ノ誤謬訂正ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　支出官歲出金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得

支出官前項ノ訂正ヲ爲サムトスルトキハ受取人ヲシテ該歲出金支拂通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第三十二條　支出官第十六條ノ規定ニ依リ受取人ニ送付シタル歲出金支拂通知書ニシテ受取人ノ受領前亡失シ日本銀行ニ於テ其ノ支拂未濟ナルコトヲ確メタルトキハ之カ支拂ヲ停止セシメ更ニ歲出金支拂通知書ヲ調製シ表面餘白ニ「再發行」ノ印ヲ押捺シ之ヲ受取人ニ送付シ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第三十三條　支出官受取人ノ受領前亡失シタル歲出金支拂通知書ニ依リ日本銀行既ニ支拂ヲ爲シタルコトヲ確メタルトキハ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付スヘシ

支出官大藏大臣ヨリ支拂ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十四條　受取人支出官ヨリ送付ヲ受ケタル歲出金支拂通知書ノ請求ヲ爲シ且支拂未濟ナルトキハ當該日本銀行ヲ經由シ支出官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆書ニハ歲出金支拂通知書ニ記載シタル金額、番號、年度、發行官廳及支拂場所ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ歲出金支拂通知書ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　支出官前條ノ屆書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ支拂ヲ要スルモノト認メタルトキハ第三十二條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十六條　第三十三條ノ規定ハ受取人ノ亡失シタル歲出金支拂通知書ニ依リ既ニ支拂ヲ受ケタル者アル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十七條　支出官歲出金月計突合表又ハ歲出支拂未濟繰越金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

附　則

第三十八條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程（明治二十二年十二月二十八日大藏省令第十六號）

明治二十三年大藏省令第十七號（文官判任以上ノ俸給仕拂命令等書式）

明治二十三年大藏省令第二十七號（仕拂命令仕拂請求書金庫ニ送付後受取人ニ仕拂前誤拂過渡發見ノトキ整理手續）

明治三十四年大藏省令第十二號（政府私人間債務相殺ニ關スル仕拂命令ノ書式）

仕拂命令等盜難又ハ亡失ノ場合ニ關スル取扱手續（明治三十八年七月二十七日大藏省令第三十九號）

第四十條　歲出金仕拂通知書ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第四十一條　前條ニ規定スル支拂期間經過後仍時效ノ完成セサル債務ノ支拂ニ付テハ會計規則第百六十九條第二項ノ規定ニ依ル

第一號書式

小切手振出濟通知書

大正「何」年度歲出
「何」省所管
「何」會計
「何」部
（款）
（項）

No.

金

大正「何」年「何」月「何」日

「何某」渡

日本銀行「何」店御中

「支出官
官氏名」印

第二號書式（内國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例）

表面ノ金額ハ何府縣郡市町村何番地何某ヘ日本銀行本店（何地支店又ハ代理店）ニ於テ拂渡（電信送金）ヲ要ス　支出官印

又ハ

表面ノ金額ハ何府縣郡市町村何番地何某ニ送金ヲ要ス　支出官印

又ハ

表面ノ金額ハ金額氏名表ニ記載ノ通拂渡（送金）ヲ要ス　支出官印

第三號書式

大正「何」年「何」月「何」日　金額氏名表　「支出官官氏名」㊞

小切手第「何」號　「何」省所管「何」會計　歳出「何」部　（款）（項）

大正「何」年度

番號	受取人 住所氏名	金額	拂渡店又ハ送金先	備考
		圓		

備考　用紙ハ礬砂引美濃判ノ半截トシ左方ニ一寸以上ノ綴代ヲ存スヘシ表裏ヲ使用スヘカラス若二葉以上ニ亘ルトキハ追次計ヲ附スヘシ

第四號書式（表面）

領收證　　歲出金支拂通知書

第「何」號	大正「何」年度歲出	「何」省所管
「何」會計	小切手第「何」號	
小切手振出日附	大正「何」年「何」月「何」日	
小切手ヲ宛テタル日本銀行名	日本銀行本店（何地支店又ハ代理店）	
金額氏名表番號	第「何」號	

金

前記ノ金額日本銀行本店（何地支店又ハ代理店）ニ於テ受領セラルヘシ

「何廳支出官官氏名」㊞

大正「何」年「何」月「何」日

「何　某」宛

前記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

受取人

「住所

何　某」㊞

㊞ 收入印紙

（注意）受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

備考

一　用紙寸法　縱五寸二分　横六寸三分　輪廓寸法　四寸六分　五寸四分トシテ左方ニ八分ノ綴代ヲ設クヘシ

二　用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐ユル用紙ヲ用ユヘシ

三　官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ市町村若ハ公共團體名等ヲ記入シテ發行スヘシ

四　領收書ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

第四號書式（裏面）

注意事項

一　受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ

二　受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

三　受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄內ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代理人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

四　受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス

六　本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

㊞ 收入印紙

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ　　ニ委任致候也

「住所

大正「何」年「何」月「何」日　　何　某」㊞

第五號書式（邦貨ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例）

表面ノ金額ハ何貨ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金（電信）ヲ要ス　支出官印

備考

外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記入スヘシ

第六號書式（外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例）

表面ノ金額ハ何貨何程ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金（電信）ヲ要ス　支出官印

備考

外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記入スヘシ

第七號書式

返納告知書

第「何」號　大正「何」年度

「何」省所管　「何」會計　歳出「何」部

（款）　（項）

金

上記ノ金額大正「何」年「何」月「何」日迄ニ日本銀行本店支店又ハ代理店ニ拂込マルヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

「支出官官氏名」㊞

「何　某」宛　定額戻入店　日本銀行「何」店

通知書

第「何」號　大正「何」年度

「何」省所管　「何」會計　歳出「何」部

（款）　（項）

金

上記ノ金額定額ニ戻入濟

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店㊞

「支出官官氏名」宛

返納人「何某」　領收店　日本銀行「何」店

領收證書

第「何」號　大正「何」年度

「何」省所管

金

上記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店㊞

返納人

「何　某」宛

備考　一　用紙寸法縱横　五寸六分　三寸八分　輪廓寸法縱横　四寸五分　三寸三分　ノモノ三枚接續トシ左方ニ一寸ノ縱代ヲ設クヘシ

二　金額、番號、年度、所管廳名及科目ハ支出官ニ於テ記入スルモノトス

三　返納金ニシテ外國貨幣外國貨幣拂爲替券又ハ邦貨拂爲替券ニ係ルモノナルトキ又既ニ之ヲ本邦貨幣ニ交換シタルモノナルトキハ返納金額ノ傍ニ「此何貨何程」ト記載スヘシ

【政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規程】

備考　本勅令及次頁ノ政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額仕拂停止仕拂執行供託ニ關スル手續ハ會計法及會計規則竝支出ニ關スル取扱規程ノ改正ニ伴ヒ本文内容モ改正セラルヘキモノナルモ未タ改正ナキヲ以テ其儘全文ヲ掲クルコトセリ

勅令第二百六十一號　明治二十六年十二月二十七日

改正　明治四〇年第三三七號

第一條　政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ四項ニ掲クルモノノ外仕拂命令官ニ宛之ヲ發スルモノトス

仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモノトス

出納官吏カ繰替拂ヲ爲ス歳出金ニ對スル差押命令ハ其ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ向テ發スルモノトス

預金、保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモノハ金庫出納役ニ、本支金庫ニ係ルモノハ關係ノ金庫出納役ニ代理人ニ向テ發スルモノトス但シ出納官吏ノ保管ニ係ル歳入歳出外現金ニ對スル差押命令ハ當該出納官吏ニ向テ發スルモノトス

郵便爲替金及郵便取立金ニ對スル差押命令ハ之カ仕拂ヲ爲スヘキ出納官吏ニ、郵便貯金ニ對スル差押命令ハ其ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ向テ發スルモノトス但シ郵便貯金ニシテ拂出證書ヲ發行シタルモノ及通帳ノ呈示ニ依リ即時拂渡ヲ爲スヘキモノニ對スル差押命令ハ之カ仕拂ヲ爲スヘキ出納官吏ニ向テ發スルモノトス

第二條　繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テハ甲官吏又ハ甲金庫ノ受ケタル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

第三條　差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第四條　仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ出納官吏ハ速カニ金庫ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

繰替拂ヲ命令スル官吏カ繰替拂ノ命令ヲ發シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ速ニ出納官吏ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

第五條　差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルトキハ當該仕拂命令官郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長、繰替拂ヲ命令スル官吏、出納官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル官署ノ長、繰替拂ヲ命令スル官吏、出納官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　差押金額ノ仕拂停止、仕拂執行又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第八條　假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

附　則

第九條　本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

【政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額仕拂停止仕拂執行供託ニ關スル手續】

大藏省令第二號　明治二十七年二月七日

改正　明治四一年第一二號

第一條　仕拂命令官ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書竝ニ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニ何之誰ノ差押債權者何之誰渡ト記入シ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第一條ノ二　歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ同通知書ニ「何之誰ノ差押債權者何之誰渡」ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ歳出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ發行セサル場合ニ於テ繰替拂傳票ニ本文ノ記入ヲ爲シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第一條ノ三　郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ郵便貯金拂出證書ニ「何之誰ノ差押債權者何之誰渡」ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第二條　政府カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ其仕拂命令又ハ仕拂請求書歳出金繰替拂證票同通知書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ差押債權者ニ交付スヘキモノハ前條ノ如ク記入スヘシ

第三條　第二條ノ場合ニ於テ官吏遺族扶助法納金ノ差引ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ對シ發行スル仕拂命令仕拂請求書歳出金繰替拂證票、同通知書又ハ同傳票ニ於テスヘシ

第四條　出納官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權

者ヨリ適宜ノ領收證書（公債元利拂ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ）ヲ徵シ其差押金額ヲ仕拂フヘシ

第五條　金庫出納役又ハ其ノ代理人ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル預金保管金供託金ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ明治二十六年大藏省令第十九號第九條ノ領收證書（差押債權者之ヲ調製スルモノトス）及預金通帳又ハ同年大藏省令第二十號第十條ノ保管證書第十二條ノ拂渡證書又ハ明治三十二年大藏省令第六號第九條ノ請求書及受領證第十三條ノ拂渡證書等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其ノ差押金額ヲ仕拂フヘシ

第六條　金庫出納役又ハ其ノ代理人カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ差押ラレタル保管金ノ一部ナルトキハ明治二十六年大藏省令第二十條第十二條第十五條ノ順序ニ準據シ差押債權者ヲシテ拂渡證書又ハ保管證書分割ノ手續ヲ爲サシメタル上其ノ差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第六條ノ二　出納官吏カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ郵便貯金、郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、爲替金又ハ取立金拂渡ノ例ニ依リ差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第六條ノ三　出納官吏カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ郵便貯金、郵便爲替證書又ハ郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、爲替金又ハ取立金拂渡ノ例ニ依リ差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額カ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立金取立濟通知書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル金額ノ一部分ナルトキハ適宜ノ領收證書ヲ徵シ差押金額ヲ差押債權者何ノ誰ニ仕拂フ了ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付スヘシ

第七條　差押債權者明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ金庫又ハ出納官吏ニ向テ仕拂ノ停止ヲ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ金庫又ハ出納官吏ニ差出スヘシ

第八條　金庫又ハ出納官吏ニ於テ第七條ノ請求書ヲ受ケ其金額ノ既ニ仕拂濟ナルトキハ直チニ請求書竝ニ差押命令送達通知書ノミ返付スルモノトス

第九條　仕拂命令官出納官吏既ニ仕拂命令仕拂請求書又ハ現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シ若クハ金庫ニ送付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ直チニ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第九條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏既ニ歲出金繰替證票又ハ同通知書ヲ政府ノ債權者ニ交付シ又ハ繰替拂傳票ヲ出納官吏ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニ準シ仕拂停止通知書ヲ調製シ遞滯ナク之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

出納官吏現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後前項ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十條　金庫又ハ出納官吏ニ於テ前二條ノ仕拂停止通知書ヲ受ケ其ノ金額ノ既ニ仕拂濟ナルトキハ直ニ第二號書式ノ仕拂停止知書ヲ返付スヘシ

第十一條　仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ其ノ通知ヲ發シタル官吏直ニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ金庫又ハ出納官吏ニ送付スヘシ

第十二條　仕拂命令官出納官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書通知書（明治二十六年大藏省訓令第四十號附屬第一號ノ書式以下同シ）又ハ現金引出切符ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ之ニ同書式中何之誰渡トアル渡ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ其下ニ「ノ差押債權者何之誰渡」（通知書ノ場合ニハ何某殿トアル何某ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ「何某ノ差押債權者何之誰」）ト記入シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十二條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ前條ノ例ニ依リ訂正ノ記入ヲ爲シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ニ於テハ本文ニ準シ該傳票ニ訂正ノ記入ヲ爲スヘシ

第十三條　第十二條ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ裏面ニ「表面ノ金額內何程別ニ差押債權者何之誰ニ仕拂フヘシ」ト記入シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ尙ホ第四號書式ニ據リ【金庫】ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證票ヲ調製シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第十三條ノ二　第十二條ノ二ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ歲出金繰替拂證票又ハ同通知書ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ其ノ裏面ニ「表記金額ノ內金何程ハ差押債權者何之誰ニ拂渡ヲ要スルニ依リ別ニ歲出金繰替拂證

票（又ハ同通知書）ヲ發行ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ別ニ差押金額ニ對スル歲出金繰替拂書證票又ハ同通知書ヲ發行シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ニ於テハ該傳票ノ金額及氏名ノ傍ニ「內金何程ハ差押債權者何某渡」ト朱書シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十四條　第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スニ當リ既ニ現金引出切符ノ無效トナリタルトキハ更ニ現金引出切符ヲ發行シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十五條　仕拂命令官出納官吏第十二條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第五號書式第十三條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ仕拂通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十五條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏第十二條ノ二及第十三條ノ二ノ記入ヲ爲シタルトキハ仕拂通知書ヲ調製シ遲滯ナク之ヲ出納官吏ニ送付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ハ此限ニアラス

第十六條　第七條、第九條及第九條ノ二ノ規定ニ依リ仕拂停止ヲ爲スコトヲ得ス

條若ハ第十五條ノ二ノ仕拂通知アルニアラサレハ仕拂ヲ爲

第十七條　金庫又ハ出納官吏第十二條、第十三條及第十三條ノ二ノ記入アル仕拂命令、仕拂請求書、通知書歲出金繰替拂證票、同通知書、現金引出切符又ハ證票ヲ以テ現金仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通仕拂ニ關スル手續ヲ爲シタル上第十五條又ハ第十五條ノ二ノ通知書ト對査シ之カ仕拂ヲ爲ス場合モ亦之ニ準ス

第十八條　仕拂命令官出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符又ハ現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但シ供託受領證ハ當該仕拂命令官又ハ出納官吏ニ於テ之ヲ保管シ若シ執行裁判所ヘ送付ヲ要スルトキハ之ヲ裁判所ニ送付シ其ノ領收證書ヲ受クヘシ

第十八條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル時ハ供託スヘキ金額ニ對スル歲出金繰替拂證票又ハ同傳票ヲ發行シ其裏面若ハ餘白ニ「表（前）記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ金庫ヘ供託スル爲何出納官吏ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十八條ノ三　郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ供託スヘキ金額ニ對スル郵便貯金拂渡證書ヲ發行シ其裏面ニ「表記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ金庫ヘ供託スル爲何局所出納官吏ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十八條ノ四　出納官吏前二條ノ歲出金繰替拂證票、同傳票又ハ郵便貯金拂出證書ヲ受ケタルトキハ現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ【金庫】ヘ送付シ其旨執行裁判所ヘ通知ノ手續ヲ爲スヘシ第十八條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　第十八條及第十八條ノ二ノ供託スヘキ金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符歲出金繰替拂證書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ各其ノ所定ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　差押金額ヲ供託シタル仕拂命令官歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長出納官吏ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　仕拂命令官出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ取消通知書ヲ金庫及政府ノ債權者ニ送付シタル上第十八條第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ二　歲出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ニ準シ政府ノ債權者ニ交付シアル歲出金繰替拂證票、同通知書ノ取消通知書ヲ調製シ之ヲ出納官吏及政府ノ債權者ニ送付シタル後第十八條ノ二及第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムルモノナルトキハ同官吏ヨリ繰替拂傳票ヲ提出セシメタル後本文後段ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條ノ三　出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ當該差押金額カ郵便貯金、郵便爲替金、郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書、郵便取立金取立濟通知書ヲ提出セシメタル後第十八條ノ四及第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條　銀行又ハ金庫ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ其現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ其銀行又ハ金庫ニ保管シ若クハ執行裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判所ニ送付シ其領收證書ヲ徵スヘシ

第二十三條　差押金額ヲ供託シタル銀行又ハ金庫ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ第四條第五條差押金額仕拂ノ例ニ據リ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

（第一號書式）（用紙美濃二ツ切）

仕拂停止請求書

某年度何廳所管仕拂命令官官氏名發行

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡又ハ渡ノ內

一金何程又ハ

明治何年何月第何號

出納官吏官氏名發行現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ內

右ハ別紙ノ通リ裁判所ヨリ差押命令發送ノ通知ヲ領シ候ニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ此段請求候也

年　月　日

何之誰債權者

何府（縣）何地

何地金庫宛

（第二號書式）（用紙美濃二ツ切）

仕拂停止通知書

某年度何廳所管

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡又ハ渡ノ內

一金何程　金額氏名表第何號何之誰又ハ渡ノ內（本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル）

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ內

右ハ差押命令ヲ受ケタルニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第四條ニ據リ此段通知候也

年　月　日

何地金庫宛

仕拂命令官　官氏名　印

又ハ　出納官吏　官氏名　印

（第三號書式）（用紙美濃二ツ切）

仕拂停止解除通知書

某年度何廳所管

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡又ハ渡ノ內

一金何程　金額氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ內（本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル）

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ內

右金額明治何年何月何日付ヲ以テ仕拂停止及通知置候處今般差押解除相成候此段通知候也

年　月　日

何地金庫宛

仕拂命令官　官氏名　印

又ハ　出納官吏　官氏名　印

（第四號書式）（用紙美濃二ツ切）

證票

何府（縣）何地

差押債權者

何之誰

右者「某年度何廳所管仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡ノ內」金額氏名表第何號何之誰渡ノ內（金額氏名表云々ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル）又ハ「明治何年何

月何日第何號現金引出切符何之誰渡ノ內」金何程ノ仕拂ヲ受クヘキ差押債權者タルコトヲ證明ス

年　月　日

何地金庫宛

前記證票ノ金額何程正ニ領收候也

年　月　日

仕拂命令官　官　氏　名　㊞

又ハ　出納官吏　官　氏　名　㊞

何地金庫宛

備考「前記證票云々」以下ハ差押債權者ニ於テ記入スルモノトス

（第五號書式）（用紙美濃二ツ切）

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管第何號

案內仕拂命令（案內仕拂請求書）金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號）金何程何之誰渡

又ハ

明治何年何月何日第何號案內引出切符何之誰渡

右ニ對スル仕拂命令（仕拂請求書、通知書、現金引出切符）明治二十七年大藏省令第二號第十二條ニ據リ差押債權者何之誰渡ト記入シ差押債權者ニ交付ス此段通知候也

年　月　日

仕拂命令官　官　氏　名　㊞

何地金庫宛　　又ハ　出納官吏　官　氏　名　㊞

差押債權者

何之誰

（第六號書式）（用紙美濃二ツ切）

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管

仕拂命令（仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書）第何號何之誰渡ノ內

一金何程　金額氏名表第何號何之誰渡ノ內（本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル）

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡ノ內

右金額差押債權者何府（縣）何地何之誰ヘ仕拂可有之此段通知候也

年　月　日

仕拂命令官　官　氏　名　㊞

何地金庫宛　　又ハ　出納官吏　官　氏　名　㊞

（第七號書式ノ甲）（用紙美濃二ツ切）

取消通知書

某年度何廳所管第何號

仕拂命令（仕拂請求書）金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令（仕拂請求書又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書）金額氏名表第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符金何程何之誰渡

右ハ明治何年何月何日仕拂停止及通知置候處今般該仕拂命令（仕拂請求書、通知書、現金引出切符）取消候ニ付「右ニ係ル案內仕拂命令案內仕拂請求書、案內引出切符、仕拂命令（送金ノ

裏書アルモノ）返付相成度」又ハ「右ニ對スル集合仕拂命令ノ金額何程ニ更正シ金額氏名表中第何號ヲ取消ス」此段通知候也

年　月　日

仕拂命令官　官　氏　名　印
又ハ　出納官吏　官　氏　名　印

何地金庫宛

（第七號書式乙）（用紙美濃二ツ切）

取消通知書

某年度何廳所管第何號
仕拂命令（仕拂請求書）金何程何之誰渡
又ハ
仕拂命令（仕拂請求書）又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛
又ハ
明治何年何月何日第何號
現金引出切符金何程何之誰渡

右ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ明治二十六年勅令第二百六十一號第六條ニ據リ供託セリ依テ曩ニ交付セシ前記仕拂命令（仕拂請求書通知書現金引出切符）ヲ取消ス此段通知候也

年　月　日

仕拂命令官　官　氏　名　印
又ハ　出納官吏　官　氏　各　印

何某宛

●陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件

法律第二十七號　明治二十三年三月三十一日

改正　明治四一年第三九號

第一條　陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陣營具及馬匹ニ係ル給與ハ其定額ヲ各隊ニ交付シ隊長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第二條　陸軍諸學校生徒ニ屬スル給與其他軍隊ニ準據スヘキ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ經理ヲ委任スルコトヲ得

第三條　委任經理ニ屬スル給與ノ殘金、廢物賣却代金及補償金ハ之ヲ積立金ト爲シ委任經理ニ係ル費途ニ使用スルコトヲ得

第四條　（削除）

第五條　委任經理ニ係ル會計ノ檢查ハ會計檢查院法第十六條ニ依ル

第六條　此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

附　則（明治四十一年三月三十一日法律第三十九號）

本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ積立金ハ之ヲ本法ニ依ル積立金ニ併合ス

●帝國學士院學術研究奬勵金委任經理ニ關スル法律

法律第十三號　大正四年六月二十一日

帝國學士院ニ於テ學術研究奬勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得

委任經理ニ係ル會計ノ檢查ハ會計檢查院法第十六條ノ規定ニ依ル

附　則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國學士院學術奬勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

●郵便官署ヲシテ年金恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件

勅令第二十五號　明治四十三年三月十六日

國庫ノ支辨ニ屬スル年金、恩給、遺族扶助料及退隱料ノ支給ニ關スル事務ハ遞信省、統監府、臺灣總督府、關東都督府及樺太廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歲入金歲出金竝歲入歲出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●年金恩給支給規則

遞信省令第九十二號　大正十二年十一月十日

第一章　總　則

第一條　國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一　明治二十七年勅令第百七十三號金鵄勳章年金令ニ依ル給與金

二　大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金

三　特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

第二條　前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ支給ス

第三條　給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス一時限ノ給與金ニ付テハ前項ノ期日ニ拘ハラス之ヲ支給ス

第四條　受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ屆書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番記ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條　受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ

第六條　代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且記名調印ノ上本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章　繼續支給

第七條　繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屆ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條　受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一樣式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條　受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號、番號、給與金高竝支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條　受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號竝請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十三條　前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十四條　受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル屆書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局ニ於テ前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條　受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添ヘ貯金局ニ其ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三章　一時支給

第十六條　一時限ノ給與金ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條　受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

（附　則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五章　契　約

●會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

大藏省令第三十三號　大正十一年四月一日

第一條　工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ハ一年以來其ノ工事、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明スヘシ但シ合名會社、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ其ノ業務執行社員ノ一人、株式會社ニ在リテハ其ノ會社ヲ代表スル取締役ノ一人、組合ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル組合員ノ一人一年以來其ノ工事、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

工事、製造又ハ物品ノ供給ヲ營ム合名會社、合資會社及株式合資會社ノ業務執行社員、株式會社ヲ代表スル取締役又ハ組合ノ業務ヲ執行スル組合員タリシ者ニ付テハ其ノ在任期間中當該工事、製造又ハ物品ノ供給ニ從事シタルモノト看做ス

第二條　工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ハ前條ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ證明スヘシ

一　個人ニ在リテハ二年以來其ノ每年納メタル地租、第三種所得稅及營業稅ノ合算額見積入札金額千分ノ一ヲ下ラサルコト

二　法人又ハ組合ニ在リテハ出資額又ハ拂込資本金額見積入札金額ヲ下ラサルコト但シ法人ニシテ二年以來其ノ每年納メタル地租、第一種所得稅及營業稅ノ合算額見積入札金額千分ノ二ヲ下ラサルコトヲ證明シタルトキ又ハ合名會社、合資會社及株式合資會社ニシテ其ノ無限責任社員ノ一人、組合ニシテ其ノ組合員ノ一人前號ニ該當スルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關スル營業ヲ承繼シタル場合ニ於テハ前營業者ノ當該營業ニ從事シタル期間及納付シタル稅額ハ承繼人ノ從事スル期間及納付シタル稅額ニ之ヲ通算ス

第四條　本令ノ規定ニ依リ證明ヲ要スル事項ハ當該官公署ノ認證アル書面ヲ以テ之ヲ立證スヘシ

第五條　公共團體ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスルトキハ本令ニ定ムル資格ヲ有スルコトヲ要セス

第六條　各省大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ノ資格ニ付大藏大臣ト協議シテ本令ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

第七條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島又ハ外國ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件ハ朝鮮總督府所屬ノ經費ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督府所屬ノ經費ニ付テハ臺灣總督、樺太廳所屬ノ經費ニ付テハ南洋廳長官、關東廳所屬ノ經費ニ付テハ關東長官、南洋廳所屬ノ經費ニ付テハ所管大臣ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前一般ノ競爭ニ付スヘキコトヲ公告シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（參照）

朝　鮮　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件（大正十一年六月二日朝鮮總督府令第九十號）

臺　灣　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件（大正十一年四月二十二日臺灣總督府令同九十九號）

關東州　工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件（大正十一年五月七日關東廳令第三十五號）

南洋群島　南洋群島ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件（大正十一年九月一日南洋廳令第二十六號）

●政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件

勅令第二百九十九號　大正十二年六月七日

政府ニ於テ物品ヲ販賣スルトキハ左ノ場合ニ限リ問屋業者ニ其ノ販賣ヲ委託スルコトヲ得

一　輸出ノ目的ヲ以テ物品ヲ販賣スルトキ

二　專賣品又ハ其ノ副產物ヲ販賣スルトキ

三　林產物又ハ鑛產物ヲ販賣スルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年勅令第二百八十號（臘虎及臘鮨獸ノ獸皮）ハ之ヲ廢止ス（賣却隨意契約ノ件）

●種緬羊ノ賣買及貸渡隨意契約竝無償付與ノ件

勅令第二百三十三號　大正六年十二月二十日

改正　大正一〇年勅令第二二二號

農商務省ニ於テ緬羊ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲種緬羊ノ賣買及貸渡ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

種緬羊ノ貸付ヲ受ケタル者又ハ種緬羊ノ飼育ノ委託ヲ受ケタル者農商務大臣ノ定ムル期間其ノ定ムル條件ニ從ヒ種緬羊ヲ飼養管理シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ者ニ對シ無償ニテ之ヲ付與スルコトヲ得

農商務大臣ハ飼育ノ委託ヲ爲シタル種緬羊ノ果實ヲ其ノ委託ヲ受ケタル者ニ對シ條件ヲ附シ無償ニテ付與スルコトヲ得

●陸軍ニ於ケル豫備馬ノ無償貸渡及無償付與ノ件

勅令第四百十五號　大正十年九月二十八日

陸軍ニ於ケル豫備馬ヲ飼養管理セシムル爲貸渡ス場合ニ於テハ其ノ貸渡ハ無償ニテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ馬ノ貸渡ヲ受ケタル者陸軍大臣ノ定ムル條件ニ從ヒ其ノ指定スル期間其ノ馬ヲ飼養管理シタルトキハ其ノ者ニ對シ無償ニテ之ヲ付與スルコトヲ得

本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル土地及森林原野產物無償貸付又ハ讓與ニ關スル件

勅令第八十六號　大正四年五月二十九日

樺太廳長官ハ鐵道軌道其ノ他公共ノ利益トナルヘキ事業ニシテ拓殖上必要ナルモノノ起業者ニ對シ其ノ事業ニ要スル土地及森林原野ノ產物ヲ無償ニテ貸付シ又ハ讓與スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國ニ於テ施行スル內國貿易設備ニ關スル港灣工事ニ因リ生スル土地又ハ工作物ノ下付又ハ貸付及使用料ノ徵收ニ關スル件

勅令第八十二號　大正九年四月一日勅令第八十二號

第一條　國ニ於テ施行スル內國貿易設備ニ關スル港灣工事ニ因リ生スル土地又ハ工作物ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲國有トシテ存置スルノ必要アルモノヲ除クノ外內務大臣ハ其ノ工事ノ費用ノ一部ヲ負擔シタル公共團體ニ無償ニテ之ヲ下付スルコトヲ得

第二條　前條ノ土地又ハ工作物ニシテ公共ノ用ニ供スル爲國有トシテ存置スルモノハ內務大臣前條ノ公共團體ニ無償ニテ之ヲ貸付シ使用料ヲ徵收セシメ其ノ收入ニ歸セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六章　物品及國有財產

●物品會計規則

勅令第八十四號　明治二十二年六月十二日

改正　明治二四年第七七號、三三年第三一八號、大正一一年第四八號

第一條　此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動產ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル

政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計檢査院ヘ通知スヘシ

第二條　物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條　物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條　物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條　總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條　物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條　各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條　物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條　物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生產ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生產及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二　各省大臣ハ檢查ノ官吏ヲ命シ四年以內ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ檢查セシメ

其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ檢査ノ方法ヲ設クヘシ

第十一條　常時出納ヲナサヽル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條　在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條　第十條ノ二、第十一條、第十二條ノ調書ニハ檢査官吏及檢査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條　（削除）

第十五條　物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條　前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ看做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲナスヘシ

第十七條　（削除）

第十八條　常時出納ヲナサヽル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計檢査院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二　會計檢査院法第十六條ニ依リ委託檢査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　會計規則第七十五條、第百二十五條、第百二十六條、第百三十二條乃至第百三十五條及第百四十四條ハ物品會計官吏ニ準用ス

第二十條　物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ樣式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計檢査院ヘ通知スヘシ

第二十一條　官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條　此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

●陸軍兵備品會計規則

勅令第二十二號　明治二十四年三月十二日

改正　明治三四年第九號

第一條　陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス

第二條　出師準備品トハ左ニ揭クル諸品ヲ云フ

一　兵器彈藥及各兵器具竝材料

二　祕密圖書

三　馬匹及戰時之ニ要スル器具

四　戰用糧秣及炊爨具

五　戰用被服及裁縫具

六　戰用衞生材料

七　戰用獸醫材料

八　戰用天幕

九　陣中事務用品

十　軍隊輸送用補助物件

第三條　通常兵備品トハ左ニ揭クル諸品ヲ云フ

一　圖書

二　糧秣

三　被服及裁縫具

四　衞生材料

五　獸醫材料

六　兵營備付陣營具

第四條　出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム
第五條　出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス
第六條　出師準備品ハ【近衞都督】各師團長及當該長官之ヲ管理ス
第七條　出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス
第八條　通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陳營具ニシテ特ニ保管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス
第九條　通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル
第十條　出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

●海軍兵備品會計規則

勅令第六十四號　明治二十三年三月二十八日

改正　明治二六年第四七號、四二年第一五號、大正二年第四七號、三年第二二號、七年第四〇一號、九年第四五二號

第一條　海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ
一　兵器
二　祕密圖書
三　軍事教育圖書
四　水路圖書
五　艦營需品
六　燃料
七　被服
八　糧食
九　治療品
十　港用品
十一　戰時特別給與品
第二條　海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル
第三條　（削除）
第四條　物品會計規則第十五條【第十七條】ニ依リ會計檢査院ニ送付スル計算書中兵器祕密圖書軍事教育圖書及水路圖誌ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ檢閱官ノ保證書ヲ以テ證明スヘシ
第五條　本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

●陸海軍出師準備ニ關スル物品檢査ノ件

法律第七十號　明治二十三年八月二十一日

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其ノ責ニ任シ會計檢査院法ヲ適用スルノ限ニ在ラス

●國有財産法

法律第四十三號　大正十年四月八日

第一條　本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産竝勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ
第二條　國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス
一　公共用財産　國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
二　公用財産　國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
三　營林財産　國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
四　雜種財産　前各號ニ屬セサルモノ
第三條　國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ
第四條　國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス
第五條　雜種財産ハ左ニ揭クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得
一　帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ

第六章　物品及國有財產法

第二十六條　國有財產又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益用ニ供スル爲必要アル場合及勅令ノ特別ノ規定アル場合ヲ除ノ外無償ニテ其ノ財產ヲ使用又ハ收益スルコトヲ得

第二十七條　國有財產ハ法律ヲ以テ特別ノ規定アル場合ヲ除ノ外土地及建物ノ賣拂、讓與、交換、出資又ハ信託ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　國有財產ハ其ノ用途ニ依リ又ハ公用若ハ公益ノ爲必要ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘルヘキ旨通知シタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百二十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百三十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百四十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百五十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百六十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百七十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十一條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十二條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十三條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十四條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十五條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十六條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十七條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十八條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十九條　國有財產ハ其ノ用途ヲ廢止シ又ハ他ノ用途ニ代ヘタル場

第二十五條　政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條　政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計檢査院ノ檢査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月二十九日勅令第六十一號ヲ以テ十一年四月一日ヨリ施行）

第二十八條　第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ內公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條　第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條　北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條　國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條　從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

●國有財産法施行令

勅令第十五號　大正十一年一月二十八日

第一章　總　則

第一條　左ニ揭クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一　船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠

二　不動産又ハ前號ニ揭クル動産ノ從物

三　事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四　地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五　株式及出資ニ因ル權利

前項第三條ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條　各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキ又ハ公共用財産タルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、大學資金、學校及圖書館資金又ハ在外國帝國事管居留地特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條　各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

二　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三　雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四　營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條　各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條　前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條　國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章　賣拂、讓與及交換

第八條　公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章　境界査定

第十四條　國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條　境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條　隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條　境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條　國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ掲示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章　貸付及準貸付

第二十條　公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條　隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條　前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一　土地又ハ水面ノ所在及面積

二　事業ノ目的

三　事業施行ノ方法及順序

四　成功豫定期間

五　收支豫算

六　計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條　國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條　當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以內ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　國有財產法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條　國有財產法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財產ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條　寺院又ハ佛堂國有財產法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財產ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財產ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財產ニ付之ヲ準用ス

第五章　臺帳

第三十條　國有財產ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財產ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局每ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條　國有財產ノ臺帳ハ其ノ種類每ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財產ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一　種目

二　所在又ハ所屬

三　數量

四　價格

五　得喪變更ノ年月日及事由

六　其ノ他必要ナル事項

第三十二條　國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價

二　立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額

三　建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動產ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格

四　權利ニ付テハ第一條第四號ニ揭クルモノハ見込價格、第五號ニ揭クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條　土地及立木竹ノ價格ハ國有財產現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條　作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章　計算書及報告書

第三十五條　各省大臣ハ會計檢查院ニ證明ノ爲國有財產ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財產ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計檢查院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條　各省大臣ハ每會計年度閒ニ於ケル國有財產增減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財產增減報告書ニ基キ國有財產增減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財產增減報告書ト共ニ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第三十七條　各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財產現在額報告書ニ基キ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財產現在額報告書ト共ニ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第七章　雜則

第三十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財產ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條　第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計檢查院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條　前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條　本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上秘密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附　則

第四十二條　本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達（皇城周圍内外ノ湟壘外岸接近ノ官有地ヘ家屋等建築ニ關スル件）

明治八年第百四十六號達（養水溜池井溝等借地料賦課區分ノ件）

明治八年第百九十八號達（官用地ノ内鐵道用地存城地開拓使用地ハ該省使限リ處分セシムルノ件）

明治九年第四十六號達（皇城周圍内外ノ湟壘等修繕改築ノ節ハ陸軍省ヘ協議伺出テシムルノ件）

明治十三年第六號達（公立中小學校及公立專門學校地所無代價下渡制限ノ件）

明治十三年七月八日達（皇城周圍内外ノ湟壘外岸接近ノ官有地ヘ家屋等建築ニ關スル件）

明治十四年第十號達（公立農學校商業學校職工學校設置ノ地所無代價下渡ノ件）

明治十六年第四十五號達（公立農學校實驗用田圃ニ供スル官有地無借地料使用差許ノ件）

官有地特別處分規則（明治二十三年七月二十二日勅令第百三十五號）

官有財産管理規則（明治二十三年十一月二十五日勅令第二百七十五號）

官有地取扱規則（明治二十三年十一月二十五日勅令第二百七十六號）

明治二十四年勅令第十五號（帝國議會供用ノ官有財産ニ關スル件）

明治二十七年勅令第九十二號（軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル物件ノ貸付竝渡ニ關スル件）

明治三十六年勅令第九十六號（官有財産管理規則及官有地特別處分規則準用ニ關スル件）

明治三十九年勅令第二百二十號（神社寺院佛堂合併跡地ノ讓與ニ關スル件）

明治四十一年勅令第百十九號（河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノタメ不用ニ歸スル土地ノ處分ニ關スル件）

明治四十二年勅令第七十號（陸軍營繕費補充資金特別會計ノ爲ニスル陸軍ノ土地ノ貸付ニ關スル件）

大正六年勅令第二百二十四號（輕便鐵道材料及附屬物件讓與ニ關スル件）

第四十四條　本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條　本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條　各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條　前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

●國有財産法施行規則

大藏省令第十四號　大正十一年二月八日

第一條　公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、【監獄】、學校、官舍、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射撃場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　國有財産ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條　臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號様式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尚公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條　國有財産現在額報告書及國有財産增減報告書ハ第二號及第三號様式ニ據ル

附　則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（様式略ス）

●官舍貸渡規則

太政官達第五十三號　明治九年五月十五日
改正　明治一〇年第三七號、第八七號

第一條　官舍貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ
但獄舍【懲役場】倉庫定番見張番等竝ニ鐵道各驛長各所燈明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ官舍貸渡ス者ト雖モ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舍ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ

第二條　宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ【右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其廳ニ備置修繕費ニ充ツヘシ】

第三條　官舍新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上直段或ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ
但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ

第四條　宿代ハ年ヲ以テ計算スヘシト雖モ取立方ハ月割タルヘシ
但十六日以後ニ貸渡タル時又ハ十五日以前ニ返却シタル時ハ半月分取立ツヘシ

第五條　【宿代上納方ハ三ケ月毎ニ取調修繕費遣拂ノ分ハ毎年六月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充置スヘシ】

第六條　官舍外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ

第七條　拜借人自費建增等願出ル時ハ實地檢查ノ上差支無之分ハ允許スヘシ

第八條　拜借人交換ノ節ハ篤ト檢查ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ
但自費建增等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

（備考　本規則施行ニ關シ明治二十一年十二月二十七日内閣總理大臣通牒官舍貸渡内規アリ）

●大藏省所管國有財産取扱規程

大藏省訓令第十八號　大正十一年四月十七日

第一章　總則

第一條　大藏省所管ノ國有財産ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　大臣官房會計課長ハ左ノ事項ヲ處理スヘシ
一　國有財産ニ關スル事務ノ管理監督ニ關スルコト
二　土地ノ買入、收用又ハ地上權、地役權若ハ之ニ準スヘキ權利ノ取得ニ關スルコト
三　交換又ハ寄附受納ニ關スルコト
四　公有水面ノ埋立及使用ニ關スルコト
五　國有財産ノ管理換ニ關スルコト
六　官廳相互間ニ於ケル國有財産ノ使用ニ關スルコト
七　部局相互間ニ於ケル國有財産ノ所屬換ニ關スルコト
八　公用財産タル土地ノ用途ノ變更ニ關スルコト
九　公用財産ノ用途ノ廢止ニ關スルコト
十　國有財産ノ貸付ニ關スルコト
十一　國有財産總括簿ノ登錄及附屬圖面ノ整理ニ關スルコト
十二　國有財産法施行令第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依ル國有財産增減報告書及國有財産現在額報告書ノ調製送付ニ關スルコト
十三　官舍ニ關スルコト

第三條　本規程ニ於テ部局ト稱スルハ大臣官房會計課、大臣官房臨時建築課、理財局、臨時議院建築局、造幣局、專賣局、稅關、稅務監督局、釀造試驗所、内閣會計課、印刷局、拓殖局、【國勢院】樞密院、會計檢查院、行政裁判所、貴族院及衆議院ヲ謂フ

第四條　部局所屬國有財産ニ關スル事務ハ當該部局長之ヲ分掌スヘシ

第五條　部局長ハ時々其ノ所屬國有財産ノ現況ヲ視察シ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ
一　國有財産ノ使用ハ適當ナリヤ否ヤ
二　國有財産ノ維持保存上不完全ノ點ナキヤ否ヤ

三　瓦斯、電氣ハ漏洩ノ虞ナキヤ否ヤ
四　避雷裝置ハ其ノ效力完全ナリヤ否ヤ
五　排水施設ハ水行上支障ナキヤ否ヤ
六　土地ノ境界ニ不判明ノ點ナキヤ否ヤ
七　土地ノ境界ヲ侵害セラルル等ノコトナキヤ否ヤ
八　國有財産ハ臺帳及附屬ノ圖面ト符合スルヤ否ヤ
九　其ノ他國有財産ノ管理又ハ取締上必要ノ事項

第六條　大藏大臣ハ隨時檢査員ヲ派遣シテ部局所屬國有財産ノ現狀ヲ檢査セシムヘシ

第七條　部局所屬ノ建物ハ官舍ヲ除クノ外之ニ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ居住セシムルコトヲ得ス但シ國有財産ノ管理又ハ取締上特ニ監守人ヲ置クノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　前條但書ノ規定ニ依リ監守人ヲ置キタルトキハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　監守人設置ノ事由
二　國有財産ノ所在地名及地番
三　監守人居住建物ノ番號
四　建物内ノ一部ニ居住セシメタル場合ニハ其ノ區域ヲ示シタル圖面
五　監守人ノ官氏名又ハ住所氏名

前項ノ監守人ヲ廢シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第二章　得喪變更

第九條　部局ニ於テ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地又ハ建物ノ買入レヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　所在地名及地番
二　用途
三　土地ノ面積又ハ建物ノ構造・種類及坪數
四　第一號地圖調製標準ニ基キ三斜線ヲ記入シタル實測圖面（數筆ノ土地ナルトキハ一筆毎ニ其ノ筆界ヲ示シ之ニ字名、地番、坪數又ハ段別ヲ記入ス）及其ノ位置ヲ示シタル地形圖又ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

五　買入價格及其ノ單價
六　所有者ノ住所氏名
七　所有者カ公共團體ナルトキハ當該議決機關ノ議決書及當該監督官廳ノ許可書ノ謄本
八　所有者カ神社又ハ寺院ナルトキハ當該地方長官ノ許可書ノ謄本
九　其ノ他必要ノ事項

第十條　前條ノ稟請ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ土地又ハ建物ヲ買入レタルトキハ不動產登記法ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク其ノ登記ヲ囑託シ契約書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

第十一條　買入ニ係ル土地ニシテ二以上ノ地番ヲ有スルモノハ其ノ地番中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ地番ト爲シ（二以上ノ小字アルモノハ小字毎ニ地番ヲ付シ）不動產登記法ノ定ムル所ニ依リ地番變更ノ登記ヲ申請スヘシ

第十二條　公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地及建物以外ノ物件ノ買入ヲ爲サムトスルトキハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

第十三條　第十條ノ規定ニ依リ二十噸以上ノ船舶ヲ買入レタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　部局ニ於テ公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ヲ收用セムトスルトキハ土地收用法第十三條ノ規定ニ依リ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　第九條第一號乃至第三號ニ揭クル事項
二　土地所有者ニ交涉ノ顚末
三　事業計畫書
四　第一號地圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面
五　土地所有者ノ住所氏名
六　其ノ他必要ノ事項

第十四條　部局ニ於テ公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　交換ヲ要スル事由

二　兩地ノ所在地名、地番及面積、建物以外ノ土地ノ定著物アルトキハ其ノ種目及數量
三　國有財産法施行令第十一條ノ規定ニ依リ作成シタル價格評定調書
四　第九條第六號乃至第八號ニ揭クル事項
五　所有者ノ承諾書又ハ其ノ願書
六　交換差金ヲ要スルトキハ其ノ金額及納入又ハ支拂ノ時期
七　用途及期間ヲ指定シテ交換ヲ爲ス場合ニハ其ノ用途、始期、期間及國有財産法第八條ニ基ク契約解除ニ關スル必要ノ條件
八　交換セムトスル國有地カ元國有林野ヲ編入シタルモノナルトキハ關係大林區署ヘ協議濟書類ノ謄本
九　交換セムトスル土地カ收用ニ依リ取得シタルモノニシテ土地收用法第六十六條ノ規定ニ依リ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買戻權ヲ有スルモノナルトキハ其ノ權利ノ拋棄ヲ證スル書面
十　第一號地圖調製標準ニ基キ三斜線ヲ記入シタル兩地ノ實測圖面（數筆ノ土地ナルトキハ一筆毎ニ其ノ在界チ示シタル地形圖之ニ字名、地番、坪數又ハ段別ヲ記入ス）及其ノ位置ヲ
十一　其ノ他必要ノ事項

第十五條　部局ニ於テ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ
一　寄附ヲ受クルノ事由
二　所在地名及地番
三　寄附物件ノ名稱、種類、數量及價格
四　條件アルモノハ其ノ條件
五　寄附者ノ住所氏名
六　第九條第四號、第七號及第八號ニ揭クル事項
七　寄附者ノ願書
八　其ノ他必要ノ事項

第十六條　第十條及第十一條ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ買入、交換又ハ寄附ヲ受ケムトスル場合ニ於テ其ノ目的物ニ對シ物權ノ設定又ハ特殊ノ義務アルモノハ豫メ所有者又ハ其ノ他ノ權利者ヲシテ之ヲ消滅セシムルコトヲ要ス

第十八條　部局ニ於テ地上權又ハ之ニ準スヘキ權利ヲ取得シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ
一　第九條第一號及第三號ニ揭クル事項
二　權利取得ノ目的
三　存續期間
四　地代ヲ拂フヘキトキハ其ノ金額及支拂ノ時期
五　第一號地圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面
六　契約及登記濟ノ年月日
七　土地所有者ノ住所氏名
八　其ノ他必要ノ事項

第十九條　部局ニ於テ地役權ヲ取得シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ
一　要役地及承役地
二　地役權取得ノ目的
三　地役權ノ範圍
四　前條第三號、第五號及第六號ニ揭クル事項
五　承役地所有者ノ住所氏名
六　其ノ他必要ノ事項

第二十條　部局ニ於テ國有財産ノ管理換ヲ受ケ又ハ其ノ管理換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ
一　管理換ヲ要スル事由
二　第九條第一號及第二號ニ揭クル事項
三　種目、數量及價格
四　第一號地圖調製標準又ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

第三十一條　部局ニ於テ公有水面ノ埋立ヲ爲ムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四章　公有水面ノ埋立及使用

第三十二條　大臣ニ稟請スヘシ

第三十三條　サル期間無償ニテ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付ケ又ハ貸付ケシムルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第三十四條　國有財産法施行令第二十條ノ規定ニ依リ公用又ハ公共用ニ供セサル期間無償ニテ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付ケシムルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第三十五條　會計課長ニ報告スヘシ

第三十六條　第二十九條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムル者ヲ出願シタルトキハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

第三十七條　前條ノ規定ニ依リ國有財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第三十八條　隧道、水道、瓦斯管、其ノ他ノ工作物ヲ設置セムトスル者ハ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

第三十九條　隧道、水道、瓦斯管、其ノ他ノ工作物ヲ設置セムトスル者ハ部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第四十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第六十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第八十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第九十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百二十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百三十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百四十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百五十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百六十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百七十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百八十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第百九十九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百二條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百三條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百四條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百五條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百六條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百七條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百八條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百九條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百十條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部局長ヘ第二十一條ノ事項ヲ記シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二百十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ公用財産ヲ使用セシムルトキハ當該部

一　所要ノ目的及其ノ事由
二　所在地名
三　工法ノ概略及圖面
四　埋立面積
五　第一號地圖調製標準ニ基キ埋立區域ニ三斜線ヲ記入シタル實測圖面及其ノ位置ヲ示シタル一般ノ地形圖但シ海面ハ海圖ニ依ルコトヲ要ス
六　當該府縣知事ト協議濟書類ノ謄本
七　其ノ他必要ノ事項

前項第四號ノ埋立面積ハ其ノ護岸又ハ岸壁ノ天端ヲ基點トシテ之ヲ計算スヘシ

第三十二條　公有水面埋立工事竣工シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ當該府縣知事ニ通知シ前條第一項第二號、第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第三十三條　埋立地ノ護岸又ハ岸壁ノ改築等ノ爲水陸ノ交界ニ變更ヲ及ホス工事ニ付テハ工事施行前當該府縣知事ニ之ヲ協議スヘシ

第三十四條　部局ニ於テ公有水面ノ一部ヲ使用セムトスルトキハ當該府縣知事ニ協議シ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　使用ノ目的
二　所在地名及使用面積
三　工作物ノ施設ヲ要スルモノハ其ノ種類、工法ノ概略及圖面
四　第一號地圖調製標準ニ基キ其ノ區域ヲ示シ之ニ三斜線ヲ記入シタル實測圖面及其ノ位置ヲ示シタル一般ノ地形圖但シ海面ハ海圖ニ依ルコトヲ要ス

第三十五條　部局ニ於テ河川法施行ノ河川ニ對シ同法第十七條乃至第十九條ニ記載シタル行爲ヲ爲サムトスルトキハ當該府縣知事ニ協議シ部局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ掲クル事項
二　第一號地圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

第五章　土地ノ境界及其ノ査定

第三十六條　公用財産タル土地ノ境界線上必要ノ箇所ニハ成ルヘク不朽ノ物質ヲ以テ其ノ界標ヲ建設スヘシ

第三十七條　國有財産法施行令ノ規定ニ依リ部局ニ於テ公用財産タル土地ノ境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ境界ノ保存上必要ト認ムル箇所ニハ境界査定標ヲ建設シ當該部局長ハ左ノ事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

一　所在地名及地番
二　土地ノ種目
三　査定圖ノ謄本
四　境界査定終了ノ年月日
五　隣地所有者ノ住所氏名但シ隣地所有者之ニ立會ハサリシトキハ其ノ事由

前項ノ境界査定ニ對シ行政裁判所ニ出訴シタル者アルトキハ直ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ其ノ判決アリタルトキ亦同シ

第六章　臺帳及圖面

第三十八條　部局長ハ其ノ所屬國有財産ノ臺帳ヲ備フヘシ

第三十九條　國有財産法施行規則第三條ノ規定ニ依リ國有財産ノ臺帳ニ附屬セシムヘキ土地ノ圖面ハ第一號地圖調製標準ニ基キ、建物ノ圖面ハ第二號建物圖調製標準ニ基キ、國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ハ土地ノ圖面ニ準シ之ヲ調製スヘシ

前項ノ圖面ハ臺帳ノ一口座毎ニ順次編綴シ其ノ索引番號ヲ附シ之ヲ整理スヘシ

第四十條　臺帳ニ登錄スヘキ土地ノ面積ハ總テ實測面積ニ依ルヘシ

第四十一條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ建物其ノ他ノ工作物ノ建築費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　請負ノ場合ニハ其ノ請負金額、交付材料アルトキハ其ノ買入價格又ハ見込價格ヲ加ヘタルモノ但シ敷地地平均、砂利敷、障害物除却其ノ他之ニ類スル工費ハ之ヲ控除ス
二　直營ノ場合ニハ其ノ直接工費但シ前號但書ノ工費及剩餘材料ノ價格ハ之ヲ算入セス
三　全部ノ改築又ハ移築ノ場合ニハ之ニ使用シタル舊材料ノ見込價格ニ改築又ハ移築費ヲ加ヘタルモノ
四　一部改築ノ場合ニハ其ノ建物其ノ他ノ工作物ノ價格ヨリ取拂部分ノ價格又ハ見込價格ヲ控除シ之ニ使用シタル舊材料

ノ見込價格及其ノ改築費ヲ加ヘタルモノ

五　一部移築ノ場合ニハ其ノ建物其ノ他ノ工作物ノ價格ヨリ取拂部分ノ價格又ハ見込價格ヲ控除シタルモノヲ現存建物其ノ他ノ工作物ノ價格トシ、移築ノ爲ニ使用セル舊材料ノ見込價格ニ移築費ヲ加ヘタルモノヲ移築建物其ノ他ノ工作物ノ價格トス

第四十二條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ水面埋立ニ係ル土地ノ價格ハ前條第一號又ハ第二號ノ規定ニ準シテ之ヲ算定スヘシ

但シ前條第一號但書ノ工費ハ之ヲ加算スルモノトス

第四十三條　國有財産ノ臺帳ハ左ノ證憑書ニ依リ之ヲ登錄スヘシ

一　購入又ハ交換ニ係ルモノハ其ノ契約書

二　土地ノ收用ニ係ルモノハ收用審査會ノ裁決書ノ謄本

三　寄附ヲ受ケタルモノハ寄附者ヨリ提出シタル書類

四　管理換ニ係ルモノハ當該官廳ノ引渡書又ハ其ノ受領書

五　甲乙部局間ニ於ケル公用財産ノ所屬換ニ係ルモノハ當該部局ノ引渡書又ハ其ノ受領書

六　公用財産ノ用途ヲ廢シ大藏大臣ニ引繼キタルモノハ其ノ受領書

七　建物其ノ他ノ工作物ノ新築、增築、改築、移築ニシテ請負ニ係ルモノ又ハ船舶ノ新造ニ係ルモノハ其ノ契約書

八　直營工事ニ係ルモノハ其ノ竣工明細書

九　國有財産ノ亡失、解崩其ノ他前各號ニ揭ケサル事項ニ付テハ其ノ關係書類

前項ノ證憑書ニハ國有財産臺帳ニ登錄濟ノ年月日ヲ記載シ主任官吏之ニ認印スヘシ

第四十四條　國有財産ニ增減異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度直ニ之ヲ臺帳ニ登錄シ同時ニ附屬ノ圖面ヲ更正スヘシ

第四十五條　部局長ハ國有財産臺帳ノ外別ニ其ノ修理簿ヲ備ヘ國有財産ニ修理ヲ加ヘタルトキハ其ノ時々左ノ事項ヲ登錄スヘシ但シ作業會計及造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　所在地名及地番

二　國有財産ノ種目及數量

三　修理ヲ加ヘタル事項及其ノ事由

四　修理ノ費用

五　工事著手及竣工ノ年月日

前項修理ノ費用ハ國有財産ノ臺帳ニハ之ヲ登錄セス

第七章　計算書及報告書

第四十六條　部局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲計算證明規程ニ依リ國有財産ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添附シ所定ノ期間內ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第四十七條　部局長ハ國有財産法施行規則第三號樣式ニ依リ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

國有財産ノ所在地名ニ變更ヲ生シ又ハ同一敷地內ニ於テ國有財産ヲ移轉シ若ハ建物ノ內部ニ變更ヲ加ヘタルトキハ其ノ報告書ヲ前項ノ國有財産增減報告書ト同時ニ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

第四十八條　部局長ハ國有財産法施行規則第二號樣式ニ依リ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

第四十九條　前二條ノ報告書ニハ第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面ヲ添附スヘシ但シ前條ノ國有財産現在額報告書ニ添附スヘキ圖面ニシテ前回ノ報告ニ對シ異動ナキモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ圖面ノ添附ヲ省略シタルトキハ報告書中ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八章　官舍

第五十條　部局ニ於テ新築ノ官舍ヲ貸付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　所在地名及地番

二　敷地坪數

三　官舍ノ棟數及其ノ一住居每ノ坪數

四　建築費ニ對スル年八分ノ割合ヲ以テ宿代ヲ査定シ一住居每ニ其ノ年額ト月額トヲ區分シタル宿代調書

五　第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面

第五十一條　部局所屬在來ノ建物ヲ以テ新ニ官舍ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ建物ヲ借入レ官舍ヲ設置セムトスル場合亦同シ

一　官舍設置ヲ必要トスル事由

二　前條一號乃至第三號及第五號ニ掲クル事項

三　評價額ニ對スル年八分ノ割合ヲ以テ宿代ヲ査定シ一住居毎ニ其ノ年額ト月額トヲ區分シタル宿代調書

前項第三號ノ評價格ハ二人以上ノ評價人ヲシテ評價ヲ爲サシメ其ノ平均額ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十二條　前二條ノ稟請書ニハ其ノ敷地ニ付當該府縣ニ於テ調査シタル地料ノ年額及其ノ單價調ヲ添附スヘシ但シ建物ヲ借入レ官舍ヲ設置セムトスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　部局所屬官舍中官舍貸渡規則第一條但書ノ規定ニ依リ公用間席ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一　居住者ノ職務上公用間席ノ設置ヲ必要トスル事由

二　所在地名、地番及其ノ官舍ノ番號

三　第五十一條第三號ニ掲クル宿代調書及第二號建物圖調製標準ニ基キ其ノ區畫ヲ示シタル實測圖面

第五十四條　前條ノ規定ハ左ノ場合ニ之ヲ準用ス

一　公用間席ヲ變更シ又ハ廢止セムトスルトキ

二　官舍ヲ分割シ又ハ合併セムトスルトキ

第五十五條　官舍貸渡規則第三條ノ規定ニ依リ官舍ノ宿代ヲ改正セムトスルトキハ其ノ評價期間滿了後十日内ニ第五十一條ノ例ニ準シ之ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ提出スル宿代調書ニハ前回分ノ宿代月額ヲ記載シ改正セムトスル宿代月額ト對比シ其ノ增減ノ割合ヲ示スヘシ

第五十六條　官舍ノ增築、改築、一部取毀其ノ他大修繕ニ因リ建物ニ著シキ變更ヲ生シタルトキハ評價期間中ト雖前條ノ例ニ準シ其ノ宿代ノ改正ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第五十七條　貸渡官舍ヲ一旦返納セシメ之ニ大修繕ヲ加ヘ更ニ之ヲ貸渡サムトスルトキハ其ノ修繕費ヲ宿代算出ノ基礎タル建築費又ハ評價額ニ加算シ第五十五條ノ例ニ準シ其ノ宿代ノ改正ヲ大藏大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ宿代ヲ改正シタルトキハ其ノ評價期間ハ前回評價ノ時ヨリ之ヲ起算スヘシ

第五十八條　部局長ハ官舍臺帳ヲ備ヘ一住居毎ニ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　所在地名及地番

二　敷地坪數

三　地料年額及其ノ單價

四　官舍ノ番號及其ノ坪數（階上ト階下トヲ區別ス）但シ公用間席ノ設置アルモノハ其ノ坪數

五　宿代算出ノ基礎ト爲シタル建築費又ハ評價額

六　宿代ノ年額及其ノ月額

七　建築又ハ評價ノ年月日

八　評價期間

九　居住者ノ官氏名

十　貸付及返納ノ年月日

第五十九條　部局所屬ノ官舍ハ他廳ノ官吏ニ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第六十條　貸付ノ官舍ハ借受人ノ家族及雇人ノ外他人ヲ同居セシムルコトヲ得ス

第六十一條　貸付ノ官舍ハ借受人ニ於テ一切其ノ原形ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十二條　官舍貸渡規則第七條ノ規定ニ依リ官舍借受人ニ於テ自費建設ノ出願アルトキハ左ニ掲クル事項ニ限リ必要ノ條件ヲ附シ部局長限リ之ヲ許可スルコトヲ得

一　十坪未滿ノ建物及其ノ他ノ工作物ヲ假設スルトキ

二　瓦斯、電燈又ハ水道ヲ假設スルトキ

三　樹木ノ栽植ヲ爲ストキ

前項ノ規定ニ依リ之ヲ許可シタルトキハ其ノ物件ノ種類、數量、許可ノ條件及年月日竝其ノ位置ヲ表示シタル圖面ヲ添附シ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ其ノ物件ヲ撤去シタルトキ亦同シ

第六十三條　官舍ヲ貸付シタルトキハ部局長ハ第五十八條第一號、第二號及第九號ニ掲クル事項竝貸付ノ年月日ヲ當該府縣知事ニ通知スヘシ其ノ之ヲ返納シタルトキ亦之ニ準ス

第六十四條　官舍ヲ貸付シタル場合ニ於テ官舍居住者ヨリ寄留ノ届書ヲ差出シタルトキハ當該部局長ハ寄留手續令ニ依リ其ノ届書ニ家屋ノ管理人タル旨ヲ記載シ記名捺印ノ上之ヲ居住者ニ返付スヘシ

第六十五條　貸付ノ官舍ヲ返納シタル場合ニ於テ居住者退去ノ後二十日以内ニ原寄留地ノ市町村長ヨリ其ノ通知ヲ受ケサル

トキハ當該部局長ハ寄留手續令第三十七條ノ期間内ニ原寄留地ノ市町村長ニ居住者退去ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第六十六條　官舍借受人ノ故意又ハ過失ニ因リテ貸付ノ官舍及其ノ附屬物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ當該部局長ハ其ノ事實ヲ詳具シ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

第六十七條　貸付ノ官舍返納ノ場合ニ於テハ借受人立會ノ上之ヲ檢査シ異狀ナキヲ認メタル後之ヲ受取ルヘシ

第六十八條　官舍ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由竝第五十八條第一號及第四號ニ揭クル事項ヲ記シ之ヲ大臣官房會計課長ニ報告スヘシ

第六十九條　第五十八條乃至第六十二條及第六十四條乃至第六十八條ノ規定ハ官舍貸渡内規ニ依ル官舍ニ之ヲ準用ス

附　則

第七十條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第七十一條　部局長ハ國有財産法施行規則第二號樣式ニ基キ大正十一年四月一日ノ現在ニ於ケル部局所屬國有財産現在額報告書ヲ調製シ大正十一年七月三十一日迄ニ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

前項ノ報告書ニハ國有財産臺帳編綴順序ニ編綴シタル各口座總括ノ謄本竝第一號地圖調製標準及第二號建物圖調製標準ニ基キ調製シタル實測圖面ヲ添附スヘシ

第七十二條　大正十年度第二期官有財産增減異動報告書ハ從前ノ例ニ依リ之ヲ大臣官房會計課長ニ送付スヘシ

第七十三條　明治四十四年大藏省訓令第二十一號大藏省所管官有財産取扱規程ハ大正十一年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

第一號

地圖調製標準

第一條　地圖ハ其ノ土地ノ廣狹形狀及方位ヲ測度シ境界ヲ明ニシ國有財産臺帳ノ一口座毎ニ之ヲ調製スヘシ

第二條　地圖ノ縮尺ハ左ノ標準ニ從フヘシ

一　面積五千坪未滿ハ縮尺三百分ノ一（二分ヲ以テ一間トス）

二　面積五千坪以上一萬坪未滿ハ縮尺四百分ノ一（一分五厘ヲ以テ一間トス）

三　面積一萬坪以上ハ縮尺六百分ノ一（一分ヲ以テ一間トス）

第三條　地圖ニハ其ノ方位ヲ明示スヘシ

第四條　地圖ニハ左ニ揭クル記號ニ依リ現在ノ建物、門、圍障、築庭、樹木、池井、水道、下水、橋梁等ヲ登載シ其ノ位置形狀ヲ明示スヘシ

一木造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ樺色ヲ以テ色取リタルモノ

一木造洋式建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ二重ニ畫キ樺色ヲ以テ色取リタルモノ

一土藏造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ

一木骨煉瓦造建物　木造建物ノ符合ノ周邊ニ更ニ薄紅色ヲ加ヘタルモノ

一木骨石造建物　木造建物ノ符合ノ周邊ニ更ニ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ

一煉瓦造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄紅色ヲ以テ色取リタルモノ

一石造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ二重ニ畫キ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ

一鐵造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取リタルモノ

一鐵骨造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄紫色ヲ以テ色取リタルモノ

一鐵筋コンクリート造建物　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ帶黑黃色ヲ以テ色取リタルモノ

一建物層階ノ區別　二階ハ墨ニテ數條ノ平行斜線、三階ハ墨ニテ數條ノ縱橫平行斜線

一木造門　樺色

一煉瓦造門　薄紅色

一石造門　薄墨色

一鐵造門　薄藍色

一鐵筋コンクリート造門　帶黑黃色

一生垣　綠色ノ斷絕線

一竹垣　綠色ノ斷絕線

一木柵　樺色ノ斷絕線

一鐵柵　薄藍色ノ斷絕線

一板塀　樺色ノ線

一土塀　薄墨色ノ線

一石塀　薄墨色ノ平行線

一煉瓦塀　薄紅色ノ線
一鐵筋コンクリート塀　帶黑黃色ノ線
一下水（常ニ水アルモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一下水（常ニ水ナキモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ藍色ノ線ヲ中間ニ加ヘタルモノ
一下水（常ニ水アリテ木蓋アルモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ樺色ヲ以テ色取リ更ニ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ但シ常ニ水ナキモノハ中間ノ虛線ヲ除ク
一下水（常ニ水アリテ石蓋アルモノ）　墨ニテ其ノ兩邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取リ更ニ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ但シ常ニ水ナキモノハ前例但書ニ倣フ
一木造埋下水　樺色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一煉瓦埋下水　薄紅色ノ虛線ニハ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一石造埋下水　薄墨色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一土管埋下水　茶色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一コンクリート埋下水　帶黑黃色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ薄墨色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一木造水道管　樺色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一鐵造水道管　薄藍色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一井（樋側）　樺色ニテ其ノ周邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一井（石又ハコンクリート又ハ鐵筋コンクリート）　薄墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一井（水道又ハ吹井）　以上二種ノ中央ニ薄墨色ノ小圈ヲ畫キタルモノ
一芝生　薄綠色（綠ナシ）
一樹木　大小ニ從テ其ノ形ヲ畫キ綠色ヲ加ヘ陰ヲ付ケタルモノ
一池　墨ニテ其ノ周邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取リタルモノ
一堤　墨ニテ其ノ底邊及頂邊ヲ畫キ陰ヲ付ケ薄墨色ヲ以テ色取リタルモノ
一庭石其ノ他石垣數石類　墨ニテ其ノ外邊ヲ畫キ薄墨ヲ以テ色取リタルモノ

一電燈線　黃色ヲ以テ支柱ト電燈線トヲ畫ケルモノ但シ支柱ハ其ノ位置ニ從フ
一電燈　徑五厘以下黃色「火」ノ字ノ隷書
一瓦斯管　朱色ノ虛線ニテ其ノ外徑ヲ示シ中間ニ朱色ノ虛線ヲ加ヘタルモノ
一瓦斯燈　徑五厘以下ノ朱色「火」ノ字ノ隷書
一露燈　徑五厘以下ノ薄紅色「火」ノ字ノ隷書
一電線支柱　墨ニテ支柱ト電線トヲ畫ケルモノ、但シ支柱ハ其ノ位置ニ從フ
一軌道　軌距ノ廣狹ニ應シ薄藍色ノ平行線
一煉瓦造煙突　大小形狀ニ從ヒ墨ニテ周邊ヲ畫キ其ノ周邊ニ薄紅色ヲ加ヘ內部ヲ墨色ニ色取リタルモノ
一鐵造煙突　大小形狀ニ從ヒ墨ニテ周邊ヲ畫キ其ノ周邊ニ薄藍色ヲ加ヘ內部ヲ墨色ニテ色取リタルモノ
一鐵筋コンクリート煙突　大小形狀ニ從ヒ墨ニテ周邊ヲ畫キ其ノ周邊ニ帶黑黃色ヲ加ヘ內部ヲ墨色ニテ色取リタルモノ
一木橋　樺色
一石橋　薄墨色
一鐵筋コンクリート橋　帶黑黃色
一鐵橋　薄藍色
一土橋　薄墨色ヲ以テ外邊ヲ色取リタルモノ
一木造地上境界標　徑五厘以下ノ樺色斜方十字形
一石造地上境界標　徑五厘以下ノ薄墨色斜方十字形
一木造地中境界標　徑五厘以下ノ樺色斜方虛線十字形
一石造地中境界標　徑五厘以下ノ薄墨色斜方虛線十字形
一敷地境界線　朱線
一水流ノ方向　墨ニテ箭形ヲ畫キ其ノ方向ヲ示ス

前項ニ記號ナキモノハ適宜記號ヲ設ケテ之ヲ圖上ニ表示シ其ノ凡例ヲ示スヘシ

第五條　地圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　府縣郡市區町村名字名及地番

二　種目（何々敷地）及縮尺（何百分ノ一ト記入ス）

三　縮尺ハ圖面ノ底部ニ間ヲ單位トシタル尺度

四　實測面積

五　敷地周圍ノ間數

六　基線ヲ設ケ其ノ基線ノ方位角度及各邊ノ內角

七　測量ノ年月日

八　測量ノ方法、器械ノ種類

九　測量ニ使用セシ尺ノ單位及之ヲ間數ニ改算セル數率

十　測量者及製圖者ノ官氏名（官吏ニ非サル者ハ其ノ住所氏名）

第六條　實測面積ハ總テ坪數ヲ以テ計算シ才以下ノ端數ハ記入ヲ要セス

第七條　地圖ニハ其ノ境界ヲ明確ナラシムル爲境界標ノ位置ヲ表示シ其ノ近傍ニ於テ天然若ハ人造ノ固定物アルモノハ（其ノ物質名稱ヲ記入ス）該境界標ト、固定物トノ距離方角ヲ記載スヘシ

第八條　地圖ニハ周邊ノ地形即チ山岳、丘陵、森林、原野、河海、湖沼、池澤、溝渠、堤塘、道路、市街、村落、田畑、橋梁、其ノ他神社、佛閣等ノ如キ著シキモノハ其ノ概略ヲ模寫シ名稱地名ヲ揭クヘシ

第九條　圖上ノ建物ニハ總テ國有財産ノ臺帳ニ登錄ノ番號ヲ記シ第二號建物製圖標準ニ基キ調製シタル建物明細圖及臺帳ト對照セシムヘシ

第十條　地圖ニハ其ノ地方刊行ノ地圖ニ基キ其ノ敷地ノ位置ヲ示シタル附近ノ地形圖（重ナルモノノ名稱及地名ヲ記載ス）ヲ添附スヘシ

前項敷地ノ位置ハ朱線ニテ之ヲ示シ其ノ傍ニ其ノ種目（何々敷地）ヲ朱記スヘシ

第十一條　地圖ニ記載スル文字ハ總テ楷書ヲ用フヘシ

第十二條　測量原簿又ハ測量原圖ハ地圖ト共ニ保存スヘシ

第十三條　製圖用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用フヘシ

第二號

建物圖調製標準

第一條　建物圖ハ平面圖トシ其ノ縮尺ハ二百分ノ一トス（三分ヲ以テ一間トス）

第二條　建物層階ノ部分ハ掛紙（貼附ノ箇所ニハ主任官吏ノ契印ヲ要ス）ニ畫クヘシ

第三條　建物ハ總テ其ノ周圍ノ間數ヲ記入スヘシ

第四條　建物ノ坪數ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算スヘシ

一　煉瓦造、石造、コンクリート造、鐵筋コンクリート造其ノ他厚壁ヲ有スル建物ハ其ノ外壁ノ中心トシ控壁、片蓋柱等ハ之ヲ算入セス

二　木造、土造及鐵造ハ柱中心

三　庇ノ坪數ハ第一號ノ建物ニ在リテハ其ノ外壁ノ中心第二號ノ建物ニ在リテハ柱中心ヨリ庇柱若ハ軒桁中心迄ノ距離及腕木又ハ梁眞ノ距離ノ相乘積但シ霧除庇ハ之ヲ除ク

第五條　建物ハ各室毎ニ其ノ坪數（坪數ハ總テ壁ノ中心ニテ計ル）ヲ記入スヘシ

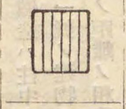
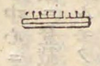
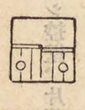
第六條　建物ハ總テ臺帳ニ登錄ノ番號ヲ記入シ地圖ニ登載セル番號ト對照セシムヘシ

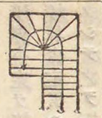
前項建物番號ノ外官舍又ハ倉庫ノ如キ別ニ番號アルモノハ各々其ノ番號ヲ朱記スヘシ

第七條　圖上ニ記載スル文字ハ總テ楷書ヲ用フヘシ

第八條　製圖用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用フヘシ

第九條　構造其ノ他ノ區別ハ凡ソ左ニ附記スル所ノ記號ニ從ヒ詳細其ノ形狀ヲ寫スヘシ若記號ナキモノハ適宜記號ヲ設ケ圖上ニ其ノ凡例ヲ示スヘシ

名稱記號	名稱記號	名稱記號	名稱記號	名稱記號
上ケ下ケ窓	片開キ入口	鐵ボールト窓	板張	煉瓦敷
				
引違ヒ窓	室内間仕切手摺	木格子窓	筋違板張	敲キ
				
兩開キ窓	入口引違	連子窓	石敷	西洋形便所
引込ミ窓	突上ケ窓	無雙連子窓	四盤石敷	押入上ケ板
				

板流シ	スートーブ	廻り階子段	リノリウム敷	疊敷
				
兩便所	石爐	階段	ヅツク敷	
角椽側	煉瓦爐	高欄付階段	ラセン敷	
床上爐	階子段	勾配石敷	絨毯敷	

●賠償金特別會計所屬廻航船舶ノ貸付ニ關スル件

勅令第五百六十一號　大正九年十二月十五日

大藏大臣ハ運送業者ヲシテ其ノ計算ニ於テ賠償金特別會計所屬ノ船舶ヲ本邦ニ廻航セシムル場合ニ於テハ料金ヲ徵セスシテ其ノ船舶ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國有林野法

法律第八十五號　明治三十二年三月二十三日

改正　明治四一年第七號

第一條　此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條　國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得

組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺上地ニシテ其ノ境內ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境內ニ編入スルコトヲ得

第四條　國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ隣接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ

隣接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條　國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ隣接地所有者ニ通告スヘシ

第六條　國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條　隣接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條　國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二　市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ

三　社寺上地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

四　命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ

五　民有地、道路、河川等ニ介在スル十町步以內ノ林野ヲ賣拂フトキ

六　道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

七　此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條　國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條　國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二　牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三　牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ

四　第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ

五　一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ

第十二條　國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條　國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二　家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條　國土保安又ハ國有林野經營上必要ナル場合ニ限リ國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條　國有林野ハ左ノ場合ニ限リ讓與スルコトヲ得

一　段別一町步以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ

二　府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條　用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間內ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條　社寺上地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條　國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村內ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ　合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ヲ貸付スルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條　部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシテ其ノ持分ハ收益分收ノ部分ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條　部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條　民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條　第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條　主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條　主務大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有林野ノ增減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附　則

第二十六條　此ノ法律ハ北海道ニ施行セス

沖繩縣ノ國有林野ノ貸付、使用及賣拂竝其ノ產物ノ處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十七條　此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●沖繩縣國有林野特別處分ニ關スル件

勅令第百九十一號　明治三十九年七月二十六日

改正　大正三年第一三一號

第一條　沖繩縣下ノ國有林野ニシテ國土保安上又ハ其ノ經營上國有トシテ保存スルノ必要ナキモノハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ賣拂ヲ爲スコトヲ得

一　國有林野ヲ其ノ造林保護ヲ爲シタル區又ハ町村ニ賣拂フトキ

二　土地整理以前ニ開墾又ハ牧畜ノ爲貸付シタル國有林野ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

前項ニ依リ區又ハ町村ニ賣拂ヒタル國有林野ノ代金ニ付テハ三十箇年以內年賦延納ヲ許可スルコトヲ得

第二條　國有林野ノ產物ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ造林保護ヲ爲シタル區又ハ町村ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附　則（大正三年六月二十三日勅令第百三十一號）

本令ハ本令施行前ノ賣拂代金ニシテ滯納中ノ者ニモ之ヲ適用ス

●北海道國有未開地處分法

法律第五十七號　明治四十一年四月十五日

第一條　北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ

第二條　土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間內ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條　自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス

特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ付與ス

第四條　公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條　素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第六條　賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限竝賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　無償貸付　十年

二　有償貸付　十五年

第十條　前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ取消スコトヲ得

第十三條　賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十四條　土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定ノ事業方法ニ違反シタルトキハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セス

第十五條　左ノ場合ニ於テハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルモノヲ除クノ外貸付又ハ付與ノ處分ヲ取消スヘシ但シ借地料ハ之ヲ還付セス

一　第四條又ハ第五條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ニシテ一年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

二　第四條又ハ第五條ニ依リ付與又ハ有償ニテ貸付シタル土地ニシテ二年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十六條　貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルモノハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ因リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價額ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償ス但シ第三條第二項ニ依リ貸付シタル土地ノ評價額其ノ土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多キトキハ其ノ價額ニ依リテ辨償ス

前項ノ處分ニ要スル費用ハ返還地ノ使用ヲ爲スヘキ者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第十七條　自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シ又ハ賣拂・貸付若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アル時ハ所有者ニ於テ行政廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ除去セラレサルモノハ國ノ所有ニ歸ス

第十八條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處分若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條　民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄稅ヲ免除ス前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第二十條　土地ノ賣拂又ハ付與ノ處分ノ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ權利ハ消滅ス

第二十一條　拓殖上又ハ土地整理上必要アル場合ニ於テハ既ニ開墾セラレタル部分ヲ含ム土地ト雖本法ニ依リ處分スルコトヲ得

第二十二條　賣拂・貸付又ハ付與ノ處分ノ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ權利ハ消滅ス

第二十三條　賣拂ヒ又ハ付與シタル土地ノ返還ヲ命シタルトキハ行政廳ハ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ通知ノ事項ヲ登記用紙中甲區事項欄ニ記載シ不動產ノ表示、表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十四條　第十四條第一項又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十一年六月十一日勅令第百四十九號ヲ以テ明治四十一年七月一日ヨリ施行）

第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ニ對シテハ本法ノ特定地ニ關スル規定ヲ適用ス

舊法ニ依リ賣拂ヒ交換若ハ付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

●北海道國有林野及產物處分令

勅令第二百八十六號　明治四十一年十一月二十八日

第一條　國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂ヒ、讓與シ又ハ交換スルコトヲ得ス

但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條　北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ國有林野ヲ賣拂ヒ、貸付シ、讓與シ又ハ交換スルコトヲ得

一　公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ

二　區町村其ノ他公共團體ノ基本財產ニ充ツル爲賣拂フトキ

三　命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故者ニ賣拂フトキ

四　現ニ北海道ニ於テ鑛業又ハ北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製產品ノ製造業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ノ爲必要ナル林野ヲ賣拂フトキ

五　民有地、道路、河川等ニ介在スル二十町歩以內ノ林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

六　道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

七　宅地、耕地、牧場、放牧地、植樹地又ハ海產干場ニ供スル爲貸付スルトキ

八　北海道廳長官ノ定メタル重要製產品製造業ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ

九　木材業附帶ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ

十　見積借地料一年金三百圓ヲ超エサル林野ヲ貸付スルトキ

第三條　北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ國有林野ノ產物若ハ土石ヲ賣拂ヒ又ハ無料採取セシムルコトヲ得

一　公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ

二　部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ

三　北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製產品ノ製造業者ニ其ノ原料ヲ賣拂フトキ

四　前號ノ場合ニ於テ原料以外ノ產物ヲ併セ處分スルニ非サレハ森林經營上支障アルニ因リ之ヲ同時ニ賣拂フトキ

五　施業案ニ基ク斫伐案ヲ施行スルニ際シ競爭ニ付スルトキハ森林ノ更新ヲ障害スル虞アル場合ニ於テ其ノ森林ノ產物ヲ北海道廳長官ノ定ムル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ

六　非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築、營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

七　見積價格金六百圓ヲ超エサル產物又ハ土石ヲ賣拂フトキ

八　鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ

九　河海、沼湖、濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣拂フトキ

十　國有林野ノ保護及更新上必要ト認ムル場合ニ於テ制限ヲ付シ地元人民ニ其ノ產物ヲ採取セシムルトキ

第四條　用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間內ニ其ノ用途ニ使用セス又ハ指定ノ期間內ニ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第二百七號（北海道國有森林原野ニ關スル特別處分ノ件）ハ之ヲ廢止ス

●朝鮮官有財產管理規則

勅令第二百號　明治四十四年七月十七日

改正　大正七年第一三號

第一條　本令ニ於テ官有財產ト稱スルハ國有ノ不動產、船舶及其ノ附屬物ヲ謂フ

第二條　朝鮮總督所轄ノ官有財產ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ朝鮮總督之ヲ管理及處分ス

第三條　公用中ノ官有財產ハ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

前項ノ官有財產ハ公用ヲ妨ケサル場合ニ限リ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第四條　官有財產ハ其ノ管理又ハ處分ニ關係アル職員ニ對シ之ヲ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

第五條　官有財產ノ賣拂又ハ貸付ハ左ニ揭ケル場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付スルトキ

二　鑛業又ハ植林事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認ムル土地ヲ起業者ニ賣拂又ハ貸付スルトキ

三　官設事業ニ直接附隨スル事業ノ爲必要缺クヘカラスト認ムル土地又ハ工作物ヲ起業者ニ貸付スルトキ

四　開墾若ハ牧畜ノ爲土地ヲ貸付スルトキ又ハ其ノ事業成功ノ後其ノ土地ヲ起業者ニ賣拂フトキ
五　開墾、牧畜又ハ漁業ニ從事スル者ニ對シ其ノ事業ニ附帶シテ必要ナル土地又ハ工作物ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ
五ノ二　朝鮮總督ノ定ムル重要產物ノ製造業者ニシテ其ノ定ムル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ事業ノ爲必要ナル土地又ハ工作物ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ
五ノ三　朝鮮總督ノ定ムル資格ヲ有スル造船業者ニ對シ其ノ事業ノ爲必要ナル土地又ハ工作物ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ
六　市區計劃ノ確定シタル市街豫定地ヲ特別ノ條件ヲ附シ賣拂又ハ貸付スルトキ
七　一箇所ニ付六百坪未滿ニシテ評定價格千圓未滿ノ土地ヲ賣拂フトキ
八　一箇所千坪未滿ニシテ見積貸付料一年三百圓以下ノ土地ヲ五年以內ノ期間ヲ以テ貸付スルトキ
九　一年以內ノ期間ヲ以テ工作物ヲ貸付スルトキ
十　僻陬ノ地ニ在ル不用ノ工作物ニシテ評定價格五百圓未滿ノモノヲ賣拂フトキ
第六條　官有財產ヲ賣拂ヒタルトキハ其ノ代金完納ノ後ニ非サレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス但シ公用ノ爲又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第七條　官有財產ハ無料ニテ貸付シ又ハ使用ヲ許可スルコトヲ得ス但シ公用ノ爲又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第八條　官有財產ノ貸付料又ハ使用料ハ每年之ヲ前納セシムヘシ但シ相當ノ保證ヲ立テ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第九條　官有財產ノ貸付期間ハ土地ニ付テハ二十年其ノ他ノ物件ニ付テハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス
土地ノ利用ニ必要ナル工作物ヲ土地ト共ニ貸付スルトキハ其ノ土地ノ貸付期間之ヲ貸付スルコトヲ得
第十條　官有財產貸付期間中公用ニ供スルノ必要ヲ生シタルトキハ貸付ノ契約ヲ解除シ之ヲ返還セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ借受人ハ直接ニ受ケタル損害ニ付其ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得但シ特別ノ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十一條　官有財產ハ左ニ揭クル場合ヲ除クノ外之ヲ讓與スルコトヲ得ス
一　公用ニ供シ又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要ナルトキ
二　公園、公共道路、河川、堤防、溝渠、溜池等ヲ開設シタル爲不用ニ歸シタル舊同種類ノ土地ヲ其ノ開設者ニ下付スルトキ

三　公用ヲ廢シタル土地ヲ其ノ公用中維持保存費ノ負擔義務ヲ有シタル者ニ下付スルトキ
第十二條　官有財產ハ交換スルコトヲ得ス但シ土地建物ハ公用ニ供シ若ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要ナルトキ又ハ官有地整理ノ爲必要ナルトキニ限リ其ノ評定價格同一以上ノ土地建物ト交換スルコトヲ得
第十三條　左ノ場合ニ於テハ官有財產ノ賣拂、讓與、交換又ハ貸付ノ契約ヲ解除スルコトヲ得
一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲賣拂、貸付、讓與又ハ交換シタル官有財產ヲ三年以內ニ其ノ用ニ供セサルトキ
二　第五條第二號乃至第五號ノ規定ニ依リ賣拂又ハ貸付シタル土地又ハ工作物ヲ二年以內ニ其ノ用ニ供セサルトキ
三　第五條第六號ノ規定ニ依リ土地ノ賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者二年以內ニ工事ニ著手セサルトキ
前項各號ノ期間ハ天災其ノ他避クヘカラサル事由アリタル場合ニ限リ各其ノ半期間以內ノ延長ヲ爲スコトヲ得
第十四條　官有水面ハ公用ニ妨ナキ限リ著手及成功ノ期限竝一切ノ條件ヲ定メ其ノ埋立ヲ特許シ條件ノ定ムル所ニ從ヒ埋立地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ起業者ニ賣拂、貸付又ハ讓與スルコトヲ得
第十五條　朝鮮總督ハ明治四十四年四月一日ヨリ起算シ十年每ニ其ノ年三月三十一日迄ニ之ヲ主管大臣ニ報告スヘシ
第十六條　朝鮮總督ハ每年前會計年度ニ於ケル官有財產ノ增減報告書ヲ調製シ八月三十一日迄ニ之ヲ主管大臣ニ報告スヘシ
第十七條　前二條ノ官有財產目錄及官有財產增減報告書ハ主管大臣ニ於テ第一回ノ調製ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
官有財產目錄ハ第十五條ノ規定ニ依リ調製スルノ外同條ノ期限前ニ於テ第一回ノ調製ヲ爲スヘシ

●朝鮮國有森林未墾地及森林產物特別處分令

勅令第六號　大正元年八月十五日
改正　大正六年第一九八號、八年第四　五號

第一條　朝鮮ニ於ケル國有森林ノ賣拂又ハ貸付ハ左ニ揭クル場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要ナルトキ

二　移民團體ノ用ニ供スル爲必要ナルトキ

三　鑛業ノ爲必要ナルトキ

四　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル森林ヲ其ノ緣故者ニ賣拂フトキ

五　五十町步以內ノ森林ヲ賣拂フトキ

六　造林又ハ牧畜ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ

七　林業ニ直接附隨ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ

八　一年ノ見積貸付料百圓ヲ超エサル森林ヲ貸付スルトキ

第二條　國有森林ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　造林ノ用ニ供スル場合ニ於テハ八十年

二　工作物建設ノ用ニ供スル場合ニ於テハ三十年

三　其ノ他ノ用ニ供スル場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第三條　國有森林ハ左ニ揭クル場合ヲ除クノ外無料ニテ貸付スルコトヲ得ス

一　第一條第一號又ハ第七號ニ依リ貸付スルトキ

二　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル森林ヲ造林ノ目的ヲ以テ其ノ緣故者ニ貸付スルトキ

第四條　國有森林ノ產物ノ賣拂ハ左ニ揭クル場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用又ハ公益事業ノ爲必要ナルトキ

二　鑛業ノ爲必要ナルトキ

三　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル森林ノ產物ヲ其ノ緣故者ニ賣拂フトキ又ハ原料ト併合シテ處分スル非サレハ森林ノ更新ヲ障害スル虞アル混生木ヲ原料ト共ニ賣拂フトキ

三ノ二　朝鮮總督ノ定ムル重要物產ノ製造業者ニシテ其ノ定ムル資格ヲ有スルモノニ對シ原料ヲ賣拂フトキ又ハ原料ト併合シテ處分スル非サレハ森林ノ更新ヲ障害スル虞アル場合ニ於テ其ノ產物ヲ朝鮮總督ノ定ムル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ

五　見積價格千圓ヲ超エサルトキ

六　國有森林ノ事業ノ請負人ニ其ノ事業ニ必要ナル產物ヲ賣拂フトキ又ハ國有森林ノ產物ノ買受人ニ其ノ產物ノ搬出其ノ他ノ處置ニ必要ナル產物ヲ賣拂フトキ

第五條　朝鮮ニ於ケル國有未墾地ノ貸付ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得貸付シタル國有未墾地ヲ豫定ノ事業成功後其ノ借受人ニ賣拂フトキ亦同シ

第六條　本令中森林及其ノ產物ニ關スル規定ハ森林令ノ全部又ハ一部ヲ準用スル土地及其ノ產物ノ處分ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣官有財產管理規則

勅令第三十九號　明治三十五年二月二十五日

改正　明治四五年第七號

第一條　本令ニ於テ官有財產ト稱スルハ國有ニ屬スル不動產、船舶及其ノ附屬物ヲ謂フ

第二條　臺灣ニ於ケル官有財產ノ管理及處分ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外總テ本令ノ規定ニ依ル

第三條　官有財產ハ臺灣總督之ヲ管理及處分ス

第四條　公用中ノ官有財產ハ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

前項ノ官有財產ハ其ノ公用ヲ妨ケサル場合ニ限リ有償又ハ無償ニテ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第五條　官有財產ハ其ノ管理若ハ處分ニ關係アル職員ニ對シ之ヲ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

第六條　官有財產ノ賣拂又ハ貸付ハ左ニ揭クル場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スル爲公共團體若ハ其ノ起業者ニ賣拂又ハ貸付スルトキ

二　鑛業、鹽業、糖業、水產業、農業又ハ植林事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認ムル土地ヲ其ノ起業者ニ賣拂又ハ貸付スルトキ

三　官設事業ニ直接附隨スル事業ノ爲必要缺クヘカラスト認ムル土地、建物ヲ其ノ起業者ニ貸付スルトキ

四　未開ノ島嶼ニ於テ移住ノ爲必要ナル土地建物ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ

五　市區計畫ノ確定シタル市街豫定地ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ

六　開墾ノ爲土地ヲ貸付スルトキ又ハ開墾成功ノ後其ノ土地ヲ開墾者ニ賣拂フトキ

七　一箇所ニ付百五十坪以下ニシテ評定價格千圓未滿ノ土地ヲ賣拂フトキ

八　二百坪未滿ノ土地ヲ五箇年以內ノ期限ヲ以テ貸付スルトキ

第七條　官有財產ヲ賣拂ヒタルトキハ其ノ代金完納後ニ非サレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第八條　官有財產ハ無料ニテ貸付スルコトヲ得ス但シ公用ノ爲又ハ營利ヲ目的トセサル公益事業ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　開墾ノ爲土地ノ貸付ヲ請フ者アルトキハ無料ニテ貸付スルコトヲ得

前項ニ依リ土地ヲ貸付スルトキハ全部成功後道路、溝渠等公用ニ供スヘキ部分ヲ除キ其ノ成功地ヲ事業者ニ賣拂又ハ貸付スヘキコトヲ豫約スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ豫メ賣拂代價又ハ貸付料ヲ定ムヘシ

第十條　前條ノ開墾事業期間內ニ成功セサル場合ト雖モ土地整理上支障ナシト認ムルトキハ成功地ノ一部又ハ全部ヲ前條豫約ノ條件ニ從ヒ事業者ニ賣拂又ハ貸付スルコトヲ得但シ未成功地ハ之ヲ返還セシメ其ノ貸付期間ニ相當スル貸付料ヲ支拂ハシムヘシ

第十一條　官有財產ノ使用料又ハ貸付料ハ之ヲ前納セシムヘシ但シ前條但書ノ貸付料ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　官有財產ノ貸付ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　土地ハ二十年

二　其ノ他ノ物件ハ三年

土地ノ利用ノ爲ニ必要ナル定著物ヲ土地ト共ニ貸付スルトキハ其ノ土地ノ貸付期間之ヲ貸付スルコトヲ得

開墾ノ爲ニ貸付シタル土地ニシテ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ貸付期間內ニ事業成功セサルトキハ其ノ半期間以內ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第十三條　官有財產貸付期間中官ノ使用ニ供スルノ必要ヲ生シタルトキハ貸付ノ契約ヲ解除シ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ直接ニ受ケタル損失ニ付其ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得但シ特別ノ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　官有財產ハ讓與スルコトヲ得ス但シ左ニ揭クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　御料財產ニ編入スルトキ

二　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スル爲公共團體ニ下付スルトキ

三　公園、公共道路、河川、堤防、溝渠、溜池等ヲ開設シタル爲不用ニ歸シタル舊同種類ノ土地ヲ其ノ開設者ニ下付スルトキ

四　公用ヲ廢シタル土地ヲ其ノ公用中維持保存費ノ負擔義務ヲ有シタルモノニ下付スルトキ

第十五條　官有財產ハ他人ノ物件ト交換スルコトヲ得ス但シ土地建物ハ左ニ揭クル場合ニ限リ其ノ評定價格同一以上ノ土地建物ト交換スルコトヲ得

一　公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スル爲必要トスルトキ

二　官有地整理ノ爲必要トスルトキ

第十六條　左ノ場合ニ於テハ官有財產ノ賣拂、讓與、交換ヲ取消シ又ハ貸付ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

一　第九條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケタルモノ一箇年內ニ事業ニ著手セサルトキ

二　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スル爲ニ賣拂、讓與又ハ交換シタル官有財產ニシテ二箇年內ニ其ノ用ニ供セラレサルトキ

三　第六條第二、第三、第四及第八條ニ依リ賣拂又ハ貸付シタル土地建物ニシテ二箇年內ニ工事ニ著手セサルトキ

四　第六條第五ニ依リ土地ノ賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者二箇年內ニ其ノ用ニ供セラレサルトキ

前項各號ノ期間ハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ各其ノ半期間以內ノ延長ヲ爲スコトヲ得

第十七條　公用ニ供シタル官有水面ノ埋立ヲ請フモノアルトキハ其ノ公用ヲ廢スルモ妨ナキ部分ニ限リ著手竝成功期限及條件ヲ定メ其ノ埋立ヲ特許スルコトヲ得

第九條第十條第十一條及第十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　臺灣總督ハ明治三十四年三月三十一日ヨリ起算シ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日現在ノ官有財產目錄ヲ調製シ六月三十日迄ニ主管大臣ニ報告スヘシ

第十九條　臺灣總督ハ每年前會計年度間ニ於ケル官有財產ノ增減報告書ヲ調製シ六月三十日迄ニ主管大臣ニ報告スヘシ

第二十條　第十八條及第十九條ニ依リ調製シタル官有財産目錄及官有財産增減報告書ハ主管大臣ニ於テ其ノ調製シタル年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

第二十一條　此ノ規則ハ公用ニ供セサル官有水面ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十二條　此ノ規則ハ明治三十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　官租地ニ關シテハ當分ノ內現行ノ例ニ依ル

第二十四條　官有財産目錄ノ第一回調製ノ日ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臺灣官有森林原野及産物特別處分令

勅令第三百十一號　明治二十九年九月二十三日

改正　明治三二年第二九一號、三六年第一七號、四三年第四三七號、大正二年第九六號、四年第八三號

第一條　臺灣總督ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其ノ産物ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡シ又ハ賣渡スコトヲ得

一　官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其ノ建築材料ヲ賣渡ストキ

二　開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ

但森林原野ヲ賣渡スニハ其ノ買受豫約人ニ於テ豫定ノ事業ヲ成功シタル後ニ限ル

三　鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ

四　植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ

但森林原野ヲ賣渡スニハ其ノ買受豫約人ニ於テ豫定ノ事業ヲ成功シタル後ニ限ル

五　非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ

六　部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ

七　從來ノ慣行ニヨリ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ薪渡ストキ

八　地籍調査ニ依リ發見シタル開墾地ヲ其ノ開墾人ニ賣渡ストキ

八ノ二　林野調査ノ査定前慣行ニ依リ開墾、牧畜若クハ植樹ノ爲森林原野ヲ使用シ又ハ森林原野ノ重要産物ヲ採取シタル者ニ其ノ森林原野ヲ賣渡ストキ

九　建築其ノ他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣渡ストキ

十　季節アル生産物ヲ賣拂フトキ

十一　開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域內ニアル産物ヲ其ノ借受人ニ賣拂フトキ

十二　林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ産物ヲ賣渡ストキ

十三　部分方法ニ依リ林産物製造ノ爲メ其ノ原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ

十四　見積借地料一箇年金二百圓ニ超エサル森林原野ヲ貸渡スルトキ

十五　見積代價六百圓ニ超エサル主副産物ヲ賣拂フトキ

十六　河海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキ

十七　樟腦製造ノ爲樟樹若クハ其ノ他ノ木竹ヲ賣拂フトキ

十八　伐採期ニ達シタル蕃地ノ林野ノ産物ヲ林業ノ經驗ヲ有セメント又ハ石灰製造ノ爲メ土石ヲ賣拂フトキ

十九　臺灣總督ハ競爭ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以內ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下若クハ貸下ヲ望ムモノアルトキハ隨意之ヲ賣渡シ若クハ貸渡スルコトヲ得

第二條　臺灣總督ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ附シ地元人民ニ森林ノ副産物ヲ無料ニテ採取セシムルコトヲ得

第三條　臺灣總督ハ森林手入ノ爲メ採取シタル産物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得

第四條　本令施行ニ關スル細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

●樺太官有財産管理規則

勅令第二百八十九號　明治四十四年十二月二十三日

第一條　本令ニ於テ官有財産ト稱スルハ國有ノ不動産、船舶及其ノ附屬物ヲ謂フ

第二條　樺太廳長官所轄ノ官有財産ハ本令ニ依リ樺太廳長官之ヲ管理及處分ス

第三條　公用中ノ官有財産ハ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

前項ノ官有財産ハ公用ヲ妨クサル場合ニ限リ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第四條　官有財産ハ其ノ管理又ハ處分ニ關係アル職員ニ對シ之ヲ賣拂、貸付、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス

第五條　官有財産ノ賣拂又ハ貸付ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲公共團體又ハ其ノ起業者ニ賣拂又ハ貸付スルトキ

二　鑛業、漁業又ハ林業ニ直接附隨シテ必要ナル土地又ハ工作物ヲ其ノ起業者ニ賣拂又ハ貸付スルトキ

三　官設事業ニ直接附隨スル事業ノ爲必要ナル土地又ハ工作物ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ

四　移住民ニ對シ其ノ居住上必要ナル土地又ハ工作物ヲ賣拂又ハ貸付スルトキ

五　一箇所ニ付二百坪以下ニシテ評定價額五百圓以下ノ土地ヲ賣拂フトキ

六　一箇所ニ付二百坪以下ニシテ一年ノ見積貸付料百圓以下ノ土地ヲ五年內ノ期間ヲ以テ貸付スルトキ

第六條　官有財産ヲ賣拂ヒタルトキハ其ノ代金完納後ニ非サレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第七條　官有財産ハ無料ニテ貸付シ又ハ使用ヲ許可スルコトヲ得ス但シ左ニ揭クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　公用ニ供シ又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲必要ナルトキ

二　移住民ニ對シ其ノ居住上必要ナル土地又ハ工作物ヲ貸付スルトキ

第八條　官有財産ノ貸付料又ハ使用料ハ每年之ヲ前納セシムヘシ但シ相當ノ保證ヲ立テ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　官有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　土地ハ二十年

二　其ノ他ノ物件ハ三年

土地利用ノ爲必要ナル定著物ヲ土地ト共ニ貸付スルトキハ其ノ土地ノ貸付期間之ヲ貸付スルコトヲ得

第十條　官有財産ノ貸付期間中公用ニ供スル必要ヲ生シタルトキハ貸付ノ契約ヲ解除シ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ直接ニ受ケタル損害ニ付其ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得但シ特別ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　官有財産ハ讓與スルコトヲ得ス但シ左ニ揭クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　公用ニ供シ又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲公共團體又ハ其ノ起業者ニ下付スルトキ

二　公園、道路、河川、堤防、溝渠又ハ溜池ヲ開設シタル爲不用ニ歸シタル舊同種類ノ土地ヲ其ノ開設者ニ下付スルトキ

三　公用ヲ廢シタル土地ニ其ノ公用中維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者ニ下付スルトキ

第十二條　官有財産ハ交換スルコトヲ得ス但シ土地建物ハ左ニ揭クル場合ニ限リ其ノ評定價額同一以上ノ土地建物ト交換スルコトヲ得

一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲メ必要ナルトキ

二　官有地整理ノ爲必要ナルトキ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ官有財産ノ賣拂、讓與、交換又ハ貸付ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲賣拂、讓與、交換又ハ貸付シタル官有財産ヲ三年內ニ其ノ用途ニ供セサルトキ

二　第五條第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ賣拂又ハ貸付シタル官有財産ヲ二年內ニ豫定ノ用途ニ供セサルトキ

三　賣拂代金又ハ貸付料金ヲ指定ノ期間內ニ完納セサルトキ及成功ノ期限竝一切ノ條件ヲ定メ其ノ埋立ヲ特許スルコトヲ得

第十四條　官有水面ハ公用ニ妨ナキ部分ニ限リ著手及成功ノ期限ヲ定メ埋立ヲ特許スルコトヲ得

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ全部成功ノ後道路、溝渠等公用ニ供スル部分ヲ除クノ外其ノ成功地ヲ事業者ニ賣拂、讓與又ハ貸付スヘキコトヲ豫約スルコトヲ得

第十六條　官有水面埋立ノ特許ヲ受ケタル者指定ノ期間內ニ其ノ事業ニ著手又ハ成功セサルトキハ其ノ特許ヲ取消スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ指定ノ期間內ニ著手又ハ成功セサルトキハ半期間內ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第十七條　前條ノ規定ニ依リ特許ヲ取消シタル場合ニ於テ水面又ハ土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ成功地ノ一部又ハ全部ヲ其ノ事業者ニ賣拂、讓與又ハ貸付スルコトヲ得

第十八條　樺太廳長官ハ明治四十四年四月一日ヨリ起算シ十年每ニ其ノ年三月三十一日現在ノ官有財産目錄ヲ調製シ六月三十日迄ニ之ヲ主管大臣ニ報告スヘシ

第十九條　樺太廳長官ハ每年前會計年度ニ於ケル官有財産ノ增減異動報告書ヲ調製シ六月三十日迄ニ之ヲ主管大臣ニ報告スヘシ

第二十條　前二條ノ官有財産目錄及官有財産增減異動報告書ハ主管大臣ニ於テ其ノ調製シタル年開會ノ帝國議會ニ之ヲ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太國有土地管理規則（明治四十年三月二十九日勅令第八十三號）ハ之ヲ廢止ス但シ同令ニ依リ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

官有財産目錄ハ第十八條ノ規定ニ依リ調製スルノ外本令施行ノ日ヨリ三年內ニ第一回ノ調製ヲ爲スヘシ

●樺太國有森林原野産物特別處分令

勅令第二百九十七號　明治四十四年十二月二十九日

第一條　樺太ニ於ケル國有森林原野産物ノ處分ニ付テハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用ニ供シ又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲メ賣拂フトキ

二　鑛業又ハ漁業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル材料ヲ賣拂フトキ

三　樺太廳長官ノ定ムル重要製産品製造業者ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル原料ヲ賣拂フトキ

四　前號ノ場合ニ於テ原料以外ノ産物ヲ併セ處分スルニ非サレハ森林原野經營上支障アルニ依リ同時ニ之ヲ賣拂フトキ

五　國有森林原野ニ關スル事業ノ請負人ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル産物ヲ賣拂フトキ

六　國有森林原野産物ノ買受人ニ對シ其ノ伐採及搬出ニ關スル作業ニ必要ナル産物ヲ賣拂フトキ

七　地元住民ニ對シ其ノ自家用ノ薪炭材又ハ用材ヲ賣拂フトキ

八　樹皮又ハ樹脂ヲ賣拂フトキ

九　試賣用トシテ輸出又ハ移出スヘキ木材ヲ賣拂フトキ

十　被害木、枯損木又ハ障害木ヲ賣拂フトキ

十一　賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲シタル森林原野ノ産物ヲ其ノ買受人、讓受人又ハ借受人ニ賣拂フトキ

十二　埋立又ハ排水ニ必要ナル材料ヲ賣拂フトキ

十三　官廳ノ土木建築事業ニ必要ナル材料ヲ其ノ事業ノ請負人ニ賣拂フトキ

十四　非常ノ災害アリタル場合ニ於テ建築營繕ニ必要ナル材料ヲ其ノ罹災者ニ賣拂フトキ

十五　國有森林原野ノ保護上又ハ更新上必要ト認ムル場合ニ於テ地元住民ニ其ノ産物ヲ賣拂フトキ

第二條　樺太ニ於ケル國有森林原野ノ産物ハ左ノ場合ニ非サレハ之ヲ讓與スルコトヲ得ス

一　公用ニ供シ又ハ營利ヲ目的トセサル公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スルトキ

二　國有森林原野ノ保護上又ハ更新上必要ト認ムル場合ニ於テ地元住民ヲシテ雜草苗蓆ノ類ヲ採取セシムルトキ

三　地元住民ヲシテ雜草苗蓆ノ類ヲ採取セシムルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

南洋廳所轄ノ國有財産ノ管理ニ關スル件（大正十一年七月十八日南洋廳令第十四號）

第七章　預金、保管及供託

●日本銀行國庫金取扱規程

大藏省令第十號　大正十一年二月一日（第四章收入及支出第一節總規ノ部ニ掲ク）

●預金規則

太政官布告第十三號　明治十八年五月三十日

第一條　大藏省中ニ【預金局】ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム

第一　【驛遞局】貯金

第二　各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金

第三　社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ

第二條　預リ金取扱手續ハ【大藏卿】ノヲ定ム

第三條　預リ金ノ利子割合ハ【大藏卿】之ヲ定ム

第四條　預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス

第五條　預リ金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス

第六條　預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス

第七條　【大藏卿】ハ便宜ノ地ヲ撰ミ【預金局出張所】ヲ設置シ又ハ【國庫金取扱所】ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第八條　預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ【證券印稅】ヲ納ムルニ及ハス

右奉　勅旨布告候事

●預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

法律第七十五號　明治二十三年八月二十八日

第一條　預金規則第一條第二第三ニ依リ【預金局】ニ預リタル金額三百圓以上ニ達スルトキハ預ケ人ノ請求ニ依リ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第二條　前條預金ノ額二千圓ヲ超過スルトキハ【預金局長】ハ其超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第三條　前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ金額ノ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除ク外所有者ノ望ニ依リ之ヲ【預金局】ニ保管スルコトヲ得

第四條　本法ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

●預金部預金取扱規程

大藏省令第六號　大正十一年二月一日

第一章　總則

第一條　預金規則、明治二十三年法律第七十五號其ノ他法律勅令ノ規定ニ依ル大藏省預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ

第二條　預ケ人ハ明治三十九年勅令第二百十一號ニ依ル預金ノ預ケ人ヲ除クノ外左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格、氏名及住所ヲ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ屆出ツヘシ

一　官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官

二　社寺、教會、會社其ノ他法人ニ係ルモノハ其ノ理事者又ハ人民ノ共有ニ係ルモノハ其ノ總代二人

預金部預金及預金購入有價證券ノ受拂ニ關シ預ケ人ヨリ提出スル書類ニハ預ケ人（擔當者ノ場合ニ於テハ其ノ擔當者）之ニ記名捺印スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ別ニ定ムル所ニ依リ特ニ指定シタル者ヲシテ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第三條　預ケ人（擔當者アル場合ニ於テハ其ノ擔當者）及證明ヲ爲ス者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二章　預金ノ拂込

第四條　預ケ人預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ヲシテ預金部預金拂込ミ預金部預金

領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ預ケ人カ官廳ナル場合ニ於テハ小切手用紙及預金部預金帳ノ交付ヲ受クヘシ但シ預金部預金帳ハ官廳以外ノ預ケ人ト雖之カ交付ヲ受クルコトヲ得

第五條　預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條　預ケ人日本銀行本店ヨリ預金購入有價證券利子受入通知書又ハ預金購入有價證券償還金受入通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ元加利子額又ハ償還金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第七條　預金規則第一條第一號ノ預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還金預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條　預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第三章　預金ノ拂戻

第九條　預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第十條　前條ノ場合ニ於テ第四條第二項ノ規定ニ依リ小切手用紙ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ預金額ヲ限度トシテ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第十一條　預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添ヘ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第十二條　預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ノ

裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第四章　預金ノ利子

第十三條　預金ノ利子ハ第十五條乃至第十七條ニ規定スル場合ヲ除クノ外毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス但シ預金全額ノ拂戻ニ係ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス

前項ノ規定ニ依リ利子ヲ元金ニ組入ルル預金ニ付テハ預金拂込ノ月及拂戻ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ利子ヲ付セス預金ノ一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

第十四條　預ケ人毎年四月日本銀行ヨリ預金利子元加通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

前條第一項但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ元加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十五條　預金規則第一條第一號ノ預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ、郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條　大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條　預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子額ノ支拂ヲ日本銀行ヲ經テ大藏省預金部ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第五章　預金購入有價證券

第十八條　預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ日本銀行ヲ經テ大藏省預金部ニ提出スヘシ

預金規則第一條第一號ノ預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

預ケ人前二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ有價證券購入前ト雖其ノ購入代金見積額ニ相當スル預金ハ之カ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第十九條　大藏省預金部前條第一項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ休日ヲ除キ五日內ニ時價ヲ以テ、第二項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入保管セシムヘシ

第二十條　大藏省預金部明治二十三年法律第七十五號第二條ノ規定ニ依リ國債證券ヲ購入スル場合ニ於テハ日本銀行本店ニ對シ購入スヘキ國債證券ヲ指定シ時價ヲ以テ購入保管セシムヘシ

第二十一條　大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入濟通知書ヲ日本銀行ヲ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條　預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十三條　預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十四條　預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第六章　證　明

第二十五條　預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行ヨリ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ證憑書類ト對照シ證明ノ上五日內ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏日本銀行ヨリ預金部受拂計算表ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第七章　雜　則

第二十六條　日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預ケ人日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ第十四號書式ノ預金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ前項ノ證明書ヲ日本銀行乙店ニ提出シ承認ノ旨ノ記入ヲ受クヘシ

第二十七條　預ケ人預金部預金領收證書、預金部預金振込濟通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル

トキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ振込人預金部預金振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十八條　第二十五條ノ規定ニ依リ預ケ人又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計突合表又ハ預金部受拂計算表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第二十九條　預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條　預金規則第一條第一號ノ預金ノ預ケ人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

附則

第三十一條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　預金取扱規程（明治二十六年九月二十日大藏省令第十九號）ハ之ヲ廢止ス

第三十三條　本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預ケ人ハ從前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

保管金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依ル預金部預金ノ預ケ人ハ保管物取扱規程ニ依ル取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條　本令施行前預ケ人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳ト看做ス

第一號書式　預金部預金拂込書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金拂込書

第　號

金

上記金額拂込候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

第二號書式　保管金振込書（用紙寸法半紙判半截）

保管金振込書

金

右某廳ノ保管金トシテ振込候也

年　月　日

住所

氏名㊞

日本銀行（何店）宛

備考　本書ハ之ヲ横書スルコトヲ得

第三號書式　有價證券利子預金組入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券利子預金組入請求書

金　　內譯下記ノ通

上記利子金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ元加相成度候也

年　月　日　　貯金局長氏名㊞

日本銀行宛

證券種別	券面額	利子額	內譯				
			所得稅賦課			同免除	
			券面額	利子額	所得額	券面額	利子額

第三號書式附屬　所得稅免除證券利子證明書（用紙寸法半紙判半截）

所得稅免除證券利子證明書

金　　利子金額

內譯

證券種別	記番號及回數別	券面額	利子額

上記證券ハ所得稅ヲ免除スヘキ所有者ノ分ナルコトヲ證明ス

年　月　日

貯金局長氏名㊞

第四號書式　有價證券償還金預金組入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券償還金預金組入請求書

金　　證券何枚

內譯下記ノ通

上記償還金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ組入相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名㊞

日本銀行宛

內譯（證券記番號ハ別紙記番號內譯表ノ通）

證券種別	券面、記番號及回數別	枚數	券面額	割增金	月割利子	受預高

第四號書式附屬　證券記番號內譯表（用紙寸法半紙判半截）

證券記番號內譯表

行數	券圓		券圓	
	記號	番號	記號	番號

第五號書式　預金部預金拂戻請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金拂戻請求書

第　　號

金

上記金額拂戻相成度候也

年　　月　　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）印

日本銀行（何店）宛

上記金額領收候也

年　　月　　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）印

日本銀行（何店）宛

第六號書式　預金部預金預入替請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金預入替請求書

金

預入替受入官廳

受入店

上記ノ通預入替相成度候也

年　　月　　日

某廳取扱主任官官氏名印

日本銀行（何店）宛

第七號書式　預金部預金利子元加請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子元加請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子元加ヲ要スルモノニ付預金ニ元加ノ手續相成度候也

年　　月　　日

貯金局長氏名印

大藏省理財局長宛

上記金額元加ヲ要ス

年　　月　　日

大藏省理財局長氏名印

日本銀行宛

第八號書式　預金部預金利子支拂請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子支拂請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子支拂ヲ要スルモノニ付支拂ノ手續相成度候也

年　　月　　日

貯金局長氏名印

大藏省理財局長宛

上記金額支拂ヲ要ス

年　　月　　日

大藏省理財局長氏名印

日本銀行宛

上記金額領收候也

年　　月　　日

貯金局長氏名印

日本銀行宛

第九號書式　預金部預金利子支拂請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子支拂請求書

金　　保管金（又ハ供託金）利子

上記金額支拂相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ某供託局長氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

上記金額領收候也

年　月　日

住所

氏名㊞

日本銀行（何店）宛

第十號甲書式　有價證券購入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券購入請求書

何公債證書額面何圓也

上記證券預金何程ノ内ヲ以テ購入保管相成度候也

年　月　日

其廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）㊞

大藏省理財局長宛

金　　年　月　日
預金現在高

上記ノ通ニ候也

年　月　日

日本銀行（何店）㊞

第十號乙書式　有價證券購入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券購入請求書

下記入券　月　日ノ時價ヲ以テ購入保管相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名㊞

大藏省理財局長宛

證券種別	券面額	券面別	枚數	見込相場額	備考

第十一號甲書式　有價證券購入濟通知書（用紙寸法縱六寸五分横一尺五寸）

面

表書有價證券購入代金ニ對スル預金領收候也

年　月　日

何某㊞

日本銀行（何店）宛

第　號

有價證券購入濟通知書

何公債證書額面何圓也
購入代金

取扱店名

上記ノ通リ購入濟ニ付通知ス

年　月　日

大藏省理財局長氏名㊞

何某宛

裏

第　號

有價證券購入濟通知書原符

（郵便貯金）

證券種別	券面別	購入代金

貯金局長氏名

購入濟通知書年月日

第　號

有價證券購入濟通知書

（郵便貯金）

證券種別	券面別	購入代金

上記證券購入濟ニ付通知ス

年　月　日

大藏省理財局長氏名㊞

日本銀行宛

第十二號甲書式　預金購入有價證券拂戻請求書

（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券拂戻請求書

（例ノ如キ渡ノトキハ内渡ノ内）

何公債證書額面何圓也ノ内

何公債證書額面何圓也ノ内

保管通知書第何號ノ内

上記證券拂戻相成度候也

年　月　日

（若ハ何々事務取扱所名）（又ハ何々代理人住所氏名）㊞

某廳主任官官氏名

日本銀行（何店）宛

内譯

別種證券	別券面	記號番號	枚數

備考　證券ノ送付ヲ求ムル者ハ書留便又ハ何々便等其ノ方法ヲ示シ且送付ニ要スル郵便切手ヲ添附スヘシ

第　號

有價證券購入濟通知書原符

何公債證書額面何圓也
證入代金

取扱店名
預ケ人
購入濟通知書年月日

第　號

有價證券購入濟通知書

何公債證書額面何圓也
購入代金

預ケ人

上記ノ通預金ヲ以テ購入濟ニ付通知候也

年　月　日

大藏省理財局長氏名㊞

日本銀行（何店）宛

第十一號乙書式　有價證券購入濟通知書

（用紙寸法縱八寸五分橫一尺五寸）

面

表面ノ通大藏省ヨリ通知ヲ受ケ候ニ付預金部預金帳及預金購入有價證券保管帳差出候間購入代價及有價證券ノ記入相成度候也

年　月　日

日本銀行宛

貯金局長氏名㊞

裏

第　號

有價證券購入濟通知書

（郵便貯金）

別種證券	別券面	購入代金

上記證券購入濟ニ付通知ス

年　月　日

大藏省理財局長氏名㊞

貯金局長宛

第十二號乙書式　預金購入有價證券拂戻請求書

（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券拂戻請求書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也　　何枚

內譯下記ノ通

上記證券拂戻相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名印

日本銀行宛

內　　譯

券面、記番號及回數別	枚數	券面、記番號及回數別	枚數	券面、記番號及回數別	枚數

第十三號甲書式　預金購入有價證券受領證書

（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券受領證書

何公債證書額面何圓ノ內　　（內渡ノトキノ例）

何公債證書額面何圓也

內譯下記ノ通

保管通知書第何號ノ分（內渡ノトキハ第何號ノ內）

上記證券領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）印

日本銀行(何店)宛

內　　譯

證券種別	券面別	記番號	枚數

第十三號乙書式　預金購入有價證券受領證書

（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券受領證書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也　　何枚

內譯下記ノ通

上記證券領收候也

年　月　日

貯金局長氏名印

日本銀行宛

券面、記番號及回數別	枚數	券面、記番號及回數別	枚數	券面、記番號及回數別	枚數	券面、記番號及回數別	枚數

第十四號書式　預金取扱店變更申込書

（用紙寸法半紙判半截）

預金取扱店變更申込書

左記預金日本銀行(何店)ノ取扱ニ變更相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）印

日本銀行(何店)宛

記

金　　預金現在高

●保管金規則

法律第一號　明治二十三年一月七日

改正　明治三三年第一八號

第一條　法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一　保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二　保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三　訟訴事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條　保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條　保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條　保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ【證券印稅】ヲ納ムルニ及ハス

●保管金取扱規程

大藏省令第五號　大正十一年二月一日

改正　大正一三年第一九號

第一章　總則

第一條　政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條　取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルヘシ但シ數日內ニ拂戻ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ其ノ官廳ノ出納官吏ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ預入ヲ爲ス取扱官廳ハ所在地日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得

第四條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章　保管金ノ提出

第五條　保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添ヘ現金ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ保管金ヲ提出スル者ハ預金部預金取扱規程第五條ノ規定ニ依リ保管金振込書ヲ添ヘ豫メ現金ヲ取扱官廳ノ預金取扱店ニ振込ミ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ保管金提出書ヲ添ヘ取扱官廳ニ提出スルコトヲ得

取扱官廳前二項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　取扱官廳前條ノ規定ニ依リ保管金ノ提出ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ保管金受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第三章　保管金ノ拂渡

第七條　保管金ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者ハ保管金拂渡請求書又ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書又ハ受領證書ニ領收ノ旨ヲ記載セシメ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ヲ除クノ外預金部預金ニ預入ヲ爲シタル取扱官廳ハ現金ノ交付ニ代ヘ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第七條ノ二　出納官吏事務規程第三十五條乃至第三十七條ノ規定ハ取扱官廳ノ振出シタル小切手ニシテ其ノ振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　保管金ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者其ノ拂渡ヲ請求セムトスルニ當リ取扱官廳ノ預金取扱店所在地外ノ預金取扱店ニ於テ支拂ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ請求書又ハ受領證書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナキトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノナルトキハ預金部預金取扱規程第十二條ノ手續ヲ爲シ第二號書式ノ保管金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ

第四章　保管金利子ノ拂渡

第九條　保管金ノ利子ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者ハ每年三月三十一日迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘシ但シ保管金全額ノ拂渡ヲ受ケル權利者ハ其ノ拂渡ヲ受ケル時迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘキモノトス

前項ノ利子ハ保管金提出ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス保管金一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

第十條　前條ノ權利者保管金ノ利子拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ保管金利子請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十一條　取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ預金部預金取扱規程第十七條ノ規定ニ依ル預金部預金利子支拂請求書ヲ請求者ニ交付シ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ但シ前條ノ請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第五章　保管金ノ保管替

第十二條　甲官廳ニ保管金ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第四號書式ノ保管金保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十三條　甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預金取扱規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尚有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利子參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第十四條　乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十五條　前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲サムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

第六章　政府ノ所得ニ歸シタル保管金

第十六條　保管金規則、遺失物法其ノ他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

第十七條　主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ

取扱官廳前項ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ依リ歳入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　第十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章　雜則

第十九條　保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲スヘシ

第二十條　支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　保管物取扱規程（明治二十六年九月二十日大藏省令第九號（保管金金庫換及振換拂竝ニ其利子仕拂手續）ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ當該金庫ノ國庫金出納ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ヲ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ

第二十四條　前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歳入納付、特殊資金ニ組入又ハ期滿失效年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス

前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

（様式ハ五一五頁ニ掲ク）

●救恤又ハ學藝技術奬勵寄附金ノ保管出納ニ關スル件

勅令第三百二十九號　明治三十三年八月三日

改正　明治三九年第二〇號、四二年第三一九號

政府ハ救恤又ハ學藝技術奬勵ノ目的ヲ有スル寄附金ノ保管出納ヲ爲スコトヲ得

●陸海軍病院入院患者ノ携有スル金錢又ハ物品ノ保管ニ關スル件

勅令第四十二號　大正六年四月二十五日

政府ハ陸海軍病院入院患者ノ携有スル金錢又ハ物品ノ保管ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ大正六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式　保管金受領證書（用紙寸法半紙判半截）

保管金受領證書

第　號

金

保管ノ事由

上記金額領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

何某宛

上記金額領收候也

年　月　日

住所

氏名㊞

某廳取扱主任官宛

備考

一　本書ハ之ヲ縱書トスルコトヲ得

二　受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第二號書式　保管金支拂通知書（用紙寸法半紙判半截）

保管金支拂通知書

保管金受領證書日附番號	
期滿失效年月日	
小切手振出日附	
小切手ヲ宛テタル店名	
金	前記ノ金額日本銀行（何店）ニ於テ受領セラルヘシ
年　月　日	某廳取扱主任官官氏名㊞
何某宛	

領收證

前記ノ金額領收候也

年　月　日

住所

氏名㊞

收入印紙㊞

備考

一　用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐フル用紙ヲ用ユヘシ

二　官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シ發行スヘシ

三　領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

（注意）受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

裏面書式

（注意事項）

一　受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記入シ記名捺印スヘシ

二　受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

三　受取人カ代理人ヲ以テ支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記入スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ

四　代理人カ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ表面領收證ノ部ニ代理人タルノ肩書ヲ附スヘシ

五　受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　小切手振出ノ日附ヨリ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス

七　本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支拂ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

委任狀

收入印紙 ㊞

表面金額ノ受取方ヲ　ニ委任候也

年　月　日　住所
氏名　㊞

第三號書式　保管金利子請求書（用紙寸法半紙判半截）

保管金利子請求書

年　月　日第　號保管金　ニ對スル利子支拂相成度及請求候也

年　月　日　住所
氏名　㊞

某廳取扱主任官宛

金

保管金　ニ對スル　年　月ヨリ　年　月迄年分ノ割

右支拂フヘキコトヲ證明ス

年　月　日　某廳取扱主任官官氏名㊞

日本銀行（何店）宛

前記金額領收候也

年　月　日　住所
氏名　㊞

日本銀行（何店）宛

第四號書式　保管金保管替請求書（用紙寸法半紙判半截）

保管金保管替請求書

金

保管金受領證書日附番號
保管スヘキ令法ノ條項
保管ノ事由
新取扱官廳名
上記ノ通保管替相成度候也

年　月　日　住所
氏名　㊞

某廳官任主扱取廳宛

本書保管替ノ申出ヲ承認候間貴廳ノ保管金トシテ金保管替相成度候也

但シ別紙保管金利子參考表ヲ添附ス（利付ノ分ニ限リ此ノ但書ヲ記入スルコト）

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

某廳宛

備考　本書ハ之ヲ縱書トスルコトヲ得

第五號書式　保管金利子參考表（用紙寸法半紙判半截）

保管金利子參考表

摘要	受	拂	殘

某廳取扱主任官官氏名㊞

備考　摘要ノ欄ニハ前年度ヨリ越及月別ヲ記入スヘシ

第六號書式　保管金政府所得調書（用紙寸法美濃判半截）

書調得所府政金管保

分　度　年　　號　第

額金	效日失月滿期年	由事ノ管保	受號金番書證領保管	人日月受年

回名氏官官任主扱取廳某

●政府所有有價證券取扱規程

大藏省令第七號　大正十一年二月一日

第一條　各官廳ニ於ケル政府所有有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條　各官廳ハ特殊ノ事由アルモノヲ除クノ外政府所有有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ寄託スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スルモノトス

第三條　各官廳前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ送付シ政府所有有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四條　各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第二號書式ノ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第五條　各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ政府所有有價證券利札請求書ヲ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第六條　各官廳日本銀行ヨリ政府所有有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ證憑書類ト對照シ證明ノ上五日内ニ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第七條　各官廳第三條ノ政府所有有價證券寄託書ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ又ハ其ノ變更ヲ要スルトキハ之カ訂正ヲ爲ス爲訂正請求書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第八條　各官廳政府所有有價證券受託證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

第九條　各官廳政府所有有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十條　各官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式　政府所有有價證券寄託書（用紙寸法政府所有有價證券取扱規程樣式）

政府所有有價證券寄託書

第　　號

下記證券寄託候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

宛（何）行（店）日本銀

證券種別	枚數	券面額	番號、記號及回數別	備考

備考
一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ
二　利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第二號書式　政府所有有價證券拂渡請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府所有有價證券拂渡請求書

受託證書番號

第　　號　　下記證券拂渡相成度候也

（又ハ第　號ノ内）

年　月　日

受託證書日附　　某廳取扱主任官官氏名㊞

日本銀行（何）店宛

下記證券領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

宛（何）行（店）日本銀

證券種別	枚數	券面額	番號、記號及回數別	備考

備考
一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ
二　利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第三號書式　政府所有有價證券利札請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府所有有價證券利札請求書

受託證書番號

下記證券何年何月何日交付相成度利札渡候也

年　月　日

受託證書日附　　某廳取扱主任官官氏名㊞

日本銀行（何）店宛

下記利札領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

宛（何）行（店）日本銀

證券種別	枚數	券面額	番號、記號及回數別	備考

備考　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

●政府保管有價證券取扱規程

大藏省令第八號　大正十一年二月一日

第一章　總則

第一條　政府ノ保管ニ係ル有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條　取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　取扱官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第四條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章　保管有價證券ノ提出及寄託

第五條　保管有價證券ヲ提出スル者ハ第一號書式ノ政府保管有價證券提出書及其ノ印鑑ヲ添ヘ有價證券ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

取扱官廳前項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ豫メ有價證券ヲ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ振込マシムルコトヲ得

第七條　保管有價證券ヲ提出スル者前條ノ振込ヲ爲サムトスルトキハ第二號書式ノ政府保管有價證券振込書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ政府保管有價證券振込濟通知書ノ交付ヲ受クヘシ

保管有價證券ヲ提出スル者前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券振込濟通知書及其ノ印鑑ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第八條　取扱官廳第五條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ有價證券又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ提出ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第九條　取扱官廳第五條ノ規定ニ依リ提出ヲ受ケタル政府保管有價證券ヲ日本銀行ニ寄託セムトスルトキハ政府保管有價證券提出書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ送付シ政府保管有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ但シ第五條第二項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券提出書ヲ省略セシメタルモノニ付テハ第四號書式ノ政府保管有價證券內譯書ヲ添附スルモノトス

第十條　取扱官廳ハ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スル有價證券ヲ寄託セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第十一條　保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ第五條ノ場合ニ於テハ取扱官廳ヲ經テ日本銀行ニ、第七條第一項ノ場合ニ於テハ政府保管有價證券振込書ニ添ヘ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第三章　保管有價證券ノ拂渡

第十二條　保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ第五號書式ノ政府保管有價證券拂渡請求書又ハ第八條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十三條　取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ請求者ニ交付スヘシ

取扱官廳前條ノ請求ニ依リ政府保管有價證券ノ一部ノ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付シ請求者ニ對シテハ第六號書式ノ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ受託證書、通知書又ハ拂渡書ノ交付ヲ受ケタル者ハ之ヲ日本銀行ニ振出シ有價證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十四條　取扱官廳第十二條ノ請求ヲ受ケタルトキ第二條但書ノ規定ニ依リ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ之ヲ請求者ニ拂渡スヘシ

第十五條　保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ支拂期到來シタルモノノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第七號書式ノ政府保管有價證券利札請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第二條但書ノ規定ニ依リ取扱官廳ニ於テ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ前項ノ權利者ハ前項ノ請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十六條　取扱官廳日本銀行ヨリ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券元利金受入ノ通知ヲ受ケタルトキハ保管金トシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第四章　保管有價證券ノ保管替

第十七條　甲官廳ニ身元保證金トシテ有價證券ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第八號書式ノ政府保管有價證券保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十八條　甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該有價證券ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、日本銀行ニ寄託セルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ政府保管有價證券保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ寄託替ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十九條　乙官廳前條ノ請求書ノ送付及日本銀行ヨリ政府保管有價證券受託證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第五章　政府ノ所得ニ歸シタル保管有價證券

第二十條　政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ

主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第六章　證明

第二十一條　取扱官廳日本銀行ヨリ政府保管有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ證憑書類ト對照シ證明ノ上五日內ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第七章　雜則

第二十二條　取扱官廳政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第七條第一項ノ振込人政府保管有價證券振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十三條　政府保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲シ其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第二十四條　取扱官廳政府保管有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

附則

第二十五條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條　本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該金庫ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス

前項ノ保管有價證券ハ從前ノ規定ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第一號書式　政府保管有價證券提出書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券提出書

何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也　何枚

內譯

何圓券　何第何番ヨリ何第何番迄　何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬（利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト）

何圓券　何第何番　何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

保管ノ事由

右提出候也

年　月　日　住所

某廳取扱主任官宛　氏名　印

右證券寄託候也

某廳取扱主任官官氏名　印

年　月　日

日本銀行(何店)宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第二號書式　政府保管有價證券振込書(用紙寸法半紙判半截)

政府保管有價證券振込書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也

內譯

何圓券　何第何番ヨリ何第何番迄　何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券　何第何番　何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

右某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也

年　月　日

日本銀行(何店)宛

住所

氏名　㊞

備考

一、全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二、本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第三號書式　政府保管有價證券受領證書(用紙寸法半紙判半截)

政府保管有價證券受領證書

保管ノ事由　某廳取扱主任官官氏名㊞

保管日附　下記證券領收候也

何某宛

備考	券面、記番號及回數別	額面券	數枚	證券種別

上記證券拂渡ノ書證領收候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

某廳取扱主任官宛

備考

一、全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二、利札缺欠ノモノニ付テハ其旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三、本書ヲ以テ有價證券ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第四號書式　政府保管有價證券內譯書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券內譯書

下記證券寄託候也　　附日保管

年　月　日

提出者氏名

宛（何店）日本銀行

回名氏官官任主扱取廳某

別種證券	數枚	額面券	番號、記別數回及券面	備考

備考

一、全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二、利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五號書式　政府保管有價證券拂渡請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券拂渡請求書

政府保管有價證券受領證書日附及番號（內渡ノトキハ政府保管有價證券受領證書ノ內ニ記入スルコト）

何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也

內譯

何圓券　何第何番　何　枚

何　枚

右證券拂渡相成度候他

年　月　日

住所

氏名　㊞

某廳取扱主任官宛

右證券拂渡ノ證書領收候也

年　月　日

氏名　㊞

某廳取扱主任官宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟額ヲ併セテ記入スヘシ

二　政府保管有價證券受領證書記入額全部ノ拂渡ヲ請求スル場合ニハ證券ノ記番號ヲ省略スルコトヲ得

三　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ本書ニ添附スルモ妨ナシ

第六號書式　政府保管有價證券一部拂渡書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券一部拂渡書

下記證券拂渡相成度候也

保管日附

年　月　日

提出者氏名

某廳取扱主任官官氏名㊞

日本銀行（何店）宛

下記證券領收候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

日本銀行（何店）宛

證券種別	枚數	額面券	番號、記號及回數別	備考

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二　利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三　遺失物法ニ依ルモノナルトキハ日本銀行カ拂渡ヲ爲スヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

第七號書式　政府保管有價證券利札請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券利札請求書

保管日附

取扱官廳名

何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也

內譯

何圓券　何第何番　何枚

右證券ノ何年何月渡利札交付相成度候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

日本銀行（何店）宛

右利札領收候也

年　月　日

日本銀行（何店）宛

何枚

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込額ヲ併セテ記入スヘシ

二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ナシ

第八號書式　政府保管有價證券保管替請求書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券保管替請求書

政府保管有價證券受領證書日附及番號

何公債證書（何株券又ハ何債券）額面何圓也

內譯

何圓券　何第何番　何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

右證券何官廳ノ保管有價證券ニ變更相成度候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

某廳取扱主任官宛

保管替ヲ承認候間貴廳ノ保管有價證券トシテ取扱相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官印

某廳取扱主任官宛

備考

一　全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込濟ヲ併セテ記入スヘシ

二　本書ノ內譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

●日本銀行政府有價證券取扱規程

大藏省令第十一號　大正十一年二月一日

第一章　總則

第一條　日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ有價證券又ハ保管ニ係ル有價證券ノ受拂保管ヲ爲スヘシ

前項ノ代理店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第二條　日本銀行ハ地方ニ統轄店ヲ設ケ其ノ所屬店ニ於ケル政府ノ有價證券受拂ノ事務ヲ統轄スヘシ

前項ノ統轄店及其ノ所屬店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第三條　日本銀行ハ政府ノ有價證券ト其ノ他ノ有價證券トヲ混同シテ保管スルコトヲ得ス

第四條　日本銀行ハ政府ノ有價證券ヲ該證券ノ受拂ヲ爲スヘキ日本銀行當該店ニ於テ保管スヘシ但シ大藏大臣ノ特ニ指定シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　日本銀行ハ政府ノ有價證券ヲ政府所有ノ有價證券ト政府保管ノ有價證券トニ區分シ政府保管ノ有價證券ハ更ニ之ヲ保管有價證券、供託有價證券及預金購入有價證券ノ區分ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二章　政府所有ノ有價證券

第六條　日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第三條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券受託證書ヲ當該官廳ニ交付スヘシ

第七條　日本銀行政府所有有價證券利子又ハ償還金ノ受入ヲ要スルモノアルトキハ當該官廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八條　日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第四條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ受ケタルトキハ第九號書式ノ政府所有有價證券利札請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ交付スヘシ

第三章　政府保管ノ有價證券

第一節　保管有價證券

第十條　日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第七條ノ規定ニ依リ政府保管有價證券振込書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ受入レ第二號書式ノ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ交付スヘシ

第十一條　日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第九條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政府保管有價證券提出書又ハ政府保管有價證券內謹書ヲ添ヘ有價證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受託證書ヲ取扱官廳ニ交付スヘシ

第十二條　日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十條ノ規定ニ依リ保管スルモノナル旨ノ通知ヲ受ケタル有價證券ニシテ時效ニ依リ其ノ權利消滅セムトスルモノニ付テハ元利金受入ノ手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ當該取扱官廳ニ通知スヘシ

第十三條　日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十三條第三項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ提出者ニ拂渡スヘシ

第十四條　日本銀行前條ノ場合ニ於テ保管有價證券ノ一部拂渡ヲ爲シタルトキハ政府保管有價證券取扱規程第十三條第二項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ一部拂渡ヲ爲シタル旨ヲ記入シ之ヲ取扱官廳ニ返付スヘシ

第十五條　日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十五條第一項ノ規定ニ依リ寄託替ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ自店カ乙官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ乙官廳ノ受託替ノ手續ヲ爲シ政府保管有價證券受託證書ヲ乙官廳ニ送付シ、他店カ乙官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ寄託替書及供託書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタル日本銀行ハ乙官廳ノ保管有價證券受託證書ヲ乙官廳ニ送付シ、他店カ乙官廳ノ前項ノ通知ヲ受ケタル日本銀行ハ乙官廳ノ保管有價證券口座ニ受入ノ手續ヲ爲シ政府保管有價證券受託證書ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第二節　供託有價證券

第十七條　日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第二條ノ規定ニ依リ供託有價證券寄託書及供託書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタルトキハ供託書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付シ第四號書式ノ供託有價證券受託證書ヲ供託局ニ送付スヘシ

第十八條　日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第三條ノ規定ニ依リ供託有價證券拂渡請求書又ハ供託局ノ證明ヲ爲シタル請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ提出者ニ拂渡スヘシ

前項ノ場合ニ於テ代供託請求書ノ添附アルトキハ該供託有價證券ノ償還金ノ受領ニ必要ナル手續ヲ爲シ之ヲ供託金トシテ取扱ヒ代供託請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付スヘシ

第十九條　日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第四條ノ規定ニ依リ供託有價證券利札請求書又ハ供託局ノ證明ヲ爲シタル請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ提出者ニ交付スヘシ

第二十條　日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第五條ノ規定ニ依リ供託有價證券利息（配當金）請求書及附屬供託請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ノ利息（配當金）ノ受領ニ必要ナル手續ヲ爲シ之ヲ供託金トシテ取扱ヒ附屬供託請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付スヘシ

第三節　預金購入有價證券

第二十一條　日本銀行預金部預金取扱規程第十八條第一項ノ規定ニ依リ預ケ人ヨリ有價證券購入請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ預金現在額ノ證明ヲ爲シ本店ヲ經由シテ之ヲ大藏省預金部ニ送付スヘシ

第二十二條　日本銀行本店預金部預金取扱規程第十九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ大藏省預金部ヨリ有價證券購入ノ通達ヲ受ケタルトキハ之ヲ購入シ其ノ額面金額及購入代價ヲ大藏省預金部ニ通知スヘシ

第二十三條　日本銀行本店預金部預金取扱規程第二十一條ノ規定ニ依リ大藏省預金部ヨリ有價證券購入濟通知書ヲ受ケタルトキハ第五號書式ノ預金購入有價證券保管通知書ヲ添ヘ之ヲ預ケ人ヨリ有價證券購入ノ請求ヲ受ケタル日本銀行當該店ニ送付スヘシ

前項ノ書類ヲ受ケタル日本銀行ハ日本銀行國庫金取扱規程第五十六條ノ手續ヲ爲シ有價證券購入濟通知書ヲ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十四條　日本銀行預金部預金取扱規程第二十二條ノ規定ニ依リ預ケ人ヨリ預金購入有價證券拂戻請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ押捺セル印章ヲ照査シ之ヲ本店ニ送付スヘシ

第二十五條　日本銀行預金部預金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依リ預ケ人ニ送付スヘシ

日本銀行本店前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ當該店ニ送付スヘシ

前項有價證券ノ送付ヲ受ケタル日本銀行ハ預金購入有價證券受領證書ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

第二十六條　日本銀行本店預金購入有價證券ノ元利金ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ之カ受領ニ必要ナル手續ヲ爲シ第六號書式ノ預金購入有價證券利子受入通知書又ハ預金購入有價證券償還金受入通知書ヲ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十七條　日本銀行預金部預金取扱規程第三十條ノ規定ニ依リ預ケ人ヨリ有價證券保管帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ第七號書式ノ預金購入有價證券保管帳ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

第四章　帳簿

第二十八條　日本銀行ハ會計規則第百六十條第六號ノ帳簿トシテ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　政府有價證券總括帳
二　政府有價證券受拂內譯帳
三　政府有價證券受拂總括帳
四　政府有價證券受拂報告額整理帳
五　政府所有有價證券內譯帳
六　政府保管有價證券內譯帳

前項ノ帳簿中第一號及第二號ノ帳簿ハ之ヲ日本銀行本店ニ、第四號ノ帳簿ハ之ヲ日本銀行各店ニ備フヘシ

第二十九條　政府有價證券總括帳及政府有價證券受拂總括帳ニハ大藏大臣ノ定ムル計算科目毎ニ各統轄店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十條　政府有價證券受拂內譯帳ニハ政府有價證券總括帳ノ計算科目毎ニ所屬代理店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十一條　政府有價證券受拂報告額整理帳ニハ政府有價證券受拂總括帳ノ計算科目毎ニ所屬代理店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十二條　政府所有有價證券內譯帳ニハ公債證書、株券、證券毎ニ預金部其ノ他各會計、各廳、各主任官別ノ口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十三條　政府保管有價證券內譯帳ニハ公債證書、株券、證券毎ニ保管有價證券、供託有價證券及預金購入有價證券ニ區分シ取扱官廳又ハ供託局ニ係ルモノハ各廳、各主任官別ノ口座、預金部預金購入ニ係ルモノハ預ケ人別ノ口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十四條　第二十八條ノ帳簿ハ之ヲ備フル日本銀行ニ於テ左記各號ニ依リ受拂額ヲ記入スヘシ

一　第一號及第二號ノ帳簿ハ各統轄店毎月十日、二十日及末日ノ報告額
二　第三號ノ帳簿ハ代理店ニ於テハ其ノ受拂額、統轄店ニ於テハ其ノ受拂額及所屬代理店毎日ノ報告額
三　第四號ノ帳簿ハ所屬代理店毎日ノ報告額
四　第五號及第六號ノ帳簿ハ各店ニ於ケル受拂額

第三十五條　本章ニ規定スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第五章　計算報告

第三十六條　日本銀行ハ政府有價證券ノ受拂ニ關シ左ノ計算報告表ヲ調製スヘシ

一　政府有價證券受拂報告表　第八號書式
二　政府所有有價證券月計突合表　第九號書式
三　保管有價證券月計突合表　第十號書式
四　供託有價證券月計突合表　第十一號書式
五　預金購入有價證券受拂計算表　書式ハ別ニ之ヲ定ム
六　某月政府有價證券受拂計算書

第三十七條　政府有價證券受拂報告表ハ日本銀行本店ニ於テ統轄店ノ報告額ニ依リ毎日之ヲ調製シ大藏省ニ提出スヘシ

第三十八條　政府所有有價證券月計突合表ハ日本銀行各店ニ於テ其ノ取扱ヒタル政府所有有價證券ノ受拂額ヲ揭ケ毎月之ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ取扱主任官ニ送付シ其ノ證明ヲ受ケ添附シタル證憑書類ト共ニ之カ返付ヲ受クヘシ

第三十九條　保管有價證券月計突合表又ハ供託有價證券月計突合表ハ日本銀行各店ニ於テ其ノ取扱ヒタル受拂額ヲ揭ケ毎月之ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ取扱主任官ニ送付シ其ノ證明ヲ受ケ添附シタル證憑書類ト共ニ之カ返付ヲ受クヘシ

第四十條　預金購入有價證券受拂計算表ハ日本銀行本店ニ於テ其ノ取扱ヒタル受拂額及所屬代理店ノ取扱ヒタル受拂額ヲ揭ケ毎月之ヲ調製シ翌月五日迄ニ大藏大臣ノ指定スル官吏ニ送付シ其ノ證明ヲ受ケ添附シタル證憑書類ト共ニ之カ返付ヲ受クヘシ

第四十一條　某月有價證券受拂計算書ハ各統轄店ニ於テ其ノ取扱ヒタル受拂額及所屬代理店ノ取扱ヒタル受拂額ヲ揭ケ毎月之ヲ調製シ日本銀行本店ヲ經由シテ翌月中ニ大藏省ニ提出スヘシ

第六章　受拂證明

第四十二條　日本銀行ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル爲會計檢査院ノ定ムル政府有價證券受拂計算書ヲ調製シ大藏大臣ノ定ム

ル期限内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第七章　雜　則

第四十三條　日本銀行ニ於テ政府所有有價證券取扱規程第七條又ハ供託有價證券取扱規程第六條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券寄託書又ハ供託有價證券寄託書ノ誤謬訂正ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ訂正ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十四條　日本銀行ニ於テ政府所有有價證券取扱規程第八條、政府保管有價證券取扱規程第六條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券受託證書、政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ亡失又ハ毀損ニ關スル證明請求書ヲ受ケタルトキハ之カ調査ヲ爲シ其ノ餘白ニ證明ノ上之ヲ返付スヘシ

第四十五條　日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル政府所有有價證券、保管有價證券、供託有價證券又ハ預金購入有價證券ノ受拂ニ關スル證憑書類ヲ受拂ニ區分シ、公債證書、株券、證券每ニ更ニ政府所有ノモノト政府保管ノモノトニ區分シ、政府所有ノモノハ之ヲ各官廳別ニ、政府保管ノモノハ之ヲ保管、供託、預金購入ノ三種ニ分チ保管、供託ノ分ハ之ヲ各官廳別ニ一月分ヲ取纏メ合計書ヲ調製シ共ニ保存スヘシ但シ代理店ニ於テ調製シタルモノハ其ノ證憑書類ト共ニ所轄統轄店ニ於テ保存スルモノトス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式　政府所有有價證券受託證書（用紙寸法半紙判半截）

政府所有有價證券受託證書

第　號

下記證券ハ也候託受ニ付

年　月　日

宛官任主扱取廳某

圓（店何）行銀本日

別種券證	枚數	額面券	號番記別數、面同及券	備考

備考

一全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三振込カ錯誤ナリシトキ又ハ其ノ必要ナキニ至リシトキハ振込ヲ受ケタル日本銀行ニ提出シ有價證券ノ返付ヲ請求スヘシ

第二號書式　政府保管有價證券振込濟通知書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券振込濟通知書

第　號

振込人名

下記證券證憑書類ノ有價證券ヲ振込ミタルニ付相違ナキ也

年　月　日

宛官任主扱取廳某

圓（店何）行銀本日

別種券證	枚數	額面券	號番記別數、面同及券	備考
上記證券ハ保管ノ爲メ提出ニ付領收候也				
年　月　日				住所 氏名　圓
宛官任主扱取廳某				
上記證券ハ保管ノ爲メ提出ニ付領收候也				
年　月　日				住所 氏名　圓
宛官任主扱取廳某				
上記證券ハ相違ナク渡方相成度候也				
年　月　日				住所 氏名　圓
日本銀行（何）店宛				

備考

一全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三振込カ錯誤ナリシトキ又ハ其ノ必要ナキニ至リシトキハ振込ヲ受ケタル日本銀行ニ提出シ有價證券ノ返付ヲ請求スヘシ

第三號書式　政府保管有價證券受託證書（用紙寸法半紙判半截）

政府保管有價證券受託證書

第　號

保管日附　　下記證券受託候也

年　月　日

提出者氏名

日本銀行(何店)㊞

某廳取扱主任官宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及同數別	備考

上記證券拂渡相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名㊞

日本銀行(何店)宛

上記證券領收候也

年　月　日

住所

氏名㊞

日本銀行(何店)宛

備考

一全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

三遺失物法ニ依ルモノナルトキハ日本銀行カ拂渡ヲ爲スヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

第四號書式　供託有價證券受託證書（用紙寸法半紙判半截）

供託有價證券受託證書

第　號

供託日附　　下記證券受託候也

年　月　日

供託者氏名

日本銀行(何店)㊞

某供託局長宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及同數別	備考

備考

一全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ

二利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五號書式　預金購入有價證券保管通知書（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券保管通知書

第　號

下記公債證書預金ヲ以テ購入保管候也

年　月　日

日本銀行㊞

某廳取扱主任官（又ハ何々理事 若ハ何々總代）宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及同數別

第六號書式　預金購入有價證券利子（償還金）受入通知書（用紙寸法縦六寸五分横四寸五分）

預金購入有價證券利子（償還金）受入通知書

金

年　月　渡利子（償還金）

内譯下記ノ通

預金取扱店名

預金購入有價證券保管通知書日附

預金購入有價證券保管通知書番號

上記金額領收シ貴殿ノ預金ニ元加濟ニ付日本銀行何店ヘ本書提出ノ上預金部預金領收證書ノ交付ヲ受ケラルヘク候也

年　月　日

日本銀行㊞

某廳取扱主任官（又ハ何々理事 若ハ何々總代）宛

内譯

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及同數別

第七號書式　預金購入有價證券保管帳（用紙寸法適宜）

局　金　貯

帳管保券證價有入購金預

行　銀　本　日

公債證書（又ハ證券）

年月日	摘要	受		拂		殘	
		枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額

第八號書式　政府有價證券受拂報告表（用紙寸法美濃判四分ノ一）

政府有價證券受拂報告表

日本銀行回　　年　月　日

科目	受		拂		備考
	枚數	券面額	枚數	券面額	

第九號書式　政府所有有價證券月計突合表（用紙寸法美濃判四分ノ一）

政府所有有價證券月計突合表

年　月　中　　年　月　日

日本銀行（何店）回　證憑書枚數　取扱主任官官氏名　取扱官廳

種別	受		拂	
	枚數	券面額	枚數	券面額

證明ス

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名回

第十號甲書式　保管有價證券月計突合表

（用紙寸法美濃判四分ノ一）

表合突計月券證價有管保

日　月　年　中　月　年

圖(店何)行銀本日　　數枚書憑證　　名氏官官任主扱取　　廳官扱取

種別	受		拂	
	枚數	券面額	枚數	券面額

證明ス

年　月　日

圖名氏官官任主扱取廳某

第十號乙書式　供託有價證券月計突合表

（用紙寸法美濃判四分ノ一）

表合突計月券證價有託供

日　月　年　中　月　年

圖(店何)行銀本日　　數枚書憑證　　名氏長局託供

種別	受		拂	
	枚數	券面額	枚數	券面額

證明ス

年　月　日

圖名氏長局託供某

第十一號書式　預金購入有價證券受拂計算表

（用紙寸法美濃判四分ノ一）

表算計拂受券證價有入購金預

日　月　年　中　月　年

圖(店何)行銀本日　　數枚書憑證　　名氏官吏官閱檢

種別	受		拂	
	枚數	券面額	枚數	券面額

證明ス

年　月　日

圖名氏官吏官閱檢

備考　明治三十九年勅令第二百十一號ニ依ル預託公債證書ハ種別中別行ニ記入スヘシ

●供託法

法律第十五號　明治三十二年二月八日

改正　大正一〇年第六九號

第一條　法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管ス

第一條ノ二　前條ノ規定ニ依ル供託ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第一條ノ三　利害關係人ハ供託官吏ノ處分ニ對シ供託局ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第一條ノ四　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ供託官吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第一條ノ五　供託官吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ書類ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第一條ノ六　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ供託官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ供託官吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第一條ノ七　前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ニ付爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條　供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條　供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ付スルコトヲ要ス

第四條　供託局ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但シ保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條　司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者又ハ銀行ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條　倉庫營業者又ハ銀行ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作リ供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條　倉庫營業者又ハ銀行ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條　供託物ノ還付ヲ請求スル者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ其權利ヲ證明スルコトヲ要ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條　供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無效トス

第十條　供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託者ハ其權利ヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附　則

第十一條　本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條　第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條　明治二十三年勅令第百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（大正十年四月十二日法律第六十九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月一日勅令第二十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

本法施行前爲シタル供託ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（同前勅令ニ依リ本法施行前爲シタル金錢又ハ有價證券ノ供託ニ付テハ供託物ノ還付又ハ下戻、代供託、附屬供託及利札又ハ利息ノ交付ニ關スル事務ハ大正十一年四月一日ヨリ同年十二月二十八日ニ至ル迄ノ間日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム）

供託局所在地外ニ於テハ司法大臣ハ當分ノ內其ノ適當ト認ムル銀行ヲシテ第一條ノ規定ニ依ル供託事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七章　預金、保管及供託　五四九
第八章　供託物取扱規則　五四八

●供託物取扱規則

司法省令第一號
大正十一年三月一日

第一條　金錢及有價證券ノ供託ニ關スル手續ヘ本令ニ依ル

第二條　供託ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第二號書式ノ供託通知書ヲ添附スヘシ

第三條　供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　供託者ノ氏名住所、官吏公吏ニ在テハ其ノ職務上爲ス公署ノ名稱及所屬官公署ノ官職氏名

二　於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

三　供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號番號枚數券面額及拂込額

四　供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

五　供託物ヲ受取ルヘキ者ノ表示若シ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

六　反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託條件ノ成就ニ關スル事項

第四條　供託物受入ノ記載ヲ爲スヘキトキハ供託局ニ提出スヘシ

第五條　供託物受入ノ記載ヲ爲スヘキトキハ供託規則第十條ノ規定ニ依ル證明書類所ノ命令書

反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六條　供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書（供託物ノ有價證券アルトキハ請求書二通）ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一　供託書受入ノ記載アル供託書

二　辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三　辨濟供託ニ在リテハ供託者カ供託ニ因リ債權ヲ取得シタル者ニ對シ供託ノ事由ヲ通知シタルコトヲ證スル書類

四　法令ニ依リテ定マリタル供託ニ在リテハ其ノ供託ヲ爲スヘキ事由ヲ證スル書類

五　裁判ニ依リテ定マリタル供託ニ在リテハ裁判ノ執行力アル正本又ハ裁判所ノ命令書

六　供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八條　供託物受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ紛失シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第二十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第三十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第四十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第六十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第七十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第八十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第九十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百二十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百三十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十六條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十七條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十八條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百四十九條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五十條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五十一條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五十二條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五十三條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五十四條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書ヲ添附スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第百五十五條　供託物取戻請求書ニハ供託書受入ノ記載アル供託書又ハ供託通知書

供託官吏ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

第十一條　配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第七號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ送付シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第八號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ

分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ供託官吏ハ第八條及第九條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第九號書式ノ供託有價證券利札請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ利札ヲ受取ラシムヘシ

第十三條　供託金ノ利息ハ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息ノ受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

保證トシテ金錢ヲ供託シタル場合ニ於テ供託カ一年以上繼續スルトキハ其ノ利息ハ毎年六月ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ者ニ拂渡スヘシ

第十四條　前條第一項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ供託金利息請求書二通、同條第二項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十一號書式ノ供託金利息請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ前項ノ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ利息ヲ受取ラシムヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第一號書式（用紙半紙數二枚以上ニ及フトキハ契印スルコト）

供　託　書（金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルコト）

住　所
供託者　何　某（第三者ニ於テ供託スルトキハ供託者第三者ト記入スルコト）

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也（尚全額拂込未濟ノモノハ其拂込額ヲ記載スルコト）

但シ何年何月又ハ何期渡以降利札付

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也　同上

又ハ

一何々　同上

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

供託ノ原因タル事實

供託スヘキ法令ノ條項

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定又ハ之ヲ確知シ得サル事由

反對給付ノ目的物其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

裁判所其ノ他官廳ノ名稱及件名

右供託ス

年　月　日

右　何　某　印

供託局宛

右日本銀行ニ於ケル供託局口座ニ拂込ムヘシ

年　月　日

受入書式

右受入ヲ證ス

年　月　日

供託局㊞

奥書ノ式

前書ノ金額（有價證券）受領候也

年　月　日

住所

受取人　何　某㊞

供託局宛

日本銀行㊞

内渡書式

内

一金何圓也

右年月日内渡ヲ了ス

年　月　日

供託局㊞

又ハ

一何圓公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也　同上

又ハ

一何々　同上

（種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添附スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別紙内譯書ノ通リ記入シ内譯書ト契印スルコト）

右年月日内渡ヲ證ス

年　月　日

日本銀行㊞

第二號書式

供託通知書

一金何圓也

右ハ何々ノ事由ニ因リ何供託局ニ供託致候間御受領相成度此段及通知候也

年　月　日

住所

何　某㊞

住所

何某殿

第三號書式

代供託請求書又ハ附屬供託請求書（代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ作成スルコト）

供託番號第　號

一金何圓也

何々公債證書（何會社株券）何圓何年何月（何期）渡利息（配當金）（何年何月償還金）

前書ノ金額代供託（附屬供託）トシテ御受入相成度（別紙委任狀相添）及請求候也

年　月　日

供　託　局　宛

右代供託（附屬供託）トシテ受入手續ヲ爲ス（ヘキモノトス）

年　月　日

住所
何　某㊞

受入書式

右受入ヲ證ス

年　月　日

供　託　局㊞

奥書ノ式

前書ノ金額受領候也

年　月　日

日本銀行㊞

供　託　局　宛

內渡書式

內

一金何圓也

住所
何　某㊞

右　年　月　日內渡ヲ了ス

年　月　日

供　託　局㊞

第四號書式

供託物還付請求書（供託書一通毎ニ作成スルコト）

供託番號第　號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也　同上

又ハ

一何々　同上

前書ノ金額（有價證券）何々ノ事由ニ因リ還付相成度別紙供託書及證明書類相添ヘ請求候也

年　月　日

住所
受取人　何　某㊞

供　託　局　宛

右還付ヲ認可ス

年　月　日

供　託　局㊞

第五號書式

供託物取戻請求書（供託書一通毎ニ作成スルコト）

供託番號第　號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也　同上

又ハ

一何々　同上

前書ノ金額（有價證券）何々ノ事由ニ因リ下戻相成度別紙供託書及證明書類相添及請求候也

年　月　日

住所

供託者　何　某　㊞

供託局　宛

右取戻ヲ認可ス

年　月　日

供託局　㊞

第六號書式

供託金支拂通知書

供託番號第　號

一金何圓也

右者ニ對シ前記ノ金額拂渡相成度候也

年　月　日

日本銀行（支拂店）宛

住所

受取人　何　某　㊞

右受領候也

年　月　日

住所

何　某　㊞

日本銀行（支拂店）宛

第七號書式

支拂委託書（供託書一通毎ニ作成スルコト）

供託局　㊞

供託番號第　號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也　同上

又ハ
一何々　同上
内
一金何圓也
又ハ
一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚
又ハ
一何會社株券額面何圓也　同上
又ハ
一何々　同上

住所
受取人　何　某

内
一金何圓也
又ハ
一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚
又ハ
一何會社株券額面何圓也　同上
又ハ
一何々　同上

住所
受取人　何　某

右ハ何々ノ事由ニ因リ内譯ノ通分割拂渡スコトヲ要スルニ付別紙供託書相添及請求候也

年　月　日

住所
供託者　何　某　印

第八號書式

供託局宛

證明書

住所
受取人　何　某

供託番號第　號
一金何圓也
又ハ
一何々公債證書額面何圓也　何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚
又ハ
一何會社株券額面何圓也　同上
又ハ
一何々　同上
右者前記ノ金額(有價證券)ノ拂渡ヲ受クヘキモノナルコトヲ證ス

年　月　日

住所
供託者　何　某　印

右拂渡ヲ認可ス

年　月　日

第九號書式

供託有價證券利札請求書

供託番號第　號

何年何月渡

一何々公債證書何圓券附屬利札　何枚

又ハ

一何々附屬利札　何枚

右及請求候也

年　月　日

供託局宛

住所

何某㊞

右拂渡ヲ認可ス

年　月　日

供託局

供託局㊞

右受領候也

年　月　日

住所

受取人　何某㊞

日本銀行宛

第十號書式

供託金利息請求書

供託番號第　號

供託金何圓ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年　月　日

住所

受取人　何某㊞

供託局宛

一金何圓也

（金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息）

右拂渡ヲ認可ス

年　月　日

供託局

供託局㊞

右受領候也

年　月　日

住所

受取人　何某㊞

日本銀行宛

第十一號書式

供託金利息請求書

供託番號第　號

供託金何圓（但シ何年何月何日供託受入濟）ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年　月　日

供託局宛

受取人　住所　何某㊞

一金何圓也

（金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息）

右拂渡ヲ認可ス

年　月　日

供託局㊞

右受領候也

年　月　日

受取人　住所　何某㊞

日本銀行宛

（參照）

●銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ關スル件（大正十一年三月一日司法省令第四號）

●供託法第六條ニヨル供託書式（明治三十三年八月三日司法省告示第三十九號）

●供託事務ヲ取扱ハシムル日本銀行取扱店指定（大正十一年三月二十七日司法省令第六號及同年三月三十一日司法省令第七號）

●供託金利息割合

司法省令第三號　大正十一年三月一日

供託法第三條ニ依ル供託金ノ利息ハ一箇年三歩六厘ト定ム

前項ノ利息ハ供託金受入ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス供託金ノ一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●供託物ノ還付各取戻ヲ請求スル場合ニ關スル件

勅令第七十五號　大正十一年三月三十日

供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル者カ其ノ還付又ハ取戻ノ請求ニ付司法大臣ノ定ムル書類ヲ提出スルコト能ハサル場合ニ於テ供託官吏必要ト認ムルトキハ請求者ヲシテ其ノ還付又ハ取戻ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ現金又ハ國債ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ供託官吏カ司法大臣ノ定ムル公告ノ手續ヲ爲ストキハ供託官吏ハ請求者ヲシテ公告費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

前二項ニ規定スル司法大臣ノ職務ハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

備考　本令ニ關スル特例（大正十二年月二十六日勅令第四百五十九號）

●供託有價證券取扱規程

大藏省令第九號　大正十一年二月一日

第一條　供託局ノ保管ニ係ル供託有價證券ハ之ヲ日本銀行ニ寄託スヘシ

第二條　供託局前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ供託有價證券寄託書（書式ハ政府所有有價證券寄託書ニ準ス）及供託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ供託有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第三條　供託局日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券拂渡請求書（書式ハ政府所有有價

證券取扱規程第二號書式政府所有有價證券拂渡請求書ニ準ス）ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ供託有價證券ノ還付又ハ取戻ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券拂渡請求書ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ供託局代供託ヲ認可シタルトキハ代供託請求書ヲ前項ノ拂渡請求書ニ添附スヘシ

第四條　供託局供託有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券利札請求書（書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式政府所有有價證券利札請求書ニ準ス）ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ附屬利札ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券利札請求書ニ代フルコトヲ得

第五條　供託局供託有價證券ノ利息又ハ配當金ニ付附屬供託ヲ認可シタルトキハ供託有價證券利息（配當金）請求書（書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式政府所有有價證券利札請求書ニ準ス）及附屬供託請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第六條　政府所有有價證券取扱規程第二條及第六條乃至第十條ノ規定ハ供託有價證券ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八章　寄附及讓與

●國恩冥加ノ爲メ米金献納ヲ止メ學校病院等ノ費用寄附ハ地方官聞屆

勅令第十七號　明治五年正月二十二日

大政官布告

是迄御國恩冥加ノ爲メ米金献納願出候者不少候處自今被差止候尤【鄕學】ヲ開キ病院ヲ興シ或ハ水利堤防其他一切ノ諸工作及ヒ濟貧恤窮等ノ費用ヲ差出度志願之者ハ奇特ノ儀ニ付於地方官聞屆其ノ施設ノ方法委細取調可申出事

●電信電話施設ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テスル金錢ノ寄附ニ關スル件

勅令第百二十三號　明治四十二年五月一日

政府ハ電信電話施設ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テスル金錢ノ寄附ヲ受クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄附ニ係ル無線電信用物件ノ無償讓與ニ關スル件

勅令第十六號　大正六年二月八日

遞信大臣ハ無線電信ヲ取扱フ電信官署ヲ廢止スルニ際シ其ノ使用物件中寄附ニ係ルモノナルトキハ該寄附者ニ無線電信ノ私設ヲ許可スル場合ニ限リ之ヲ其ノ施設者ニ讓與スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣ニ於ケル物件寄附ニ關スル件

勅令第二百二十六號　明治三十四年十二月十四日

臺灣ニ於テ用途指定ノ寄附ヲ受ケムトスルトキハ臺灣總督其ノ受納ノ手續ヲ爲スヘシ

會計法規集 終

第八章　寄附及讓與　國有財產法

（大正四、勅令八六號　第五章契約參照）

●國有財產法

（大正一〇、法律四三號　第六章物品及國有財產參照）

寄附及讓與　北海道一二級町村制施行ノ際國有土地建物物件付與ノ件　北海道官設驛遞所土地建物物件無償付與ノ件　樺太ニ於テ施行スル內國貿易設備ニ關スル件　樺太ニ於ケル土地及森林原野產物無償貸付又ハ讓與ニ關スル件

寄附ニ係ル物件不用ニ歸シタルトキハ之ヲ寄附者ニ還付スルコトヲ得

●北海道一二級町村制施行ノ際國有土地建物物件付與ノ件

內務大臣ハ北海道一級町村制及北海道二級町村制ノ實施ニ際シ從來戶長役場其ノ他公用ニ供シタル國有ノ土地建物物件ニシテ不用ニ歸シタルモノヲ無償ニテ其ノ事務ヲ繼承スル町村ニ付與スルコトヲ得

●北海道官設驛遞所土地建物物件無償付與ノ件

勅令第二十二號　明治三十六年三月十四日

北海道廳長官ハ官設驛遞所存立ノ必要ナシト認ムル場合ニ於テハ五箇年以上引續キ其ノ驛ニ在勤シ功勞顯著ナル驛遞取扱人ニ該驛舍、敷地、牧場及馬匹其ノ他ノ附屬物件ヲ無償ニテ付與スルコトヲ得

相續人カ引續キ驛遞取扱人タルトキハ其ノ勤務年數ニ前驛遞取扱人ノ勤務年數ヲ通算ス

●種綿羊ノ賣買及貸渡隨意契約竝無償付與ノ件

（大正六、勅令二三三號　第五章契約參照）

●國ニ於テ施行スル內國貿易設備ニ關スル港灣工事ニ因リ生スル土地又ハ工作物ノ下付又ハ貸付及使用料ノ徵收ニ關スル件

（大正九、勅令八二號　第五章契約參照）

●陸軍ニ於ケル豫備馬ノ無償貸渡及無償付與ノ件

（大正一〇、勅令四一五號　第五章契約參照）

●樺太ニ於ケル土地及森林原野產物無償貸付又ハ讓與ニ關スル件

大正十三年十二月十八日印刷
大正十三年十二月二十日發行

不許複製

發行兼印刷者　朝陽會長　池田敬八
東京市麹町區大手町二丁目二番地

印刷所　文康社
東京市牛込區早稻田鶴卷町一四一番地

發行所　朝陽會
麹町區大手町二丁目二番地（印刷局內）
振替口座東京四三六〇番

定價金參圓五拾錢

一手販賣所
東京市京橋區八官町八番地
博文堂
電話銀座長一七四三番
振替口座東京二七七八八番

賣捌所
大阪市西區靱上通二丁目十六番地
博文堂合資會社
電話土佐堀長七八四番
振替口座大阪一二〇一五番